

**日本リスクマネージャネットワーク（JRMN）
2024 年度 事業報告書**

令和 7 年 2 月

目次

1. はじめに	1
2. 組織・執行体制・会員数	7
3. 事業報告	8
3.1 環境リスク等勉強会	8
3.2 情報交換会(意見交換会)	12
3.3 ディスカッショングループ	17
3.4 知の市場	27
3.5 日本リスク学会との共催の公開セミナー	32
3.6 日本リスク学会との連携	43
3.6.1 共催公開セミナーについて	43
3.6.2 日本リスク学会リスクマネージャ委員会の活動	49
3.7 サイエンスフェア in 兵庫	52
3.8 講師派遣	64
3.9 講演会開催(JRMN独自セミナー)	67
3.10 他団体との連携(事業計画書になかった項目)	67
3.11 理事見学会(事業計画書になかった項目)	74
4. 会の運営	82
4.1 総会	82
4.1.1 定時総会	82
4.1.2 臨時総会	83
4.2 理事会・執行理事会	83
4.2.1 理事会	83
4.2.2 執行理事会	93
4.3 HP活用等	94
4.4 広報	98
4.5 会計	99
4.6 会員交流集会	100
4.7 その他	102

1. はじめに

●2024 事業年の一般社団法人日本リスクマネージャネットワーク（JRMN）事業方針

2022 年に打ち出した事業方針を実情に合わせて一部改変した以下の方針を継続して踏襲する。

1) 力を合わせ、組織の強化
<ul style="list-style-type: none">・ JRMN 会員は、法人理念（現会則）を理解し、揺るぎない基盤の構築を図る・ 会員間の交流を促進し、事業活動における会員のモチベーション向上を図る
2) 会員の研修
<ul style="list-style-type: none">・ 日本リスク学会との協働による CPD 実践・ 自己研鑽に役立つ勉強会・研修会の実施
3) リスクマネージャとしての社会的実践
<ul style="list-style-type: none">・ 社会的実践を通じ JRMN のプレゼンスの向上を目指す・ シーズを生かした社会的実践と進化

●2024 年度活動報告の概要（事業報告）

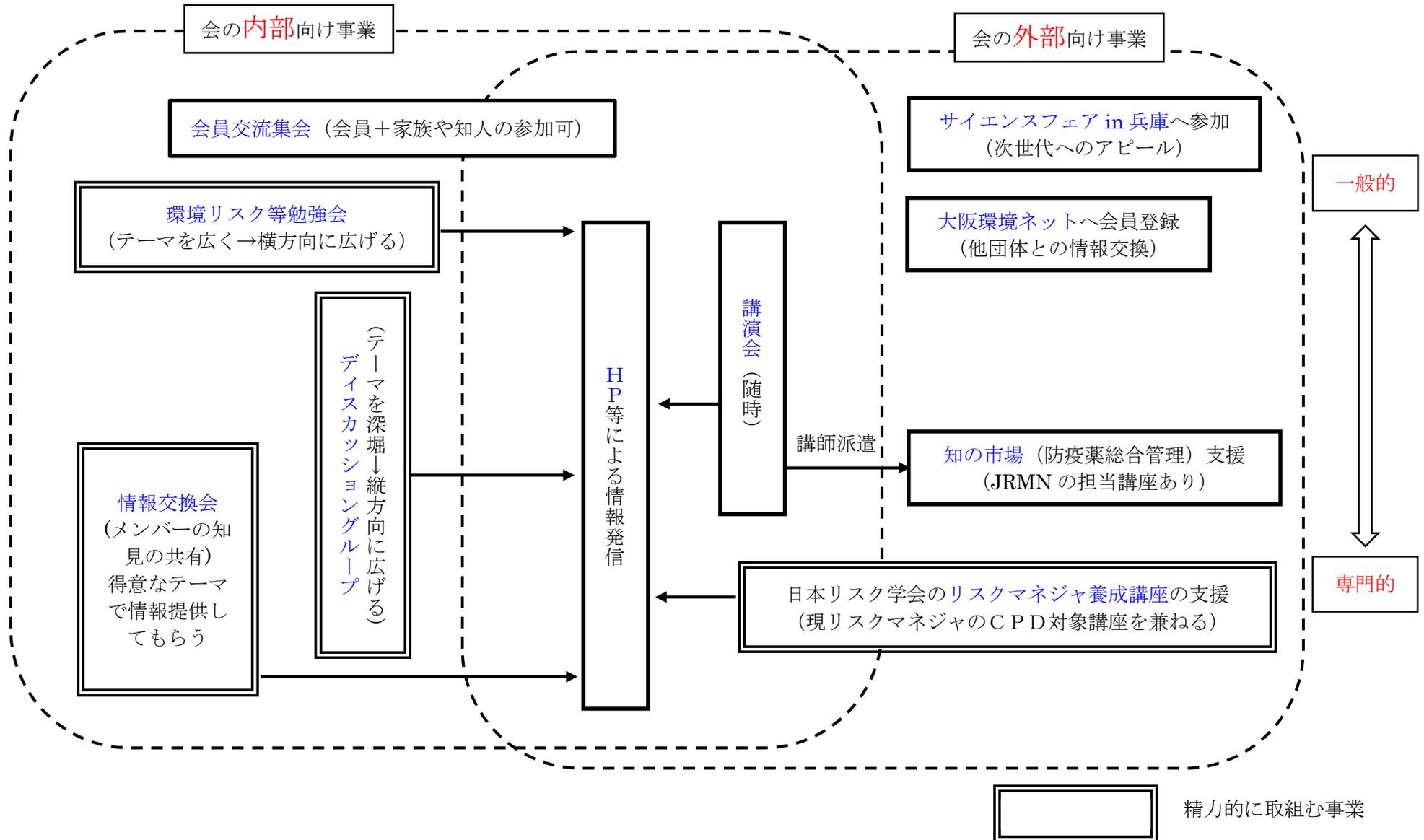
事業項目	事業の計画と報告
【精力的に取り組む事業】	
1. 環境リスク等勉強会 (担当 刑部)	<p>【計画】年4回程度(理事会の開催がない月)で、2年間で2つのテーマについて勉強しまとめる。1回当たり1～2時間とする。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月6日 準備会議 ・6月8日 第1回勉強会 テーマ「地球温暖化（気候変動の最新知見など）」 ・8月10日 第2回勉強会 テーマ「リスク学の基礎と応用」 7月27日開催の共催セミナー「リスク学の考えを身につける」の深堀 ・(10月に「南海トラフ地震臨時情報」とリスク管理で実施予定だったが都合により11月の情報交換会で内容を紹介)
2. 情報交換会 (担当 刑部)	<p>【計画】一人の人から各自の知見をもとに話題提供してもらい、参加した会員のスキルアップにつなげる。今年度は年間で4回程度実施する。理事会の後で1時間程度の時間で実施する</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月11日 砂川理事より「マンションに関して」 ・7月13日 古澤理事より「リスクとリスクマネジメントの基礎」 ・9月14日 池田監事より「2024年版 環境白書他」 ・11月2日 刑部理事より「南海トラフ地震臨時情報」とリスク管理」
3. ディスカッショングループ (担当 東)	<p>【計画】定められたテーマ課題について調査・研究を行い、メンバー間の自由で活発なディスカッションを通じて会の活性化に貢献することを目的とする。</p> <p>【実績】テーマ「核のごみをどうするか」参加者6名+関澤先生（オブザーバー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月31日 準備会議 ・7月25日 第1回ワーキング、 ・8月27日 第2回ワーキング ・9月12日 第3回ワーキング、 ・10月4日 第4回ワーキング ・10月25日 第5回ワーキング、 ・11月28日 第6回ワーキング
【継続的に取り組む事業】	
4. 知の市場「防疫薬総合管理」(担当 西村)	<p>【計画】昨年同様「防疫薬総合講座」にJRMNメンバーの講座を組み込む。</p> <p>【実績】(講義は全14回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月18日より参加者募集(受講者21名) ・9月2日第1回、9月9日第2回、9月30日第3回、10月7日第4回、10月21日第5回、10月28日第6回、11月11日第7回、11月18日第8回、11月25日第9回、12月2日第10回、12月9日第11回、12月16日第12回、12月23日第13回、1月6日第14回
5. 日本リスク学会との共催公開セミナー開催 (担当 東、刑部)	<p>【計画】日本リスク学会との共催で、時代の要請に応えるテーマで公開セミナーを開催することは、社会におけるリスクリテラシーの向上に資するとともに、JRMN会員のリスクマネージャとしての自己研鑽にも有用となる。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月27日に2024年度第1回リスクマネージャ公開セミナー「リスク学の考え方を身につける」を大阪大学中之島センター+ズームで開催 ・11月16日に実施された日本リスク学会第37回大会の一般公開セミナー「伊豆半島の自然災害と地震・津波対策」を2024年度第2回リスクマネージャ公開セミナーとしてオンライン(ズーム)で配信することで実施。 ・2月8日に2024年度第3回リスクマネージャ公開セミナー「基準値から考えるリスク学」を大阪大学中之島センター+ズームで開催(総会までに完了する事業のため記載) ・3回のセミナーとも、建設コンサルタンツ協会のCPD認定セミナーとすることで、リスク管理の考え方を100名以上の人知ってもらうことができた。
6. 日本リスク学会との連携 (担当 東、刑部)	<p>【計画】日本リスク学会のリスクマネージャ委員会との連携により、リスクマネジメントの社会実装および双方の社会的プレゼンス向上を目指す</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月23日 日本リスク学会竹田理事とJRMN執行理事との打合せ ・5月21日 日本リスク学会竹田理事とJRMN執行理事との打合せ ・5月31日 日本リスク学会リスクマネージャ委員会開催(東、刑部出席) ・7月11日 日本リスク学会竹田理事とJRMN執行理事との打合せ <p>新規リスクマネージャ養成講座について議論したが結論には至らなかった。</p>

7.サイエンスフェア in 兵庫 (担当 西村)	<p>【計画】昨年同様「サイエンスフェア in 兵庫」に参加し、スーパーサイエンス指定校の学生と教員に、リスクマネジメントの必要性を理解してもらう。</p> <p>【実績】 2025年1月26日の「サイエンスフェア in 兵庫」に参加が認められ、ポスターでの説明や、ブックレットやリスク管理の実践に関する資料の配布を行った。65名以上の学生・教員にリスクマネジメントについて知ってもらうことができた。</p>
【状況に応じて取組む事業】	
8. 講師派遣 (担当 古澤)	<p>【計画】講師派遣の依頼があった時に対応するため体制、手順を整える。 講師派遣により、環境またはリスク管理に関する知見を提供することで、社会貢献に資する。また、講師となった会員のスキル向上にもつなげていく。</p> <p>【実績】 今年も知の市場「防疫薬総合管理」に講師を2名派遣 ・12月9日 古澤理事「リスクと便益について学ぶ」 ・12月23日 東理事「医薬品による汚染を考える」</p>
9. 講演会開催（JRMN独自セミナー）(担当 東)	<p>【計画】タイムリーなテーマでセミナーを開催することは、社会におけるリスクマネジメントの普及、会員のリスクマネージャとしての自己研鑽、JRMNの社会的存在意義の向上に資する。 今年度は、状況に応じて企画・実施する。</p> <p>【実績】 日本リスク学会との共催の「リスクマネージャ公開セミナー」を充実させるため今年度は実施せず</p>
以下は当初の事業としては記載していなかった項目	
10. 他団体との連携	<p>【実績】NPO 法人大阪環境カウンセラー協会（OECA）との連携で以下の</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪環境ネットへの会員登録（費用は無料） ・環境教育インストラクター応募資格取得セミナー（7月6日～7日）5名参加 ・次項の見学会、勉強会への参加 ・「エコ縁日」（11月9日鶴見緑地で開催）で大阪環境ネットのメンバーとしてワークショップ「葉っぱと遊ぼう CO2を目で見る実験」を実施。参加者16組。
11. 理事見学会・勉強会	<p>【実績】NPO 法人大阪環境カウンセラー協会（OECA）が応募した『2024年度地層処分事業の理解に向けた選択型学習支援事業』に1回目の8月4日～5日はJRMNから理事4名が参加、2回目の10月31日～11月1日は理事3名が参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高レベル放射性廃棄物処理の状況」についての事前学習 青森県八戸駅前ユートリー八戸 5階会議室 ・六ヶ所村の原燃のPRセンターでの学習及び原燃敷地内の低レベル放射性廃棄物埋設センター及び高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターの見学

●2024 年度活動報告の概要（会の運営計画）

運営項目	事業の計画と報告
1. 定期総会 （代表理事、執行理事）	<p>【計画】定款従い前年の事業報告書、決算書の承認・決議を行う。また、慣例に従い今年度の事業計画書、収支予算書の報告・確認を行う。</p> <p>【実績】2月25日 大阪大学中之島センターで実施 会員数27名のうち委任を含め20名（本人出席9名）出席で総会は成立。2023事業年事業報告、決算報告、監査報告について採決し承認された。また、理事会で承認された2024事業計画、予算計画について報告された。</p>
2. 理事会・執行理事会の運営（担当 刑部）	<p>【計画】定期理事会は2か月に1回程度の開催とする。理事会は決議、承認する事項を中心とし、必要に応じて確認・報告事項について協議する。</p> <p>【実績】理事会は次の9回実施した ①1月20日、②2月10日、③3月16日、④4月6日（臨時）、⑤5月11日、⑥7月13日 ⑦9月14日、⑧11月2日、⑨12月14日 また執行理事会は6回実施した ①1月4日、②3月9日、③4月27日、④6月14日、⑤8月21日、⑥11月21日</p>
3. HP活用等 （担当 古澤、刑部）	<p>【計画】事務所移転に伴う住所などの修正、講師派遣などの実績の追加などHPの更新を行う。HPをさらに使いやすくなるための改善を行う。</p> <p>【実績】HPのトップページの修正・追加を実施した。また、活動予定・結果のページを新たに作成し、個々の活動予定・実績がわかるようにした。さらに、会員専用ページでは、データのカテゴリーを、活動計画の項目とリンクするよう組みなおし、随時活動結果をアップした。</p>
4. 広報 （担当 刑部）	<p>【計画】会員へのメールでの広報、JRMN事務局メールアドレスの管理、冊子「環境基礎論」等の活用、会のSNSアカウントの開設検討等を行う。</p> <p>【実績】facebookを開設し、日本リスク学会との共催セミナーの参加者募集に利用した。また、ユーチューブを開設し、日本リスク学会との共催セミナーの参加者募集や会員向けには会員交流会の様子の紹介に利用した。</p>
5. 会計 （担当 久保田・東）	<p>【計画】例年通り、収入の確保、支出の管理、決算書、収支予算書案の作成、監査の準備・対応等を行う。</p> <p>【実績】例年通り実施した。会費の確保のため郵便振り込みによる支払いも可能とし5名の利用があった。</p>
6. 会員交流集会 （担当 西村・遠藤）	<p>【計画】過年度に実施した南山城村での交流会の継続や、対面での総会や講演会等の実施後の懇親会などを開催し、会員会の交流をはかる。</p> <p>【実績】5月4日に南山城村での田植え体験を通して会員交流も行った。</p>
7. その他	<p>【計画】状況に応じ以下の項目についても考えていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 会員情報の更新 2) 法務（定款の変更など） 3) メールマガジン（情報提供の方法） 4) 内規・様式の作成 <p>【実績】「会員に関する内規」「活動記録（一般様式）」等を作成した。</p>

JRMN2024年事業の全体概要図



2024年度 活動実績

年	月	週(日曜～土曜)		日	曜	実績						
						会合	勉強会等	知の市場	その他	備考		
2024 令和 6年	1	第1	～	1/6	2024/1/4	木	執行理事会					
		第2	1/7	～	1/13							
		第3	1/14	～	1/20	2024/1/20	土	理事会				
		第4	1/21	～	1/27	2024/1/21	日				サイエンスフェア兵庫	
	2	第1	1/28	～	2/3							
		第2	2/4	～	2/10	2024/2/10	土	理事会(第2土曜) (事業報告等)				総会対応で第2週
		第3	2/11	～	2/17							
		第4	2/18	～	2/24							
	3	第1	2/25	～	3/2	2024/2/25	日	総会				
		第2	3/3	～	3/9	2024/3/9	土	執行理事会				
		第3	3/10	～	3/16	2024/3/16	土	理事会				
		第4	3/17	～	3/23	2024/3/23	土	学会との打合せ				
		第5	3/24	～	3/30							
	4	第1	3/31	～	4/6	2024/4/6	土	臨時理事会	勉強会準備会			
第2		4/7	～	4/13								
第3		4/14	～	4/20								
第4		4/21	～	4/27	2024/4/27	土	執行理事会					
5	第1	4/28	～	5/4	2024/5/4	土				会員交流集会 南山城村田植え		
	第2	5/5	～	5/11	2024/5/11	土	理事会 情報交換会				第2土曜日	
	第3	5/12	～	5/18								
	第4	5/19	～	5/25	2024/5/21	火	学会との打合せ					
6	第1	5/26	～	6/1	2024/5/31	金	日本リスク学会 リスクマネジメント委員会	ディスカッショングループ DG準備会				
	第2	6/2	～	6/8	2024/6/8	土		第1回勉強会			第2土曜日	
	第3	6/9	～	6/15	2024/6/14	金	執行理事会					
	第4	6/16	～	6/22								
	第5	6/23	～	6/29								
7	第1	6/30	～	7/6	2024/7/6	土				理事勉強会環境 カウンセラーセミナー	7/6～7/7	
	第2	7/7	～	7/13	2024/7/11	木	学会との打合せ					
					2024/7/13	土	理事会 情報交換会				第2土曜日	
	第3	7/14	～	7/20	2024/7/18	木			HPで開講案内			
8	第4	7/21	～	7/27	2024/7/25	木		第1回DG				
					2024/7/27	土		学会共催セミナー				
	第1	7/28	～	8/3								
	第2	8/4	～	8/10	2024/8/4	日				理事勉強会六ヶ 所村原燃見学	8/4～8/5	
					2024/8/10	土		第2回勉強会			第2土曜日	
9	第3	8/11	～	8/17								
	第4	8/18	～	8/24	2024/8/21	水	執行理事会					
	第5	8/25	～	8/31	2024/8/27	火		第2回DG				
	第1	9/1	～	9/7	2024/9/2	月			第1回			
	第2	9/8	～	9/14	2024/9/9	月			第2回			
10					2024/9/12	木		第3回DG				
					2024/9/14	土	理事会 情報交換会				第2土曜日	
	第3	9/15	～	9/21								
	第4	9/22	～	9/28								
11	第1	9/29	～	10/5	2024/9/30	月			第3回			
					2024/10/4	金		第4回DG				
	第2	10/6	～	10/12	2024/10/7	月			第4回			
	第3	10/13	～	10/19								
	第4	10/20	～	10/26	2024/10/21	月			第5回			
12					2024/10/25	金		第5回DG				
	第1	10/27	～	11/2	2024/10/28	月			第6回			
					2024/10/31	木				理事勉強会六ヶ 所村原燃見学	10/31～11/1	
					2024/11/2	土	理事会 情報交換会				第1土曜日	
	第2	11/3	～	11/9	2024/11/9	土				エコ縁日	第2土曜日	
12	第3	11/10	～	11/16	2024/11/11	月			第7回			
					2024/11/16	土		学会共催セミナー				
	第4	11/17	～	11/23	2024/11/18	月			第8回			
					2024/11/21	木	執行理事会					
	第5	11/24	～	11/30	2024/11/25	月			第9回			
12					2024/11/28	木		第6回DG				
	第1	12/1	～	12/7	2024/12/2	月			第10回			
	第2	12/8	～	12/14	2024/12/9	月			第11回			
					2024/12/14	土	理事会 (事業計画等)				第2土曜日	
	第3	12/15	～	12/21	2024/12/16	月						
12					2024/12/20	金	サイエンスフェア関連		第12回			
	第4	12/22	～	12/28	2024/12/23	月			第13回			
	第1	12/29	～	1/4								
	第2	1/5	～	1/11	2024/1/6	土			第14回			

52

21

12

15

6

2. 組織・執行体制・会員数

(刑部：作成済)

1) 組織

2024年度の組織図を次図に示す。業務執行理事ごとの業務分担は現状とあわないことから記載せず、執行理事会を随時開き別途協議している。

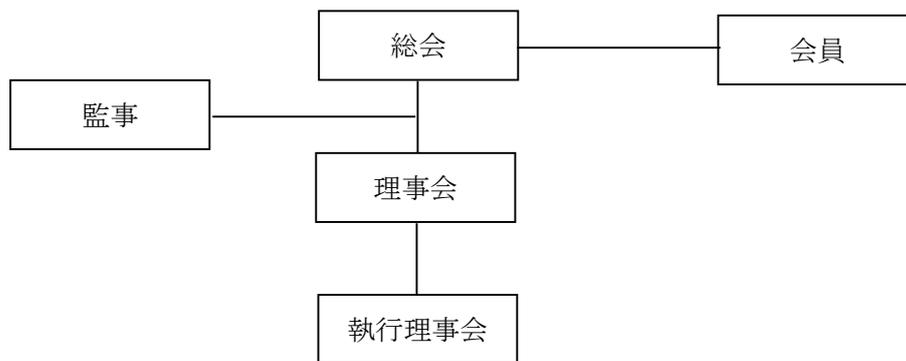


図 2-1 組織図

2) 執行体制

総会及び臨時理事会で2024年度の執行体制は次のとおりとした。

表 2-1 執行体制

	役職	氏名	任期(年度)	備考
理事	代表理事	東 泰好	2023～2024	
	副代表理事	久保田 俊美	同上	
	業務執行理事	西村 庄司	同上	
	業務執行理事	古澤 啓一	同上	
	業務執行理事	刑部 忠彦	同上	
	理事	宮崎 隆介	同上	
	理事	石橋 博	同上	
	理事	遠藤 憲雄	同上	
	理事	砂川 辰彦	同上	
	理事	宇野 健一	同上	
	監事	池田 博幸	2021～2024	

定款上の規定：理事（5～10名）うち 代表理事1名 業務執行理事3名
監事（2名以内）

3) 会員数

2024年度の当初の会員数は27名であったがこれまでに6名の退会があり現時点(2025年2月時点)の会員数は21名である。

3. 事業報告

●精力的に取り組む事業

3.1 環境リスク等勉強会

1) 目的・経緯

環境リスクを体系的に整理、環境リスクの最新の知見に関する勉強会を実施し、会員のレベルの向上をはかる

さらに、勉強した結果を公表することで社会的知見を増やし社会に貢献する。

環境リスクに関する知見は日々更新されており勉強は重要である。

しかし、リスクマネジャの資格をとってから体系的な勉強ができていないのが現状である。

2) 活動内容

当初予定では、年4回程度(理事会の開催がない月)で、2年間で2つのテーマについて勉強しまとめる予定であった。

結果は、回数は準備会を入れて3回実施した。テーマは、日本リスク学会との共催セミナーを年数回実施することとなったことから(例年は1回)、その内容を深掘りすることも重要と考え、セミナーに関するテーマも追加した。1回当たり2時間で実施した。

活動内容は以下のとおりである。

表 3-1 環境リスク等勉強会の活動内容

回	日時	内容	備考
準備会	4月6日	準備会議	理事会の後1hr
第1回	6月8日	テーマ「地球温暖化(気候変動の最新知見など)」	2hr
第2回	8月10日	テーマ「リスク学の基礎と応用」	2hr
(中止)	(10月)	テーマ「南海トラフ地震臨時情報」	11月情報交換会へ

3) 活動成果

準備会、第1回勉強会、第2回勉強会の記録を次ページに示す。

第1回勉強会の資料、教材としたユーチューブ、勉強会の内容を26分程度にまとめた動画等を以下の会員専用HPに掲載した。

[2024.6.8 第1回環境リスク等勉強会 | JRMN Members Site](#)

第2回勉強会の資料、勉強会の内容を26分程度にまとめた動画等を以下の会員専用HPに掲載した。

表 3-2

勉強会の準備会議事録

会議名	環境リスク等勉強会の準備会(2024年4月)		
日時	2024/4/6(土)14:00~15:00(予定) 14:10~15:00(結果)	場所・開催方法	ZOOM
参加予定者	(JRMN会員なら誰でも)		
参加者	東、久保田、石橋、宇野、遠藤、刑部、西村、古澤、宮崎		
予定作成者	刑部	結果記入者	刑部
目的	環境リスク等勉強会の教材や進め方		
資料	環境リスク等勉強会の準備会資料		
	予定	結果	
1. 本日の内容、進め方について	検討項目 主に教材について 目標時間 15時まで		
2. 教材・テーマについて	講演会としては、日本リスク学会のリスクマネージャ養成講座、ユーチューブとしては国立環境研究所、大阪市環境局、総合地球環境学研究所の各チャンネルの環境関係の動画、本としては、リスク学事典などを紹介。各自の意見をきいたところ、教材として産総研のユーチューブ、本としては環境白書などが追加であった。テーマとしては、窒素循環、プラスチック問題、地球温暖化、環境関連法制などがあがった。これらの意見を参考に、担当者で具体化していく。		
3. 日本リスク学会のリスクマネージャ養成講座を教材とした場合の勉強会の内容	講座をみた市民に対するわかりやすい解説(Q&Aなど)と、リスクマネージャからみた感想、意見だしを勉強会の内容とする予定である。その結果を、できればユーチューブで動画投稿する。		
4. 進め方について	まず、動画なら20分~30分を見て、感想、意見の交換、社会へ発信する内容の選定を行う(参加者は準備しなくてよい)。実施してみないとわからないことも多く、進め方は随時検討していく。		
5. 年間予定	次回は「地球温暖化」をテーマとする方向で考える。 8月、10月はリスクマネージャ養成講座を対象とする方向で考える。		
6. 次回の予定	6月8日(土)とする。 テーマは「地球温暖化」とする。		
7. その他	会員向けに、勉強会とディスカッショングループの違いがわかる資料を作成する。 各テーマについてJRMNの見解のようなものを詰めて、社会に発信できることが理想であるとの意見もあった。		
振り返り・課題			

表 3-3

環境リスク等勉強会記録（第1回）

件名	環境リスク等勉強会（2024 第1回）
目的	環境リスク等の最新の知見に関する勉強会を実施し、会員のレベルの向上をはかる。さらに、勉強した結果を公表することで社会的知見を増やし社会に貢献する。 第1回は「地球温暖化」について、IPCCの報告書作成にも携わった国立環境研究所のユーチューブ動画を教材として実施した。
日時	2024年6月8日（土） 13:30～15:30
場所	（開催方法）Zoom
参加者	久保田、西村、古澤、石橋、刑部（5名）
項目	地球温暖化（気候変動の最新知見など）
教材	1) IPCC 報告書 WG1, WG2, WG3 （1:31分のうちの最初の27分） 【IPCC 執筆者と読み解く！】気候変動の最新知見と、これから 2) どうしたらいいのかわかりやすい解説（20分） 【20分でわかる！じゃあ、どうしたらいいの？】地球温暖化のリアル
結果感想	1) IPCC 報告書 ・前回の IPCC の報告書では気温は 0.6℃の上昇であったが、5年後の現在では 1.1℃の上昇になり、現在の排出量のままでは 2030 年には 1.5℃の上昇の許容排出量になると数字で知ることができたが、待ったなしだ。 ・企業は ISO の認証で気候変動に関しても評価が必要となっているなど対応の必要性が広まっている。 ・化石燃料を使用しないため、オール電化にしている人が複数いた。 ・日本では電化しても発電所からの CO2 排出の割り当てがあり、制度的に課題がある。 ・化石燃料の使用は、日本だけで行っても効果が小さく、世界的取り組みが必要だが途上国では対策は進んでいない。 ・既得権益を手放さないものが多く進んでいない 2) どうしたらいいかの考え方の一例 ・太陽光発電しているが蓄電池は経済的にペイしないが、今回学んだことから、蓄電池の導入も考えていこうと思った。 ・太陽光発電に加え蓄電池も持っている人がいた。蓄電した電力は、昼間は買電がないようなプログラムとすることが大切とのアドバイスがあった ・大阪府は温室効果ガス排出ゼロを宣言していることを知った ・今後を考えるには子供たちへの啓発が重要で、以前やっていた学校での講演などを再び実施したい。
懸案事項 予定等	
備考	

表 3-4

環境リスク等勉強会記録（第2回）

件名	環境リスク等勉強会（2024 第2回）
目的	環境リスク等の最新の知見に関する勉強会を実施し、会員のレベルの向上をはかる。さらに、勉強した結果を公表することで社会的知見を増やし社会に貢献する。 第2回は7月27日開催の日本リスク学会共催セミナー「リスク学の考えを身につける」の資料を教材として実施した。
日時	2024年8月10日（土） 13:30～15:30
場所	（開催方法）ズーム
参加者	久保田、西村、宇野、刑部（4名）
項目	リスク学の基礎と応用
教材	話題1）「リスク学を知らないと人生で損をする」（25ページ） 主にP1～4、P18～19、P24、P25（以上8ページ） 話題2 「新しい技術と向き合うために役に立つリスク学の知見」 主にP1、P5～7、P12～13、P19～P22、P25～26、P35～38 （以上13ページ）
結果感想	1）リスク学とワクチン接種、化学物質の基準値について考える ・ワクチン接種は社会的に有効であっても報道の在り方としてどうあるべきか課題である。個人にとってはメリット・デメリットがどうしても気になる。他人にうつさないという点からはワクチンは評価できる。 ・化学物質の基準値について、発生確率は考慮していないが、想定外はあり、想定外を少なくすることが大事である。大気汚染は疫学調査から化学物質の基準値が設定されており、動物実験も考慮していく必要がある。 2）リスク学の実践、リスク学と ELSI について考える ・核のリスクは影響度が非常に大きく、発生確率を下げられているのかが重要。 ・学校での実験などもリスクが大きい。学校の中でのリスク低減をはかるべき。 ・社会的には、地震や情報漏洩などのリスクが大きく、間接的な被害もある。 ・ELSI の面からのリスク対策は個々にできても、総論としては難しい。 ・便利なものが今後も作られていくが開発段階での ELSI は重要である。
懸案事項	
備考	

4) 振り返り・今後の課題等

- ・実質的には開催回数は2回であったが、2回とも資料をもとに、参加者から多様な意見がだされ有意義な勉強会であった。
- ・参加人数が、1回目5名、2回目4名と少なかった。内容はいいものであったことから、参加者が増えるような広報、呼びかけが必要である。
- ・次年度も実施していくのが望ましい。その際、環境関係の資料については近畿地方環境事務所関連の近畿環境パートナーシップオフィスに「化学物質に関する最新情報」や「生物多様性に関する最新情報」などについて相談することも有効である。また参加者を増やすため、会員以外の参加も検討していくなどの工夫も必要である。

3.2 情報交換会（意見交換会）

1) 目的・経緯

会員はそれぞれの分野で、高い専門知識があり、また現状での関心事について調査研究している方もおられる。そこで、情報交換会として各回で一人の人からそれら知見について話題提供してもらい、参加した会員のスキルアップにつなげることを目的とする。

2022年度から実施し、2022年度は5月、7月、9月、11月の4回実施し、その継続で2023年度は1月に1回、これまでに5回実施している。

2) 活動内容

今年度は年間で4回程度、理事会の後で1時間程度の時間で実施する予定であったが、予定通り、5月、7月、9月、11月の各理事会のあとで1時間程度の時間で実施できた。

活動内容は以下のとおりである。

表 3-5 情報交換会の活動内容

回	日時	内容	備考
第1回	5月11日	砂川理事より「マンションに関して」	
第2回	7月13日	古澤理事より「リスクとリスクマネジメントの基礎」	
第3回	9月14日	池田監事より「2024年版 環境白書他」	
第4回	11月2日	刑部理事より「南海トラフ地震臨時情報」とリスク管理」	

3) 活動成果

各回の情報交換会の記録を次ページに示す。

また、各回の資料、資料であるパワーポイントを動画編集したものを以下の会員専用HPに掲載した。

[2024.5.11 第1回情報交換会（マンションに関して） | JRMN Members Site](#)

[2024.7.13 第2回情報交換会（リスクマネジメントの基礎） | JRMN Members Site](#)

[2024.9.14 第3回情報交換会（2024年版環境白書等） | JRMN Members Site](#)

4) 振り返り・今後の課題等

- ・各回とも、参加者から多様な意見がだされ有意義な情報交換会であった。
- ・参加人数が、1回目6名、2回目7名、3回目6名、4回目4名と少なかった。内容はいいものであったことから、勉強会同様、参加者が増えるような広報、呼びかけが必要である。
- ・次年度も実施していくのが望ましい。その際、情報の提供者として、理事以外の会員に積極的に呼びかけていくことが望ましい。また参加者を増やすため、勉強会同様、会員以外の参加も検討していくなどの工夫も必要である

表 3-6

JRMN 会員の意見交換会（2024年5月度）

日 時	2024年5月11日（土） 14:35~15:40（理事会のあと）
参 加 者	6名
開 催 方 法	ZOOMを利用したオンライン
世 話 人	砂川
テ ー マ	マンションに関して
資 料	事前資料としてワードA4で3枚
概 要	次の1~7の項目について発表した。 1 マンションにおける2つの老い 2 国交省の統計・調査 3 マンションに関する主な法律に関して 4 マンション管理規約、マンション標準管理規約 5 事例 6 区分所有法制の見直し 7 マンション標準管理規約の改正
内 容	・上記概要の内容は別添 PowerPoint 資料のとおり。
世話人の振返	・マンションに居住していると「2つの老い」の問題を実感できるが、マンション住まいでない方にとってはイメージがしづらかったかもしれない。
参加者の感想	・相続財産清算人というものを初めて聞いた。 ・マンション問題が入居を考える人にとってリスク評価課題であることを改めて学んだ。 など
備 考	

表 3-7

JRMN 会員の意見交換会（2024年7月度）

日 時	2024年7月13日（土） 14:45~16:00（理事会のあと）
参 加 者	7名
開 催 方 法	ZOOM を利用したオンライン
世 話 人	古澤
テ ー マ	「リスクとリスクマネジメントの基礎」
資 料	事前資料としてパワーポイント12枚
概 要	<p>当 JRMN が扱う「リスクマネジメント」の基礎知識を伝えるために立案した「リスクとリスクマネジメントの基礎」講座の内容について、会員に聞いていただき、その適否に関して意見を伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「リスク」という言葉の意味について、その語源から伝え方の歴史と現在の使われ方と定義に関する説明 2. 【Pran】「リスク」を洗い出し、抽出したリスクを評価/分析して、優先順位付けを行い、順位の高いものから、対策（4種の手法あり）を立案し、【Do】計画的な実施を行い、その進捗状況について、【Check】定期的にチェックを行い、【Action】年度末等の節目で、一連の取組みについてトップが見直しを図る。以上の基本的な工程を説明
参加者の意見	<ol style="list-style-type: none"> ① 4種の対策に関する説明が少なく、判り難い。 ② 全体が、経営（経済）に関わるリスクが対象になっているが、同講座は化学物質を扱う会社の新人向けであり、「環境、化学物質」のリスク評価にしたほうが、関心が高いのではないか。 ③ PPTの枚数が少なく、講座での要求時間では、不足ではないか。
世話人の振返	<p>上記への対応</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 説明資料を追加する。 ② 全ての企業/組織が持続可能な発展をするために要求されている「リスクマネジメント」であり、特に、大手企業にあつては義務化されており、マネジメント活動は、トップダウンによる全員活動であるため、一般社員・経営職・新入社員に関わらず、基本知識を知っておくことは重要と考え立案した講座内容にて、特定対象者向けへの修正・変更は、ご容赦願いたい。 ③ 今回、ご意見のあった判り難い箇所、文字ばかりの箇所を、図・表・写真・イラスト等を用いたPPTを増やし、理解し易いものに改める。
参加者の感想	
備 考	

表 3-8

JRMN 会員の意見交換会（2024年9月度）

日 時	2024年9月14日（土） 14:30~16:00（理事会のあと）
参 加 者	6名
開 催 方 法	枚方事務所+ZOOMを利用したオンライン
世 話 人	池田
テ ー マ	「2024年版 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」
資 料	事前資料としてパワーポイント 33 枚
概 要	<p>2024年版環境白書には、2023年度の施策実施状況と2024年度の施策予定があり、2024年度の施策について以下の項目を取り上げた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1章 地球環境の保全 ・ 第2章 生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する取組 ・ 第3章 循環型社会の形成 ・ 第4章 水環境, 土壌環境, 海洋環境, 大気環境の保全・再生に関する取組 ・ 第5章 包括的な化学物質対策に関する取組 ・ 第6章 各種施策の基盤となる施策及び国際的取組に係る施策
参加者の意見、感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境白書について内容を知ることは大切だと分かっていたができていなかったのが、今回最新版を知れてよかった。 ・ 3R+renewable や 30by30 など新しい用語が知れてよかった。
世話人の振返	
備 考	

表 3-9

JRMN 会員の意見交換会（2024年11月度）

日 時	2024年11月2日（土） 15:05~16:00（理事会のあと）
参 加 者	4名
開 催 方 法	枚方事務所現地+ZOOMを利用したオンライン
世 話 人	刑部
テ ー マ	「南海トラフ地震臨時情報」とリスク管理
資 料	事前資料としてワード15枚
概 要	資料の説明 1) 南海トラフ地震臨時情報に加え北海道・三陸沖後発地震注意情報を説明 2) 南海トラフ地震臨時情報に対する計画策定のための「南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン」を説明 3) 2024年8月8日発令「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)に伴う政府としての特別な注意の呼びかけ」について結果を説明 4) 市民の反応、日本地震学会の2024年度秋季大会の参加者の見解、民間企業442社へのアンケート調査結果を紹介 5) 必ず起こるが、いつ起こるかわからないリスク管理について。 意見聴取 1) 南海トラフ地震臨時情報の内容、今年8月の発令についての意見 2) 必ず起こるが、いつ起こるかわからないリスク
参加者の意見	1) 南海トラフ地震臨時情報についての意見 ・ 事前の情報はあったほうがよい。ただし科学的には予測はむずかしい。個人的には非常用電源を準備するなど対策はとっている ・ 地震への備えは必要。車のデイバッグに非常食、軍手、ヘルメットあり。地震に対してはリスクマネジメントができそうで難しい。政府の防災省の準備室ができ、期待している。 ・ 今後のサイエンスフェアでの配布資料としたい。企業のBCPの中では地震時に有害物質が漏洩しないような対策が必要 ・ 企業・団体BCPのようにLCP(生命の維持のための計画)が必要 自治体では地震が起きたときの行動をタイムラインでつくっている 2) 必ず起こるがいつ起こるかわからないリスクについての意見 ・ 個人の視点、企業の視点、国の視点のそれぞれで考える必要がある 個人の状況(観光や仕事で津波の浸水区域を訪れるなど)に応じたリスク対策は考えられる。 ・ 仕事で行ったときは、仕事先の人と一緒に逃げてもらうことが重要 ホテルなどではライフジャケットの準備や屋上非難が営業上のアピールポイントともなる ・ 観光や仕事と、地震のリスクを天秤にかけることになる 公助にくわえ、自助・共助が重要。自助・共助でもLCPが必要
世話人の振返	上記への対応 ・ 時間としては1時間で終わることができた。 ・ 南海トラフ地震臨時情報について詳しく学ぶ機会となった ・ 今回の資料を何らかの形で公表し社会貢献につなげていきたい ・ 様々なケース別にリスク管理を考えていくことができると思った

3.3 ディスカッショングループ

1) 目的・経緯

2024年度事業計画に基づき発足したもので、定められたテーマ課題について調査・研究を行い、メンバー間の自由で活発なディスカッションを通じて会の活性化に貢献することを目的とする。

日本における原子力発電が始まって以来約 60 年間の発電事業の結果、大量の使用済み核燃料が処分方法未定のまま大量に溜まってしまっている。原発容認か脱原発かの議論とは別に、この大量の「核のごみ」をどうするかは、未来世代にどのような負担やリスクをもたらすかという観点から、日本社会にとって喫緊の、そして不可避の課題であると考えられる。

ディスカッショングループ「核のごみをどうするか?」では、教材図書『核のごみをどうするか』（今田高俊・寿楽浩太・中澤高師共著、岩波ジュニア新書刊）から論点を抽出し、自由な意見交換を行う。

結論を出したり、成果をアウトプットすることを目的とするのではなく、あくまでも自由にディスカッションすることによりリスクマネージャとしての感性を磨くこと、コミュニケーションスキルを高めることを目的とする。ディスカッションの結果が良い形でまとめれば、成果発表も前向きに検討する。

2) 活動内容

年初に立てた計画に則して活動を行った。参加メンバーは石橋、刑部、砂川、宮崎、宮本、東（以上敬称略）に加え、オブザーバーメンバーとして元日本リスク学会長の関澤先生にもご参加いただき、計7名であった。

年間を通じての活動を表 3-10 に一覧としてまとめた。すべてのミーティングはオンラインで開催した。

表 3-10 ディスカッショングループの活動内容（備考は参加者数）

回	日時	内容	備考
—	4月3日	会員へのメールで参加者募集(期限4月30日)	
準備会	5月31日	キックオフミーティング	4名
第1回	7月25日	論点の整理、今後の進め方	7名
第2回	8月27日	序章、第1章についての論点提示とディスカッション	5名
第3回	9月12日	第2～4章についての論点提示とディスカッション	6名
第4回	10月4日	第5～7章についての論点提示とディスカッション	6名
第5回	10月25日	終章及び全体（振り返って）についてのディスカッション	6名
第6回	11月28日	活動成果まとめと今後についての協議	5名
—	—	報告書作成や報告会等を実施予定	

3) 活動成果

各回のミーティングの結果を表 3-11～表 3-18 として示す。

表 3-11 ディスカッショングループ活動記録（準備会議）

件名	ディスカッショングループ「核のごみをどうするか」 キックオフミーティング
目的	ディスカッショングループ「核のごみをどうするか」のスタートにあたり 教材の確認、今後の活動のスケジュールについての協議をおこなう
日時	2024年 5月30日(木) 19:00 ~ 19:30
場所 (開催方法)	オンライン (Zoom)
参加者	刑部、砂川、宮本、東 (欠席：石橋、宮崎)
項目	教材の確認 活動予定全体の確認 活動日時のスケジュール作りのための希望調査
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・教材とする書籍の準備について確認した。 ・第1回を 7/12 以降とし、以降、約 2 週間の間隔で 3 回の議論 ・それ以降については様子を見ながら決めていく ・参加メンバーの都合を確認しながら平日夜 (19 時～) にオンラインで ・ミーティングを効率よく行うためのルールの確認 ・参加できなかったメンバーのためのミーティングの記録動画作成配布
懸案事項 予定等	メンバー間の連絡にグループ LINE を利用できるかどうか検討する
備考	

表 3-12 ディスカッショングループ活動記録（第1回）

2024.7.25

件名	ディスカッショングループ「核のごみをどうするか」 第1回オンラインミーティング
目的	教材書籍の読后感想、ディスカッショングループでの議論を希望する論点の提示
日時	2024年 7月25日(木) 19:00 ~ 20:30
場所 (開催方法)	オンライン (Zoom)
参加者	石橋、刑部、砂川、関澤、宮崎、宮本、東 (敬称略)
項目	教材書籍「核のごみをどうするか」を通読しての感想発表 重要論点の列挙 今後の進め方
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・教材書籍「核のごみをどうするか」を通読しての感想およびディスカッショングループでの議論を希望する論点を各メンバーが発表した。 ・発起人がこれらの論点を整理・類型化した。 ・類型化(6カテゴリー)したテーマの重要度を投票により決める予定をしていたが、章ごとの議論を望む声が多かったことから、当初の予定を変更し、次回以降、章ごとに議論をおこなうこととした。 ・多くのメンバーから、手ごわいテーマであるとの感想がでた。 ・関澤顧問が次回の議論のための資料を作成してくださることとなった。
懸案事項 予定等	
備考	

表 3-13 ディスカッショングループ活動記録（第2回）2024.8.27

件名	ディスカッショングループ「核のごみをどうするか」 第2回オンラインミーティング
目的	教材書籍「核のごみをどうするか」の序章、第1章についての論点提示とディスカッション
日時	2024年 8月27日(火) 19:00 ~ 20:50
場所	オンライン (Zoom)
参加者	石橋、刑部、関澤、宮本、東 (敬称略)
項目	各自の意見発表 質疑応答 参考図書紹介
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・関澤先生からは、①地層処分を行うには、日本はあまりにも地震や火山活動などによる自然災害が多いことを示すデータ、②プルトニウム再処理 MOX 燃料の見通しと海外の対応に関する資料、③国内の原発関連施設の過去の事故に関するデータをお示しいただき、このような状況下で核ごみ地層処分計画を進めることに対する疑問と原発利用そのものを見直す必要性についての見解が示された。 ・刑部さんからは、議論のために必要な事実をしっかり押さえるため、①核ごみの再処理に関わる法体系についてのレビュー、②放射線の影響を正しく理解するための資料、③我が国の地層処分計画のアウトラインの確認と処理能力についての量的考察について見解が示された。 ・宮本さんからは現行計画について、福島第一の事故の教訓・反省が十分に活かされていないとの指摘、国民や自治体の意見を聞くための体制づくりを行政はもっと真剣に考えるべきであるとの指摘、そして土井和巳氏の書籍「原発と日本列島」の紹介がなされ、行政を含めた事業主体側側が断層説ですべてを判断しようとする姿勢に対する疑問が示された。 ・石橋さんからは北海道新聞社刊の「核のごみ 考えるヒント」が紹介され、技術的検討以外にどのような議論が行われてきたのかを理解するために有用な資料であることが報告された。 ・東からは、我が国の地層処分計画に係る体制のレビューと問題点の指摘、そしてこれを解決しより良い社会全体としての意思決定を行うためには、カナダ、フランス、イギリスなどのように事業主体や行政から完全に独立した中立の機関を設立し、また、これらの国々でも行われている市民参加による意思決定の重視を日本でも検討すべきとの見解が示された。 ・各人の発表はいずれも充実したものであったが、世話役の時間管理の拙さから総合討論の時間を確保することができなかった。 ・無理やりまとめるわけではないが、全員が共通して感じているように思われたのは、科学技術的にも、それ以外の部分でも、十分な議論とそれに基づく意思決定ができていないのではないかという疑問と、複数人から指摘があった「再処理や地層処分ありきでこれまで進めてきてしまい、そこに投資した金額も大きいため引くに引けなくなってしまう」現状が浮き彫りになってきたことではないだろうか。 ・学会発表については、スケジュール的に難しいとの判断をした。 ・非常に重く難しいテーマなので、我々のディスカッショングループでの活動を通じた努力で何かが解決できるものではないが、市民として、またリスクマネージャとして何ができるかを真剣に考えることは意義がある。
懸案事項 予定等	序章は様々な問題提起的な内容を多く含み、とても1回のディスカッションで済むものではないように感じた(世話役感想)。必要に応じて再度総合討論の時間を設けた方が良くもしいない。 次回(第3回)ミーティングの開催日程について「調整さん」を使って各自の都合を確認することとした。
備考	今回の会議に参加できなかったメンバーのため、オンラインミーティングを動画記録として残した。 JRMN DG 核ごみ 第2回オンラインミーティング記録動画 (youtube.com) メンバーがミーティングのために準備した資料や前述の動画などは、関係者と相談の上、会のホームページ上にアーカイブすることも検討したい。

表 3-14 ディスカッショングループ活動記録（第3回） 2024.9.12

件名	ディスカッショングループ「核のごみをどうするか」 第3回オンラインミーティング
目的	教材書籍「核のごみをどうするか」の第2～4章についての論点提示とディスカッション
日時	2024年9月12日（火） 19:00 ～ 20:45
場所	オンライン（Zoom）
参加者	石橋、刑部、砂川、関澤、宮本、東（敬称略）
項目	各自の意見発表 質疑応答
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・砂川さんからは事実認定に基づいた議論が必要であり、それに先立って国民的理解の向上をどのように行うかが大きな問題であるとの主張。また、今田らによる教材図書には情報公開・開示に関する記述がほとんどないとの指摘があった。さらに、最近の新聞記事を示しながら、新たな知見や科学技術の進歩により、一度決めたことに固執せずに柔軟な対応を取っていく姿勢が重要ではないかとの意見が示された。 ・関澤先生からは、本来民主主義社会でのリスク課題の判断と意思決定を適切な情報提供と合意の下に進めるべきだったところ、十分な検討抜きで背負いきれないリスク課題を勝手に進めている現状、そして、重大事故を起こしてから、やおら「何とか理解を得なければ」と言い出すような事業主体側の姿勢に大きな問題があるとの指摘があった。 ・宮本さんからは、結論ありきでことが進められていること、再処理もうまくいっていないことなどを問題視し、エネルギー政策の抜本的再考が必要であるとの主張があった。 ・東は、NUMOが主張する「地層処分は世界の常識」が、確固たる科学的根拠に基づくものではないことを地層学の専門家の共同声明を示しながら指摘した。また、今後の展開を中立的第三者に委ねることが望ましいことを主張した。 ・刑部さんからは、人間による管理は費用の面でも安全性の面でも課題が多いとの結論は果たして正しいのかとの問題提起と、事業主体と住民側の合意形成に熟議が不可欠であり、分断は避けなければならないとの指摘をいただいた。また、文献資料に基づき、受け入れ地に交付金を与えることが結果的に地域にマイナスをもたらすことが多いことを示した。 ・石橋さんからは、放射性廃棄物の種類ごとの処分法の違いについて情報が十分でないのもっと知りたいとの意見、また、日本で原子力発電の運用を開始する前に、核ごみの処理法についてどれだけ真剣な検討が行われたのか興味があるとの見解が示された。 ・前回に続き、今回も各人の発表はいずれも充実したものであった。 ・多くのメンバーの意見に共通するものとして思われたのは、核のごみの処分を甘く見て十分な検討がなされていなかったことに問題があること、熟議に基づく合意や意思決定が望まれること、といった指摘と、客観的に事実を知り理解することの重要性及びそれができていないので今後さらに勉強する必要がある、という意見。これは前回（第2回）のミーティングでもみられた傾向。
懸案事項 予定等	次回（第4回）ミーティングの開催日程について、「調整さん」を使って各自の都合を確認することとした。 次回は第5～7章についてのディスカッションを行う。
備考	今回の会議に参加できなかったメンバーのため、オンラインミーティングを動画記録として残した。 JRMN DG 核ごみ 第3回オンラインミーティング記録動画 (youtube.com)

表 3-15 ディスカッショングループ活動記録 (第 4 回) 1/2 2024.10.4

件名	ディスカッショングループ「核のごみをどうするか」 第 4 回オンラインミーティング
目的	教材書籍「核のごみをどうするか」の第 5～7 章についての論点提示とディスカッション
日時	2024 年 10 月 4 日 (金) 19:00 ~ 20:45
場所	オンライン (Zoom)
参加者	石橋、刑部、砂川、関澤、宮本、東 (敬称略)
項目	各自の意見発表 質疑応答
結果	<p>・関澤先生からは、合理的な判断に基づく合意が難しい核ごみ処理問題でのミニパブリクスによる討議の重要性 (第 5 章)、受苦圏の中にも分断 (疑似受益圏の存在) があり、人口 800 人以下の神恵内村に対し 20 億円もの交付金が出されることはどうなのか、また、日本では米国 EPA の PPP (汚染者負担原則) を模した環境影響評価法が形骸的であること (第 6 章) の指摘があり、また、第 7 章に関連し、多段階の合意形成により答を出すことが難しい問題に対して対処しなければならないという困難に直面している現状について皆で議論する必要があるとの意見が示された。</p> <p>・宮本さんからは、ミニパブリクスによる熟議民主主義の手法を評価しながらも、いくつかの課題 (資料の準備・検証、コミュニケーションにおける伝達技術の難しさ、政策における総量管理の考え方の欠如など) が示された。また、財政的に困窮した過疎地が苦し紛れで手を上げるようなことがなくなるような方策を考えるべきであるとの意見が示された。さらに、原発への依存を前提として核ごみ問題を考えるのではなく、核ごみの処理能力から原発依存を見直すことの重要性が指摘された。</p> <p>・東からは、ミニパブリクス討議の有用性が著者 (今田ら) 以外からも示されており今後の拡大が期待されること、熟議が必要であることは間違いないがその前提として国民の関心の低さ、理解の欠如を何とかしなければいけないとの意見が示された。また、核ごみの地層処分の問題は紛れもなくトランスサイエンス課題であり、我々が学んできたリスクの定量化で対処できるものではない。破局的なリスク (p175)、未知の度合いが高いリスク (p177) に備え、受益・受苦の問題 (第 6 章) を少しでも緩和するためには、中立的第三者機関を中心とし、市民も参加した熟議に基づく社会的意思決定が不可欠であるとの考えが示された。</p> <p>・刑部さんからは、ミニパブリクスによる web 討議において、討議後に地層処分賛成者が増加しているのは、討議前の段階において地層処分についての理解がなかったことが原因であり、処分方法についてある程度理解できたことが賛成増加につながったのではないかと、また、処分方法理解に加えリスクについても考えたなら、逆に賛成者は減少していたのではないかという独自の分析を示した。専門家に反対者が多いのは、リスクをよく理解しているからであろうとの考察も。また、受益圏・受苦圏の問題 (第 6 章) では、当初から反原発であった人たちや原発電力を利用していない地域の人たちまで受益圏に含めるのはおかしいとの指摘があった。第 7 章については、国が真剣に熟議をすることを避けている (楽をしている) のは問題であり、その国や NUMO が最終的な Go/No Go 判断をするのは問題であり、第三者機関が討議主体であるべきとの見解を示した。さらに追加資料に基づき、NUMO の専門家が活断層をすべて把握することは不可能であり、また新たな断層が発生する可能性もあることを認めていることを示し、彼らが科学的根拠に欠ける 10 万年後の安全性評価を行っていることがナンセンスであり、にもかかわらず事業推進に問題ないとの姿勢を示すことに疑問を示した。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

表 3-16 ディスカッショングループ活動記録（第4回） 2/2

<p>件名</p>	<p>ディスカッショングループ「核のごみをどうするか」 第4回オンラインミーティング</p>
<p>結果</p>	<p>・砂川さんからは、受益圏と受苦圏の時間的分離を重視する意見が示され、また、核ごみの問題が、一般的リスク学における「自己決定に基づく自己責任」からは逸脱し自己責任論では解決できないものであるとの見解が示された。また、社会生活の中で原発と一切かかわりのない商品やサービスの購入がもはや選択できない状況であることを考慮すると、個人レベルでの問題解決は困難であろうとの見解が示された。しかしながら、いまを生きる人間として将来世代のために、これ以上に核ごみを増やさないようにすることは自己の意思決定により可能であるとの考えが示された。多くの国民が核ごみ問題に対する関心・理解を高め、社会構造・産業構造・国民の価値意識を変容していくことが核ごみ問題の解決につながるのではないかと考えが示された。</p> <p>・石橋さんからは、科学的（地層学的）に十分安全が保障されるなら受苦圏など存在しないのではないかと、との意見が示され、地層処分に合意できるかどうかは、科学的にどれだけ安全を担保できるかどうかは問題の核心ではないかとの見解が示された。</p> <p>第4回目となり、議論の内容もよくなってきた。最後の全体での総合討論では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熟議が大切 ・科学的に10万年を保証することは困難 ・柏崎刈羽原発の再稼働を閣議決定で決めてしまったことは大いに問題であり、核ごみ地層処分でも同様の手段による決定が懸念される。 ・電力を使用しないことはできないが減らすことはできるのでは？ ・PPP的な発想で、環境に良いことをすると得をし、悪いことをすれば損をするようなシステムを導入すべき。 ・環境教育（特に若者を対象とした）の重要性に着目し、何かできないか？ <p>等々の発言があった。</p>
<p>懸案事項 予定等</p>	<p>次回（第5回）ミーティングの開催日程について、「調整さん」を使って各自の都合を確認することとした。（→10月25日(金)に決定）</p> <p>次回は終章及び全体についての論点提示・ディスカッションとDG活動のまとめを含めた今後の進め方について議論を行う予定。</p>
<p>備考</p>	<p>今回の会議に参加できなかったメンバーのため、オンラインミーティングを動画記録として残した。</p> <p>DG核ごみ第4回ミーティング (youtube.com)</p>

表 3-17 ディスカッショングループ活動記録（第5回） 2024.10.25

件名	ディスカッショングループ「核のごみをどうするか」 第5回オンラインミーティング
目的	教材書籍「核のごみをどうするか」の終章及び全体（振り返って）についてのディスカッション、まとめ方と今後についての協議
日時	2024年10月25日（金） 19:00 ～ 20:20
場所	オンライン（Zoom）
参加者	石橋、刑部、砂川、関澤、宮本、東（敬称略）
項目	まとめ（案）の提示と説明（東、刑部） 各自の意見発表 関澤先生からの今後に関する提案とそれを受けての意見交換
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングに先立ち提示していた資料に基づき、東がこれまでのディスカッションを通じて多くのメンバーに共通する意見をまとめ（案）として示した。 ・同様に刑部さんからこれまでのまとめ（案）が示された。 ・これらに対する各メンバーからの意見を反映した形で、以下のようなまとめとした。 ① 行政・NUMOのこれまでの事業は確固たる科学的根拠に基づくものとは言い難い。 ② 日本の地質学的特徴から考えると、先行するフィンランドなど（地質学的に極めて安定）の例は参考にならない。 ③ 中立な立場の第三者機関を設置し、これにより科学技術的評価・判断や市民を含めた熟議による意思決定が強く望まれる。 ④ 2000年の最終処分法の成立は問題が多く、これを再考しより良いエネルギー政策につながるような議論が必要。 ⑤ 再処理や地層処分ありきでこれまで進めてきてしまい、そこに投資した金額も大きいので引くに引けなくなってしまっている現状を冷静に再考すべき。 ⑥ 市民が議論に参加するための前提として、核ごみ（高レベル放射性廃棄物）の危険性、地層処分計画についての理解（管理責任が極めて長時間持続することも含め）を高めること、そのリスクについて知ることが必要であると思われる。そして、他人事ではなく自分事として国民の間で関心を高めるためには、若者に対する働きかけが重要である。 ・関澤先生からは、既成事実と既定法の枠組を前提として計画が進められていることが大きな問題であり、これを正すためには国民全体で関心・理解を高める必要があり、そのために有用であると思われるいくつかの手法（ピクトグラムや替え歌の利用）の提案が示された。 ・次回のミーティング（時期未定）で、上述したDG全体の意見のまとめや関澤先生からの提案をたたき台として、我々がもし何かできるとしたら、どのようなことが考えられるかについて協議することとした。また、DGの活動のまとめをどのような形でアウトプット（成果物）とするかについても協議することとした。
懸案事項 予定等	<p>次回（第6回）ミーティングの開催日程について、「調整さん」を使って各自の都合を確認することとした。（→11月最終週か？）</p> <p>次回は、我々が何かできるとしたら、どのようなことか、また、DGの活動のまとめをどのような形でアウトプットするかについて協議する予定。</p>
備考	<p>今回の会議に参加できなかったメンバーのため、オンラインミーティングを動画記録として残した。</p> <p>DG核ごみ第5回ミーティング</p>

表 3-18 ディスカッショングループ活動記録（第6回） 2024.11.28

件名	DG「核のごみをどうするか」 第6回オンラインミーティング
目的	活動成果まとめと今後についての協議
日時	2024年 11月 28日（金） 19：00 ～ 20：35
開催方法	オンライン（Zoom）
参加者	刑部、砂川、関澤、宮本、東（敬称略）
項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ DG 活動まとめ（案）の内容確認・修正 ・ 成果の公表について ・ 今後の活動について
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ JRMN 内部での年度末活動報告用の資料（案）の提示がなされた（東） ・ 事前に提示していた「議論のまとめ」（これまでのディスカッションを通じて多くのメンバーに共通してみられた意見）の内容を改めて確認し、修正（加筆）を行った。刑部さんから論拠・出処の明示が望ましいとの意見があり、東が作業対応することとなった。 ・ 成果の公表について意見交換した。前回も関澤先生からピクトグラムなどの親しみやすいツールを利用して国民に対する啓発活動を行ってはどうかという提案をいただいていたが、これに加え、東から来年の日本リスク学会での発表が提案された。いずれの提案も、更なる協議が必要だが、前向きに進めたい。 ・ 今後の活動について意見交換した。来年度以降も継続することを望む意見が多かったのでなんらかの形で継続する方向で調整したい。どのような形が考えられるかを例示しての継続協議が必要。 ・ その他、今後の活動についての意見交換の中でメンバーからいくつかの意見が出された。なんらかの資料（書籍）をベースとした議論の継続展開とそのため資料の紹介、原子力市民委員会への参加意向（個人活動として）、ELSI や LCA を用いてのリスク学視点での活動等々。
懸案事項 予定等	時間的な理由から今年度の活動を一旦総括し、今後の活動継続についてはいくつかのプランを例示した上で考えていきたい。
備考	動画記録： DG 核ごみ第6回ミーティング - YouTube

4) 振り返り・今後の課題等

第6回までのミーティングにおけるディスカッションを総括すると、多くのメンバーに共通する意見として以下の6点に集約される。年度末の社員総会でより詳細な報告を行う。

- ①行政・NUMOのこれまでの事業は確固たる科学的根拠に基づくものとは言い難い。
- ②日本の地質学的特徴から考えると、先行するフィンランドなど（地質学的に極めて安定）の例は参考にならない。
- ③中立な立場の第三者機関を設置し、これにより科学技術的評価・判断や市民を含めた熟議による意思決定が強く望まれる。
- ④2000年の最終処分法の成立は問題が多く、これを再考しより良いエネルギー政策につながるような議論が必要。
- ⑤再処理や地層処分ありきでこれまで進めてきてしまい、そこに投資した金額も大きいため引くに引けなくなってしまう現状を冷静に再考すべき。
- ⑥市民が議論に参加するための前提として、核ごみ（高レベル放射性廃棄物）の危険性、地層処分計画についての理解（管理責任が極めて長時間持続することも含め）を高めること、そのリスクについて知ることが必要であると思われる。そして、他人事ではなく自分事として国民の間で関心を高めるためには、事実の周知、国民全体（特に若者）に対する働きかけが重要である。

今後の予定として、2025年秋の日本リスク学会での発表を目標にまとめ、また、関澤先生からの提案（国民に分かりやすく伝える）を踏まえ、我々がもし何かできるとしたら、どのようなことが考えられるかについて考えたい。

●継続的に取り組む事業

3.4 知の市場

1) 目的・経緯

今年度は、昨年同様、防疫薬総合管理セミナーに JRMN から 2 講座追加することとなり、関西大学で一部ハイブリッドでの講座を行うこととなった。

2) 活動内容

活動内容のうち、主な内容を以下に示す。

なお、下表以外に、知の市場システム上での申込準備、教室の確保、受講者の確認、講師資料の確認・システムへアップ、各回のズーム URL の連絡、成績等の取りまとめなどの活動がある。

表 3-19 知の市場に関する活動内容

年月日	活動内容	方法	備考
	関西大学吉田先生訪問 今年度の講義の予定などを確認		
2024.6.19	防疫薬総合管理セミナーの案内文作成		案内文添付
2024.7.18	JRMN ホームページで申込受付の開始を発信 (受付は知の市場システム利用)		
2024.9.2	第 1 回防疫薬総合講座開始		シラバス添付
2024.11.25	取纏め役の森さんから手嶋さんへの交代のための調整会議 (今後の体制など)		打合せ記録添付
2024.11.26	知の市場事務局へ 2025 年度防疫薬総合講座 (案) を提出。来年度も継続で講座を行う予定		2025 年度予定
2024.12.9	JRMN 担当回「リスクと便益について学ぶ」 古澤講師		
2024.12.23	JRMN 担当回「医薬品による汚染を考える」 東が澤講		
2025.1.6	第 14 回 (最終回) 防疫薬総合講座終了		
2025.1.31	受講生レポート締切り		
	関西大学訪問 (終了証を連名で発行することの確認)		
	終了証等の受講者への発行		

表 3-20 知の市場防疫薬総合管理講座に関する打合せ記録

件名	知の市場防疫薬総合管理講座の実施にあたって
目的	取纏め役の森さんから手嶋さんへの交代のための調整 (森さんが 11 月末で定年退職となるため、顧問の安部さんは変更なし)
日時	2024 年 11 月 25 日 (月) 15:00～16:00
場所	Zoom
参加者	森 (これまでの取纏め役: 住友化学)、安部 (顧問: (元) 大阪青山大学) 手嶋 (今後の取纏め役: 日本家庭用殺虫剤工業会 専務理事) 西村 (IRMN)、刑部 (JRMN)
項目	1. 講座実施の体制の確認 2. 取纏め役の役割の確認 3. 今年度の取纏め役の残りの作業について 4. 今後の予定、次年度の予定
内容	<p>1. 講座実施の体制の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「知の市場」(社会人を対象とした教育のための共通受講システムを無料で提供)事務局、②知の市場開講機関の JRMN (関西大学化学生命工学部と共同開催)、講座の実質的な実施内容を担当し開講機関を後援する③「日本家庭用殺虫剤工業会」及び連携機関④「日本環境動物昆虫学会」など実施体制を確認した。なおわかりやすく図にまとめる。 各団体が担当する役割や団体間の調整内容についてもとりまとめる。 <p>2. 取纏め役の役割の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師の選任: 前年の講師に依頼する。転勤等入れ替わりもあるが引継いでもらう。 最終レポートの課題作成 最終レポート採点。優秀賞の受賞者の選定 (3名程度) 必要に応じて講義内容の確認など (9月から12月は特に忙しいとのこと。一人だけ) <p>3. 今年度の取纏め役の残りの作業について</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年の最終レポート課題作成と採点は森さんが担当。手嶋さんも採点結果は共有する。 提出されたレポートは共通受講システムからみれるのでその方法も引継ぐ(手嶋さんのシステムへログインできる手続きは西村理事のほうで実施) <p>4. 今後の予定、次年度の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> 森さんから手嶋さんへ交代することを今年度の講師に連絡してもらう (11/25 済) 終了証は関西大学と共同で作成するため発行までに関西大学へ行き手嶋さんも同行する 次年度は連休明けにキックオフ会議を開く。6月にシラバスを提出する必要がある5月中旬に講師の選任を終わっておくほうがよい。 次年度の第1回は初めに手嶋さんに開講の挨拶をしてもらいそのあと今年度2回目の講義とすることでよい (講義回数は1回少なくなる) <p>5. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座の「防疫薬」のタイトルの変更は知の市場事務局との関係で難しい シラバスに「家庭用殺虫剤」の講義名が2つあるが内容が違うため名称を変える できれば講義として「フードセイフティーと害虫防除」などもあったほうがよい 大学の先生に講師をお願いするする場合、無償でよければ問題ない 受講者の募集は①講師の人がメール等で紹介、②西岡さんに紹介してもらう、③大学の先生(近畿大学松尾先生)に紹介してもらっているなどである。以前は役所へも紹介していたがZoomになってから時間外の個人的なパソコン利用ができず参加が無理になった
備考	

受講者募集

— 受講料無料 —

知の市場関連講座

第14回防疫薬総合管理セミナー

身近な生活・環境害虫防除

日本が世界をリードしてきた家庭用殺虫剤や、ハエ・蚊・ゴキブリ・ダニなどの身近な生活環境害虫の防除技術など、充実した講義内容と講師陣です。

開講日時

2024年9月2日～2025年1月6日（全14回）17:30～19:30（毎週月曜日）
講義は、オンライン（Zoom）、ハイブリッド（オンライン+関西大学での対面）併用で実施します

講義内容

講義日	科目構成	講義内容
9月2日	害虫防除の歴史	害虫防除の歴史、背景とその役割
9月9日	害虫の生態と防除	衛生、不快害虫、その他の生態とその防除策
9月30日	家庭用殺虫剤	家庭用殺虫剤の製剤の特徴と使い方
10月7日	家庭用殺虫剤	家庭用殺虫剤の開発とその背景
10月21日	害虫防除剤の開発	害虫による被害と防除剤開発の実際
10月28日	害虫の生態と防除	害虫の習性を利用した駆除
11月11日	害虫防除の実際	薬剤による害虫防除の課題とPCOの取り組み
11月18日	ベクター防除技術	マラリアを防除するオリセットネット（防虫蚊帳）
11月25日	木材害虫	木材害虫防除
12月2日	製剤とその利用技術	家庭・防疫用殺虫剤新規製剤の特徴と使用方法
12月9日	リスクマネジメントの基礎	リスクと便益について学ぶ
12月16日	安全性	防疫薬の登録と安全性
12月23日	医薬品と環境	医薬品による環境汚染を考える
1月6日	総合防除	防疫薬の今後の方向

応募資格

年齢・性別不問（講義内容に関心があり、継続して講義に出席する意志のある方）

受講料

無料（受講終了後、成績判定基準に基づいて、受講修了証が発行されます）

募集期間

7月16日～8月19日（定員30名）

申込み先

一般社団法人 日本リスクマネージャネットワーク (<https://jrmn.net/>)
のURLまたは添付のQRコードからホームページに入り、お申し込みください

会場

オンライン（Zoom）、ハイブリッド（オンライン+関西大学での対面）併用
受講登録された方にはZoom接続用URLをお送りします



開講機関：日本リスクマネージャネットワーク
／関西大学化学生命工学部
連携機関：日本環境動物昆虫学会
後援：日本家庭用殺虫剤工業会
問い合わせ先：日本リスクマネージャネットワーク
(jrmn.office2023@jrmn.net)

2024年6月19日

表 3-21 防疫薬総合管理セミナーシラバス

連携機関名	日本環境動物昆虫学会	水準	中級	教室定員	-	配信定員	30	講義日時	月曜日 17:30~19:30	拠点 (開講機関)	大阪(日本リスクマネージャネットワーク・関西大学 化学生命工学部)後援:日本家庭用殺虫剤工業 会
科目概要	熱帯地域には多くの感染症が流行し、これらが大きな経済的損失をもたらしてさらなる貧困を生み出している。その最大の原因のひとつはマラリアであり、その他にデング熱、日本脳炎、黄熱病などがあり、いずれも蚊が媒介する感染症である。最近の世界のマラリアの感染者数は年間約2億3千万人、死者数はサハラ砂漠以南のアフリカの5歳以下の子供を中心に約62万人と報告されている。主なマラリア対策として、殺虫剤を家屋内に残留処理することやピレスロイド殺虫剤を含有させた蚊帳などの使用により、ベクターである蚊の防除が行われている。また、近年の人々の移動のグローバル化により、特定の地域の熱帯病であったものが、我が国での2014年のデング熱の感染例のように、容易に他地域に拡大する事態も増えている。一方、風土病、熱帯病が減少した先進地域では、人々の快適な生活を維持するために、不快害虫などの防除が不可欠になっている。これらの防除には、ピレスロイドなどの安全性が高い殺虫剤が使用されており、これら薬剤の開発では日本が常に世界をリードしてきた。本講座では、防疫薬・家庭用殺虫剤を用いた害虫防除について、各分野の専門家が、防除の歴史、社会的役割、薬剤の開発、使用技術の改良、安全性の確保および新たな技術などについて解説する。併せてリスクリテラシーの育成のためリスクマネジメントの基礎について学ぶ。										

科目構成	No.	講義	講義概要	講義日	講義場所	取組み	講師	所属
害虫防除の歴史	1	害虫防除の歴史とその役割	害虫防除法の歴史、背景とその役割について紹介する。また、天然殺虫成分をリードとして創製された殺虫成分であるピレスロイドについて概説する。	2024/9/2	関西大+オンライン(Zoom)		森 達哉	住友化学 健康・農業関連事業 研究所
害虫の生態と防除	2	衛生、不快害虫、その他の生態とその防除策	感染症を媒介する衛生害虫、気持ち悪い、臭い、刺されると痛いなどの不快害虫、衣服を食害する衣料害虫など(節足動物や軟体動物も含め)の分類、生態・被害状況とその対策について紹介する。	2024/9/9	オンライン (Zoom)		岡本 央	住友化学 健康・農業関連事業 研究所
家庭用殺虫剤	3	家庭用殺虫剤の製剤の特徴と使い方	家庭用殺虫剤や人体用忌避剤はWHOが感染症媒介害虫対策として推進しているプライマリーヘルスケア(PHC)において重要な役割を担っている。家庭用殺虫剤の歴史、製剤・製品の変遷、並びにそれらの特徴と正しい使い方について概説する。	2024/9/30	オンライン (Zoom)		赤坂隆志	日本家庭用殺虫剤 工業会
家庭用殺虫剤	4	家庭用殺虫剤の開発とその背景	過去に上市された製品について、①時代背景②開発の経緯③開発の課題について、幾つかの事例を基に概要を解説し、家庭用殺虫剤の変遷を紹介する。	2024/10/7	オンライン (Zoom)		引土知幸	大日本除虫菊 中央研究所
害虫防除剤の開発	5	害虫による被害と防除剤開発の実際	私たちの周囲には、人または人の生活に被害をもたらす色々な虫たちが生息している。それらの被害は多岐に渡っており、その被害防止のために様々な防除剤が開発されている。これら防除剤を開発する上での留意点とポイントを実例を交えて紹介する。	2024/10/21	オンライン (Zoom)		野村美治	アース製薬 研究開発本部
害虫の生態と防除	6	害虫の習性を利用した駆除	食品衛生害虫の代表として、飲食店の厨房や一般家庭の台所に出没するゴキブリが挙げられる。また、家屋害虫の代表として、家屋・建造物などの木質部を食害するシロアリが挙げられる。これらの害虫を中心として、害虫の生態、習性を利用した防除法の考え方や実例を紹介する。	2024/10/28	オンライン (Zoom)		田中豊一	(元)ダスキン
害虫防除の実際	7	薬剤による害虫防除の課題とPCOの取り組み	防疫用殺虫剤の歴史と法律による現場防除の課題。また、実際の現場環境の違いによるPCOの駆除業務。防疫用殺虫剤の特長を生かした、各害虫への防除機材の選択。	2024/11/11	オンライン (Zoom)	森 達哉 (顧問:安部 八洲男)	五十嵐真人	鵬図商事
ベクター防除技術	8	マラリアを防除するオリセットネット(防虫蚊帳)	世界三大感染症の一つであるマラリアへの対策として、オリセットネットをはじめとする殺虫剤を含有した長期残効性防虫蚊帳がマラリア流行地帯に配布され、大きな効果を上げている。オリセットネット開発の経緯、マラリアコントロールの現状、および今後の展望等について解説する。	2024/11/18	オンライン (Zoom)		大橋和典	住友化学 健康・農業関連事業 研究所
木材害虫	9	木材害虫防除	主として木造建造物の主要害虫であるシロアリや、近年被害が増加しているアメリカカンザイシロアリ、ヒラタケイムシ類について、その生態や被害等状況を紹介する。更に、その防除方法についても解説する。	2024/11/25	オンライン (Zoom)		馬場庸介	住化エンバイロメンタル サイエンス 研 究開発本部
製剤とその利用技術	10	家庭・防疫用殺虫剤新規製剤の特徴と使用方法	家庭・防疫薬分野においては、新しい特徴を有する有効成分の発見に伴い、その機能を最大限に発揮するために、今まで各種製剤が提案されてきている。主として殺虫剤における製剤化の意義と、新しい家庭・防疫用殺虫剤製剤に関する基本技術について解説する。	2024/12/2	オンライン (Zoom)		山崎誠司	住化エンバイロメンタル サイエンス 研 究開発本部
リスクマネジメントの基礎	11	リスクと便益について学ぶ	リスクについての考え方やリスク評価と便益との関係についての基礎知識を学ぶ。	2024/12/9	関西大+オンライン(Zoom)		古澤啓一	日本リスクマネージャネット ワーク
安全性	12	防疫薬の登録と安全性	日本(薬機法、化審法、毒劇法など)をはじめ、米国EPA(FIFRA)やEU((EUBPR)、その他世界各国の防疫薬登録制度について解説する。また、防疫薬を使用する消費者の安全性を担保するために必要なデータと意義、消費者リスクの評価法についても解説する。	2024/12/16	オンライン (Zoom)		宮本太樹	住友化学 生活環境事業部
医薬品と環境	13	医薬品による環境汚染を考える	防疫薬とは異なるカテゴリーであるが、私たちの暮らしになくしてはならないということに関しては共通する「医薬品」が使用後に環境に及ぼす影響を毒性的視点から例示・解説する。また、この問題に対する社会の対応、国際的な動向などを紹介しながらリスク管理のあり方を考える。	2024/12/23	オンライン (Zoom)		東泰好	日本リスクマネージャネット ワーク
総合防除	14	防疫薬の今後の方向	人々の生活の都市化や、住宅構造、生活様式などの外部環境の変化や、化学物質の安全性に対する人々の意識の増加などから、防疫薬に対するニーズも変化し、それに対応して防疫薬も変革が必要とされる。ここでは、防疫薬が抱えている今日的問題点と今後の方向について考える。さらに、総合防除(IPM)の考え方について解説する。	2025/1/6	オンライン (Zoom)		安部八洲男	(元)大阪青山大学

3) 活動成果

今年度は JRMN から 2 講座持つこととなった。東講師の評判は良く新しい知見を持てたとの評価があった。

① 受講者数

21 名

② 出席状況

15 名が修了証 優秀賞が 3 名、皆勤賞 5 名

4) 振り返り・今後の課題等

次年度も関西大学の後援が得られた。講義内容は 4 月に講義内容を見直して 6 月末までに内容を決定する。後期受講生の募集は 7 月中旬から行う。

知の市場の担当であった森達哉さん（住友化学株式会社）が退職の為 11 月 25 日に手嶋勇人さん（日本家庭用殺虫剤工業会専務理事）に交代となった。2024 年度分については顧問である安部八洲男さんがレポート評価などを行う事となった。

今年度は JRMN の刑部さんが受講生として受講すると共に担当の西村のサポートをしていた。事務局は 2 名体制が望ましいと考える。

3.5 日本リスク学会との共催の公開セミナー

1) 目的・経緯

毎年春の日本リスク学会との共催による公開セミナーの開催が定例化している。この公開セミナーは、一般市民を対象としたリスクマネジメントの普及およびJRMN会員の自己研鑽を主たる目的とするものであるが、同時に、JRMNの社会的存在意義の向上をもめざすものである。ここ数年は、JRMN側でテーマを提案し、それに相応しい講師を学会側が選定するというスタイルが続いている。

今年度は、当初は新規リスクマネージャ養成セミナー兼リスクマネージャのCPD取得セミナーとして4回程度の実施を日本リスク学会担当者のほうで考えていた。しかし、日本リスク学会リスクマネージャ委員会での議論の結果、リスクマネージャ公開セミナーとして、リスクマネージャに加え一般の人でも参加できるセミナーとしての開催となり、7月、11月、2月の3回実施した。

(実施概要)

- ・7月27日に2024年度第1回リスクマネージャ公開セミナー「リスク学の考え方を身につける」を大阪大学中之島センター＋ズームで開催
- ・11月16日に実施された日本リスク学会第37回大会の一般公開セミナー「伊豆半島の自然災害と地震・津波対策」を2024年度第2回リスクマネージャ公開セミナーとしてオンライン（ズーム）で配信することで実施。
- ・2月8日に2024年度第3回リスクマネージャ公開セミナー「基準値から考えるリスク学」を大阪大学中之島センター＋ズームで開催（総会までに完了する事業のため記載）
- ・3回のセミナーとも、建設コンサルタンツ協会のCPD認定セミナーとすることで、リスク管理の考え方を100名以上の人に知ってもらうことができた。

2) 第1回リスクマネージャ公開セミナー（7月27日）

開催までの経緯、セミナーの概要（案内書）、セミナーの結果を以下に示す。

開催までの経過及び日本リスク学会とJRMNの役割分担

No	日本リスク学会	JRMN	備考
1	セミナーの内容、日時、場所、講師決定		5月31日 日本リスク学会委員会
2	申込フォーム作成		6月17日 本来ならJRMN
3	セミナー案内チラシ作成		6月17日
4	学会HPへアップ	JRMNのFACEBOOKへアップ JRMN会員へのメール連絡	6月18日 広報開始
5	学会会員へのメール連絡 リスクマネージャへのメール連絡	大阪環境カウンセラー協会への依頼	6月19日
6		各種広報	
7		建設コンサルタント協会 CPDホームページ公開	6月28日
8		各種広報	
9	直前打合せ		7月11日
10		アンケートフォーム作成	
11	参加申込者へのズーム案内等		(前の週の木 or 金) (7月18日)
12		CPD受講証明書発行手続きをJRMNのホームページに	7月22日
13	申込フォームの停止12時頃	参加申込者への再案内等	7月26日
14 当日	配信用パソコン、インターネット接続機器準備	受付用紙・筆記具準備 CPD関係書類・印鑑準備 配布資料があれば準備 現地参加者用受講証明書	7月27日(準備)
15	司会 ズームの管理	受付、現地では建コンCPD関係の確認 配布資料があれば配布 アンケートをメール配信	7月27日(進行)
16		オンラインCPD受講証明書発行 CPD事務局へ参加者報告	8月1日
17		(実施結果のとりまとめ) (アンケートとりまとめ)	8月3日
18		経費精算	
19		振り返り	

(一社)日本リスクマネジャネットワーク、大阪大学、(一社)日本リスク学会共催

2024年度第1回リスクマネジャ公開セミナー

リスク学の考え方を身につける

～最近のリスク学の潮流を踏まえて～

一般公開

2024年7月27日(土) 14:00~17:00 開場13:30

本セミナーは、リスク学の基本的な考え方と現状について講演し、その今後について、リスク学会関係者と一般市民との対話を通じて共に考える連続講座です。

場所 大阪大学中之島センター セミナー室6E+F 参加費は無料

<https://www.onc.osaka-u.ac.jp/access/>

オンラインは中継のみとなります。

参加申し込み

参加を希望される方は以下のフォームまたはQRコードでご登録ください。資料の共有や接続先のご案内は別途メールで行います。 <https://forms.gle/EeTHqqRgKYMa65dj9>



(1) 趣旨説明：本セミナーの趣旨と進め方について(5分)

(2) 話題1 「リスク学を知らないと人生で損をする」 米田 稔 京都大学 (60分)

2019年出版の「リスク学事典」で以下のように位置付けられたリスク学。リスク学は人生でなんとなく行っている意思決定に、科学的根拠を与えます。

“人文科学、自然科学、社会科学など多様な分野のリスクに対峙してきたリスク学は、それぞれの学問分野ごとに独自のリスク概念が取り上げられてきた経緯から、これまで単一の学問体系は存在していなかった。しかし、世界の相互接続性、相互依存性の高まりから異なるリスク同士の結合も例外ではなく、それらを横断的に俯瞰できる試みが求められるようになってきた。”

(3) 話題2 「新しい技術と向き合うために役に立つリスク学の知見」 岸本充生 大阪大学 (60分)

パーソナルデータの利活用やAIの社会実装は私たちの周りの様々なところで進んでいます。それに伴い、様々な意図しない影響も顕在化しています。技術開発のスピードが速く、法規制が追いつかないこともしばしば起きています。事業者の観点、消費者の観点、政策立案者の観点から、リスク学のこれまでの知見がどのように役に立つのか、具体的な事例をもとに紹介します。

(4) 自由討議 竹田宜人 北海道大 他 (55分休憩含む)

講演内容やリスク学に対する皆さまの疑問や意見を踏まえ、今後の展開も含め、リスク学会関係者と自由討議を行います。

連絡先 リスク学会担当理事(北海道大学) 竹田 宜人 ytakeda@eng.hokudai.ac.jp

セミナー・講演会記録

(記録：刑部)

件名	2024年度第1回リスクマネージャ公開セミナー「リスク学の考え方を身につける～最近のリスク学の潮流を踏まえて～」
主催・共催	主催：日本リスク学会 共催：大阪大学、日本リスクマネージャネットワーク (JRMN)
運営参加者	日本リスク学会 岸本会長(ズーム)、米田理事、竹田理事、小野理事 JRMN 東、久保田、西村、古澤、刑部
目的	リスク学の基本的な考え方と現状について講演し、その今後について、リスク学会関係者と一般市民との対話を通じて共に考える連続講座である。日本リスク学会リスクマネージャの継続教育と(一社)建設コンサルタンツ協会 CPD 認定プログラムの対象になっている。
日時	2024年7月27日(土) 14:00 時～ 17:00 時 (開場 13:30)
場所 (開催方法)	大阪大学中之島センター セミナー室 6E+F ズームによるオンライン中継も実施
内容	(1) 趣旨説明：本セミナーの趣旨と進め方について(5分) (2) 話題1「リスク学を知らないで人生で損をする」米田稔 京都大学 (60分) (3) 話題2「新しい技術と向き合うために役に立つリスク学の知見」岸本充生 大阪大学 (60分) (4) 質疑応答+自由討議 参加者+演者 司会 竹田宜人 北海道大学 (55分：5分休憩含む)
準備	・セミナー案内チラシ作成、参加者登録 구글フォーム作成(日本リスク学会) ・建設コンサルタンツ協会 CPD プログラム認定申請、CPD に関する受付(JRMN) ・第1回メール案内(7/18：日本リスク学会)、直前案内(7/26：JRMN) ・申込者名簿整理、当日受付で必要な資料作成(「受付」用紙、アンケート QR コード用紙、CPD に関する記入用紙など) (JRMN) (広報については別紙参照)
当日進行他	・現地受付、ズームでの参加者名の確認：JRMN 担当 ・司会進行(竹田理事)、ズーム管理(小野理事)：日本リスク学会担当 ・当日にアンケートのメール発信、後日アンケート取りまとめ：JRMN 担当 ・CPD 受講証明書発行等の問合せ対応、受講証明書の発行：JRMN 担当 ・当日岸本先生が体調不良でオンラインでの講義となった。
参加者数	申込者数：対面 18、オンライン 203、合計 221 名 参加者：対面 15、オンライン 134、合計 149 名 (オンラインは最大時)
資料 PDF 名	20240727_リスクマネージャ_米田 20240727_リスクマネージャ_岸本 20240727_リスクマネージャ_竹田 対面参加者にセミナー前にメール送信、オンラインはズームの機能で送信
結果	予定通り 14:00 開始、(1)趣旨説明 5 分、(2)話題 1 約 60 分、休憩約 10 分、 (2) 話題 1 約 60 分、休憩約 10、(3)質疑応答 25 分、16:50 終了
アンケート	実施した。結果は別冊
良かった点	・参加者が約 150 名と多く盛会であった ・オンラインでの参加、岸本先生のオンラインでの講義とも問題なかった ・アンケートの結果も講義については約 9 割の人が満足との回答であった
改善点	・現地参加者が少なく増やす工夫が必要(現地参加のメリットを考える) ・質問が少なかった。初歩的な質問がしにくい感じを変える必要がある。 できれば資料は前もって見ておきたい。 ・資料が受け取れない人がいた。JRMN のホームページなどアップが必要 ・JRMN 会員の参加が少なく PR していく必要がある。 ・SNS は日ごろから発信し、認知度や信頼性をあげておく必要がある。 ・CPD 受講証明書の発行手続きに時間がかかり工夫が必要である
備考	日本リスク学会と JRMN の役割分担は別紙、CPD のまとめも別紙 運営側参加者の感想と次回へ向けての意見は別紙

アンケート結果の概要

1) アンケート回答率

セミナーへの出席者は対面15名、オンライン134名で合計149名であった。

アンケートへの回答は124名で、回答率は83%であった。

申込者数	221		
出席者数	149	出席率%	67
アンケート回答数	124	回答率%	83

2) セミナーの満足度

話題1で、「とても満足」「やや満足」の合計は88%、話題2では96%であった。

話題への意見は、どちらも6割以上の人の記入があった。

話題1 満足度	88%	意見数	76
話題2 満足度	96%	意見数	79

満足度は「とても満足」「やや満足」の合計

3) 本セミナーを知った情報源

今回セミナーの広報は学会からのメール等案内とJRMNからのメール等案内に加えて、いろいろな工夫を行った。もっとも効果があったのは「建設コンサルタンツ協会 CPD プログラム」として認定をとったことで78%の人の情報源であった。一方、FACEBOOK やインスタなどの SNS を使った広報は効果がなく、知り合いや口コミ的な広報のほうが、効果があった。

情報源	比率%
建設コンサルタンツ協会 CPD プログラム	78
日本リスク学会からの案内など	8
一般社団法人日本リスクマネージャネットワークからの案内など	5
所属する会社等からの案内など	4
知人からの案内	3
大阪環境ネットまたは大阪カウンセラー協会からの案内など	2
FACEBOOK	0
インスタ	0
計	100

4) 次回第2回セミナー案内の希望・その他

次回第2回セミナーの案内を希望する人の割合は91%であった。

またその他意見数は、51件で4割程度の人の意見の記述があった。

第2回案内希望者数率	91%
その他意見数	51

3) 第2回リスクマネージャ公開セミナー (11月16日)

開催までの経緯、セミナーの概要(案内書)、セミナーの結果を以下に示す。

(2024年第2回セミナー) 日本リスク学会とJRMNの役割分担

No	日本リスク学会	JRMN	備考
1	セミナーの内容、日時、場所、講師決定		8月28日～ 日本リスク学会理事会
2		申込フォーム案作成 登録内容変更・不参加連絡 フォーム作成	9月16日
3	セミナー案内チラシ作成		10月4日
4		建設コンサルタント協会 CPD認定プログラム申請	10月5日
	(大会への参加申し込み開始：参加費必要)		10月8日
5		建設コンサルタント協会 CPDホームページ公開	10月11日
6		JRMN会員へのメール連絡	10月14日 広報開始
7		大阪環境カウンセラー協会 への依頼	10月15日
8		JRMNのHPへの掲載 前回参加者へのメール案内	10月19日
	配信用ズーム設定		10月21日
		FACEBOOKによる広報	10月22日
9	リスクマネージャへのメール連絡 (申込はJRMNとは別) (学会会員へのメール連絡)		10月23日
10		アンケートフォーム作成	10月27日
11		参加申込者へのズーム案内 等(学会申込者は除く)	(11月7日(木)予定)
13		申込フォームの停止	11月13日(水)
		参加申込者への再案内等 (学会申込者は除く)	(11月14日(木)予定)
14	配信用パソコン、インターネット接続機器準備		11月16日(準備)
15	司会 ズームの管理	講演後アンケートをメール 配信	11月16日(進行)
16		オンラインCPD受講証明書発行 CPD事務局へ参加者報告	月日
17		(実施結果のとりまとめ) (アンケートとりまとめ)	月日
18		(経費精算)	なし
19		振り返り	

(一社) 日本リスクマネージャネットワーク、静岡県立大学、(一社) 日本リスク学会 共催

2024年度第2回リスクマネージャ公開セミナー 伊豆半島の自然災害と地震・津波対策 オンライン

● 2024年11月16日 (土) 15:10~16:40

本セミナーは、日本リスク学会と日本リスクマネージャネットワークが共催する連続セミナーの第2回です。今回は日本リスク学会第37回大会の一般公開セミナーをオンラインで放映致します。ウェビナーのみで質疑応答は予定しておりませんので、ご了解下さい。

開催方式 オンライン ※ウェビナーによる講演の放映のみとなります。

講師 静岡県危機管理部危機政策課新被害想定担当室長 板坂孝司

参加申し込み (締切 11月13日 (水))

参加を希望される方は以下のフォームまたはQRコードでご登録ください。資料の共有や接続先のご案内は別途メールで行います。 <https://forms.gle/TxKnnVRvFR33TdZ69>



【講演概要】

伊豆半島は、火山が本州に衝突して半島となったものという特異な形成史を有する半島であり、西側の南海トラフ、東側の相模トラフで発生するプレート境界型地震・津波の影響を受けてきた。また、プレート衝突に関連する活断層が存在し、活断層型の地震もたびたび発生している。他にも活火山である伊豆東部火山群の噴火災害や風水害・土砂災害など、様々な自然災害のリスクを有し、静岡県は市町等と連携し地震・津波、火山、風水害等への対策を推進している。

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震では、能登半島の北端周辺を震源としたマグニチュード7.6の地震により、甚大な被害を受け、この9月の水害と併せて複合災害の様相を見せている。この地震においては、交通網の被害による孤立集落の発生やライフラインの復旧遅延など、半島独特の地理的、社会的な要因により、災害対応や復旧の困難性などが注目されている。

静岡県においては、令和6年能登半島地震の被害、災害対応から得られた教訓に基づく、伊豆半島における地震・津波対策の見直し・強化が課題となっている。そこで、伊豆半島の地理的・社会的概要と、本県がこれまで進めてきた地震・津波対策を紹介した上で、令和6年能登半島地震における被害や防災対応の状況と、静岡県第4次地震被害想定(平成25年)における伊豆半島で想定される地震被害などを比較して、伊豆半島における地震のリスクと対応について分析する。

連絡先 日本リスクマネージャネットワーク 担当理事 刑部(ぎょうぶ)・西村
e-mail jrmn.comu@jrmn.sakura.ne.jp (ホームページ <https://jrmn.net/>)

3. アンケート結果の概要

1) アンケート回答率

セミナーへの出席者はオンライン116名であった。

アンケートへの回答は108名で、回答率は93%であった。(ズームのログにないメールアドレスからの回答が10件あった)

申込者数	170	JRMN申込分	
出席者数	116	出席率%	
アンケート回答数	108	回答率%	93

2) セミナーの満足度

「とても満足」「やや満足」の合計は70%で、第1回の満足度の約90%に比べると低いが概ね満足という結果となった。

セミナーへの意見は、約7割の人の記入があった。記入した人の半数近くが、ききづらい、画面が見づらいと記入しており、今後考慮していく必要がある。

セミナー満足度	70%	意見数	82
---------	-----	-----	----

満足度は「とても満足」「やや満足」の合計

3) 本セミナーを知った情報源

今回セミナーの広報は学会からのメール等案内とJRMNからのメール等案内に加えて、いろいろな工夫を行った。もっとも効果があったのは「建設コンサルタンツ協会 CPD プログラム」として認定をとったことで62%の人の情報源であった。次に多かったのは日本リスク学会からの案内などで13%であった(上記のJRMN 申込分に含まれていない可能性あり)

情報源	比率%
建設コンサルタンツ協会 CPD プログラム	62
日本リスク学会からの案内など	13
所属する会社等からの案内など	7
第1回セミナー参加者へのメール案内	7
大阪環境ネットまたは大阪カウンセラー協会からの案内など	6
一般社団法人日本リスクマネージャネットワークからの案内など	5
知人からの案内	1
FACEBOOK	0
計	100

4) 次回第3回セミナー案内の希望・その他

次回第3回セミナーの案内を希望する人の割合は90%であった。

またその他意見数は、56件で5割程度の人の意見の記述があった。ここでも記入した人の半数近くが、ききづらい、画面が見づらいと記入していた。

第3回案内希望者数率	90%
その他意見数	56

(その他意見では特になしは除く)

4) 第3回リスクマネージャ公開セミナー (2月8日)

開催までの経緯、セミナーの概要 (案内書)、セミナーの結果を以下に示す。

(総会まで完成予定)

(2024年第3回セミナー) 日本リスク学会とJRMNの役割分担

No	日本リスク学会	JRMN	備考
1	セミナーの内容、日時、場所、講師決定		12月8日 竹田先生メール
2	セミナー案内チラシ(案)作成		12月14日 竹田先生メール
3		会場の仮申し込み	12月15日 (12月20日日本申込)
4		申込フォーム案作成 登録内容変更・不参加連絡 フォーム作成	12月20日
5		建設コンサルタント協会 CPD認定プログラム申請	12月20日 (修正1月12日)
6		建設コンサルタント協会 CPDホームページ公開	12月25日 (修正版1月14日)
7	セミナー案内チラシ完成		1月10日 竹田先生メール
8		JRMN 会員へのメール連絡 FACEBOOKによる広報	1月12日 広報開始
9	日本リスク学会会員への案内メール	建設コンサルタント協会 CPD変更手続き完了	1月14日
10	リスクマネージャへのメール連絡		1月15日
11		大阪環境カウンセラー協会 への依頼	月日
12	配信用ズーム設定		1月21日
13		JRMNのHPへの掲載 前回参加者へのメール案内	1月25日
14		アンケートフォーム作成	1月25日
15		参加申込者へのズーム案内 等(学会申込者は除く)	(1月30日(木)予定)
16		申込フォームの停止	2月5日(水)
17		参加申込者への再案内等 (学会申込者は除く)	(2月6日(木)予定)
18 当日	配信用パソコン、インターネット接続機器準備	現地受付、CPD受講証明書 配布等	2月8日(準備)
19	司会 ズームの管理	講演後アンケートをメール 配信	2月8日(進行)
20		オンラインCPD受講証明書発行 CPD事務局へ参加者報告	月日
21		(実施結果のとりまとめ) (アンケートのとりまとめ)	月日
22		(経費精算)	なし
23		振り返り	

(一社) 日本リスクマネージャネットワーク、大阪大学、(一社) 日本リスク学会共催

2024年度第3回リスクマネージャ公開セミナー

基準値から考えるリスク学

一般公開

● 2025年2月8日(土) 14:00~17:00 開場13:30

本セミナーは、リスク学の基本的な考え方と現状について講演し、その今後について、リスク学会関係者と一般市民との対話を通じて共に考える連続講座です。

場所 大阪大学中之島センター セミナー室 6A 参加費無料

<https://www.onc.osaka-u.ac.jp/access/>

オンラインは中継のみとなります。

参加申し込み (締切 2025年2月5日(水))

参加を希望される方は以下のフォームまたはQRコードでのご登録ください。資料の共有や接続先のご案内を別途メールで行います。 <https://forms.gle/qFLePFTvq2mLGfcx7>



(1) 趣旨説明：本セミナーの趣旨と進め方について(5分)

(2) 話題1 「基準値から考えるリスク学」 村上 道夫 大阪大学 (90分)

「基準値のからくり ブルーボックス(講談社)」の帯で「基準値オタク」を自称する俊英研究者と謳われた著者の一人である。福島第一原子力発電所の事故を原因とする、原子力災害や新型コロナウイルスのパンデミック対策などのリスクの最前線に対応にあたってきた演者から、基準値の本性についてお話しいただく。

※ むらかみ・みちお 大阪大学感染症総合教育研究拠点科学情報・公共政策部門 教授
東京大学大学院修了。博士(工学)。専門はリスク学、水環境学、衛生工学、公衆衛生。

(休憩5分)

(3) 話題2 「基準値とリスクコミュニケーション」 竹田 宜人 北海道大学(80分)

「基準値の〇倍」との報道を見たことはありませんか? 化学物質の環境汚染を題材に、リスク管理におけるコミュニケーションの役割やその重要性についてお話します。

※ たけだ・よしひと 北海道大学大学院工学研究院環境循環システム部門 資源循環工学分野資源循環材料学研究室 客員教授。東京都立大学大学院修了。博士(都市科学)。専門は化学物質のリスク評価・リスクコミュニケーション

連絡先 一般社団法人日本リスクマネージャネットワーク 担当理事 刑部(ぎょうぶ)・西村
e-mail jrmn.comu@jrmn.sakura.ne.jp (ホームページ <https://jrmn.net/>)

3. アンケート結果の概要

1) アンケート回答率

セミナーへの出席者は対面 13 名、オンライン 168 名で合計 181 名であった。

アンケートへの回答は 149 名で、回答率は 82%であった。

申込者数	264		
出席者数	181	出席率%	69
アンケート回答数	149	回答率%	82

2) セミナーの満足度

話題1で、「とても満足」「やや満足」の合計は 95%、話題2では 96%であった。

話題への意見は、どちらも5割程度の人の記入があった。

話題 1 満足度	95%	意見数	80	0.54
話題 2 満足度	96%	意見数	72	0.48

満足度は「とても満足」「やや満足」の合計

3) 本セミナーを知った情報源

今回セミナーの広報は学会からのメール等案内とJRMNからのメール等案内に加えて、いろいろな工夫を行った。もっとも効果があったのは「建設コンサルタンツ協会 CPD プログラム」として認定をとったことで70%の人の情報源であった。一方、FACEBOOK などの SNS を使った広報は効果がなく、知り合いや口コミ的な広報のほうが、効果があった。

情報源	比率%
建設コンサルタンツ協会 CPD プログラム	70
日本リスク学会からの案内など	14
所属する会社等からの案内など	2
第 2 回セミナー参加者へのメール案内	3
大阪環境ネットまたは大阪カウンセラー協会からの案内など	4
一般社団法人日本リスクマネージャネットワークからの案内など	3
知人からの案内	3
FACEBOOK	0
計	100

4) 次回第2回セミナー案内の希望・その他

次回以降のセミナーの案内を希望する人の割合は 86%であった。

またその他意見数は、50 件で 3 割程度の人の意見の記述があった。

第 2 回案内希望者数率	86%	
その他意見数	50	0.34

3.6 日本リスク学会との連携

3.6.1 共催公開セミナー（新規リスクマネジャ養成セミナーとして当初計画）について

1) 目的・経緯

日本リスク学会のリスクマネジャ委員会との連携により、リスクマネジメントの社会実装および双方の社会的プレゼンス向上を目指すための共催公開セミナーについて、竹田先生と JRMN 執行理事との打合せ結果を以下に示す。

2) 打合せ実施日

- ・ 3月23日 日本リスク学会竹田理事と JRMN 執行理事との打合せ
- ・ 5月21日 日本リスク学会竹田理事と JRMN 執行理事との打合せ
(5月31日 日本リスク学会リスクマネジャ委員会開催（東、刑部出席）)
- ・ 7月11日 日本リスク学会竹田理事と JRMN 執行理事との打合せ

上記のち、5月31日の日本リスク学会リスクマネジャ委員会については次項に示す。

3) 3月23日打合せ記録

渉外活動記録（日本リスク学会 2024.3.23）

件名	リスクマネジャ継続教育と新規登録者養成について
目的	・ 日本リスク学会から提案された「リスクマネジャ継続教育と新規登録者養成」講座の目的意義、資格の認定についての確認 ・ 懸案事項についての確認 ・ 今後の予定の確認
日時	2024年 3月23日（土） 15:30時～ 16:30時
場所	ズーム
相手	日本リスク学会 竹田先生
担当	JRMN 東、久保田、西村、刑部
内容	1. 講座の目的意義、資格の認定についての確認 2. 懸案事項（会として） 3. 懸案事項（JRMN 理事として） 4. 今後の予定 会議メモを次ページに示す
備考	3/11 竹田先生より提案に関するメールあり 3/16 JRMN 理事会で各自の意見を出す。東代表理事に竹田先生との打合せ日程を調整してもらう 3/20 前もって懸案事項について竹田先生へメール。同日、メールでの回答あり

日本リスク学会リスクマネージャ委員会竹田先生とのミーティング

日時： 2024年3月23日(土) 15:30-16:45

場所： オンライン (Zoom ミーティング)

参加者： 竹田先生、久保田利美、西村庄司
刑部忠彦、東泰好

【本日の会議の目的】

- 2024年度からスタートする「日本リスク学会が開催する養成講座」の目的・意義について再確認し、しっかりした共通認識のもとに講座の企画・運営を行えるようにする。
- とりわけ、「資格」認定については、関係者間で誤解があってはいけないので、明確にしておく。

《以下、会議メモ》

1. 新たな養成講座の目的の再確認
 - ・ 社会におけるリスクリテラシー向上を目指し、リスク学に関心を持つ人材を増やすことにより裾野を広げることを目的とするものであることを再確認した。
 - ・ 併せて、現存のリスクマネージャのCPD教育も目的とする。これまでの意見交換の中でも指摘されているCPDポイント制度の運用向上のため、ホームページの整備が必要。
2. 資格認定
 - ・ 講座の趣旨・目的からすると、「資格」よりも「修了認定」等の方が適切であるとも考えられるが、同志（リスク学に関心を持つ人材）を増やしたいという観点から、「資格」によりキャリアパスが保証されるものではないことを何らかの形で明記した上で、条件を満たした者に対して学会が資格認定することが妥当であろう、ということで合意した。
 - ・ 阪大講座修了のリスクマネージャ、学会認定のリスクマネージャ、これから資格認定を受けるリスクマネージャなどの識別をリスクマネージャ一覧表の中で確認できる工夫をする。
3. 開講の時期
 - ・ 4月、5月にこだわらない。しっかりと必要な準備を整えた上でできるだけ早く開講できるよう努力する。
4. 学会ホームページの「リスクマネージャ」ページの改定

- ・現状にマッチした内容に修正する必要がある。改定作業に必要な予算を計上していただく。

5. 講座運営における JRMN の役割

- ・新規の講座の開講・運営においては、日本リスクマネージャネットワークは、受講申込みの受付・管理、会場の予約、現地運営を担当する。

6. リスクマネージャ委員会に JRMN から刑部さん追加

- ・新たに日本リスクマネージャネットワークの刑部忠彦氏を学会リスクマネージャ委員会メンバーに追加していただく。

7. 開講に向けた今後の作業

- ・3月29日の学会理事会で報告していただいた後、メールでのやり取りをベースに開講に向けた実質的な準備作業を進めていく。

- ・広報活動に SNS を効果的に活用する。

- ・JRMN 関連の残預金（阪大プログラムから引き継がれたと思っていた）は存在しないが、必要経費は学会予算に計上していただく。今回の講座の会場使用料など。

4) 5月21日打合せ記録

JRMN 作成の打合せ記録を以下に、日本リスク学会作成の打合せ資料としてのメモを次ページより示す。

渉外活動記録（日本リスク学会 2024.5.21）

件名	リスクマネージャ継続教育と新規登録者養成について
目的	・今年度から開始するリスクマネージャ養成講座（既存リスクマネージャ継続教育を兼ねる）の開講準備のための意見交換
日時	2024年 5月21日（火） 13:00時～ 14:30時
場所	オンライン（Zoom）
相手	日本リスク学会 竹田先生
担当	JRMN 久保田、刑部、西村、古澤、東
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・今回だけでなく、今後必要に応じて複数回のオンラインミーティングで協議を続けることで同意した。 ・開講目的の明文化の必要性について協議した結果、竹田先生がチラシを作成しその中で記載することとなった。 ・開催形式について、それぞれの形式でのメリット・デメリットを比較した結果、ハイブリッド形式のリスクを回避し、対面（会場）形式+動画記録・配信の形で行うのがよいであろうとの結論に至った。この場合、参加人数の多寡について問われるものではないことを確認した。 ・関西（大阪）で開催することの意義について、改めて竹田先生からお話があった。 ・講師をしていただく4人の先生方（学会理事メンバー）のそれぞれの話題についてはお任せすることになった。全体のバランスは、来年度の残り4回のシリーズで調整できるであろうことを確認した。 ・学会とJRMNの役割分担については、すでに会議資料の中で大枠が示されており、詳細については次回以降に協議決定することとしたが、司会は学会側（竹田先生もしくは他のリスクマネージャ委員会担当理事の先生） ・学会リスクマネージャ委員会では今年度の予算として7～8万円準備しており、すべてをこの養成講座に充てる予定であるとの竹田先生のお考えが示された。 ・この養成講座を学会とJRMNの共催とすることについて、学会理事会で諮っていただくため、竹田先生に一任した。 ・次回のオンラインミーティングは6月初旬に行うこととした。
備考	

継続教育を兼ねた養成講座役割分担案

1 形式等

(1) ハイブリッド

大阪会場（対面式）＋オンライン ※一般公開型、事前申し込み

(2) 時期

第1回 2024年7月（年4回を予定）

(3) 対象者・人数

一般市民（対面式20名：うち養成講座10名程度）＋オンラインはフリー

(4) 講座内容

1回一コマ（90分）＋質疑応答、ディスカッションの時間（30分）2時間

2 作業分担案

合意の後明文化したものを残す。

(1) リスクマネージャネットワーク

- ・各回の参加者管理（google フォームなど、名前、メールアドレス、養成講座参加か一般参加か、受講者への事前案内など）
- ・場所の調整（学校施設の借り上げか公共施設か）
- ・当日支援（会場管理、オンライン配信、資料）
- ・広報（SNS、HP等の広報）

(2) 学会

- ・案内チラシ作成（ネットワーク HP との連携）
- ・リスクマネージャ登録希望者の管理（レポートの採点含む）
- ・修了証発行

3 今後のスケジュール

- ・リスクマネージャ委員会（5/31）までに役割分担の概要案。議事を踏まえ、準備と並行して、ブラッシュアップ。
- ・養成講座（第1回目）を7月に開催。できる範囲での準備、実施としたい。
- ・講座は年4回（一コマ90分）とする。
- ・2024年度プログラム案 ※全くの例えばです
7月米田先生（京大）、10月岸本先生（阪大）1月村上先生（阪大）、3月小野先生（産総研）

5) 7月11日打合せ記録

会議名	セミナーに関する打合せ (2024. 7. 11)		
日時	2024/7/11 (木) 10:00~11:00(結果)	場所・開催方法	ZOOM
参加予定者	日本リスク学会 竹田理事 (リスクマネージャ委員会担当) J RMN 東、久保田、西村、古澤、刑部		
参加者	日本リスク学会 竹田理事 (リスクマネージャ委員会担当) J RMN 東、久保田、西村、刑部		
予定作成者	刑部	結果記入者	刑部
目的	7月27日開催のセミナーの進行・役割分担など		
資料			
	予定	結果	
1. 本日の内容、進め方について	検討項目 (項目9をその他から下記に変更) 目標時間 (1時間) →結果もほぼ1時間で終了		
2. オンライン参加者の質疑応答について	竹田先生からの説明 ・現地参加者、オンライン参加者とも質問を受け付ける。 ・オンライン参加者はチャット機能で質問を書いてもらう。 ・自由討議の55分のはじめを質疑応答の時間にあてる。		
3. 自由討議(55分)の内容・方法の確認	・質疑応答だけで55分が終わってもよい。 ・質疑応答が終わり、時間がある場合は、自由討議とする。 ・質疑応答はオンライン参加者も聞けるが、自由討議は不可。		
4. 建設コンサルタント協会認定参加者のCPDについて	・CPD希望者については、ズームURL案内時に、 jrmn.comu@jrmn.sakura.ne.jp へその旨連絡してもらうようメールに記載してもらう。 ・その後の対応についてはJ RMNで担当する。		
5. 役割分担の確認	(日本リスク学会) ・参加申込者へのメールでのズーム案内等 (2回) ・当日のパソコン、インターネット接続機器準備 ・当日の司会進行、ズーム管理 (J RMN) ・建設コンサルタント協会CPD関係の対応すべて。 ・アンケート作成、取りまとめ ・現地参加者リスト、筆記具、CPD受講証明書、印鑑準備 ・当日は受付、CPD関係の確認		
6. 今後の予定の確認・当日の進行	・アンケートの作成、参加者へのズームURLの送付。 ・当日、関係者は13時現地集合。 ・セミナーの進行は日本リスク学会で実施する。		
7. アンケートについて	・アンケートはフォームによる作成でよい。 ・J RMNが作成し、J RMNが集計する。 ・フォームで作成したアンケートを各自に確認してもらう。 ・当日アンケートのURL, QRコードを提示する。 ・セミナー後メールでもURLを送る。		
8. 動画配信について	・動画はズームのレコーディング機能で撮っておく。 ・次回以降の一連のセミナーであり全体で考える必要がある ・セミナー当日に講師の先生に意見を伺う。 ・次回のセミナーの概ねの時期はセミナーの最後に告知。		
9. フォームで申込時の受付自動返信	・自動返信の設定がはずれていたため竹田先生に確認してもらう (当日自動返信を再設定)		

3.6.2 日本リスク学会リスクマネージャ委員会の活動

日本リスク学会のリスクマネージャ委員会に東代表理事が参加。委員会のメンバーは以下の通りである。本年度より刑部理事も委員となった。

日本リスク学会【2022年度リスクマネージャ委員会】Risk Manager board Committee

竹田 宜人 北海道大学（委員長、担当理事）

米田 稔 京都大学大学院

岸本 充生 大阪大学

関澤 純 NPO 法人食品保健科学情報交流協議会

東 泰好 （一社）日本リスクマネージャネットワーク

刑部 忠彦 （一社）日本リスクマネージャネットワーク

日本リスク学会との渉外記録を以下に示す。

表 3-1 日本リスク学会との渉外活動記録

リスクマネージャ委員会活動記録

件名	日本リスク学会リスクマネージャ委員会（2024年度第1回）
目的	日本リスク学会総会にあたってのリスクマネージャ委員会開催
日時	2024年5月31日（金） 14時～16時
場所	Zoom
参加者	竹田先生（委員長：北大）、米田先生（京大：日本リスク学会会長）、岸本先生（阪大）、関澤先生（NPO 法人食品保健科学情報交流協議会：もと日本リスク学会会長）、東（IRMN）、刑部（JRMN）
項目	① 委員会開催にあたり、リスクマネージャ委員会規定の改正について ② リスクマネージャ委員会のメンバー確認 ③ リスクマネージャ養成講座（継続教育含む）の開催について ④ その他
内容	次ページの日本リスク学会竹田先生の議事録参照
備考	

(添付)

2024年6月 日
リスクマネージャ担当理事 竹田

令和6年度第1回リスクマネージャ委員会議事録案

- 1 日時 2024年5月31日(金) 14時~16時(オンライン)
- 2 参加者 委員5名、委員候補1名



2 議事概要

- (1) 委員会開催にあたり、リスクマネージャ委員会規定の改正について
改正の必要性があることが確認された。
- (2) リスクマネージャ委員会のメンバー確認
現行メンバーの継続と刑部氏(リスクマネージャネットワーク)の追加が承認された。HP掲載の各委員の所属と名前の修正(京都大学、大阪大学)
- (3) リスクマネージャ養成講座(継続教育含む)の開催について
 - ① 添付資料を説明した後、議論を行った。結論として、新規リスクマネージャの養成は中止し、CPD制度を維持するための継続教育と市民講座を行うこととした。主な意見は以下の通り。
 - JRMNの活動を学会がサポートしつつ、学会独自の講演会また、講演会を開いていくってことは意味があるが、これを通じて資格を付与していくことは、あの非常に難しそうだ。
 - JRMNの組織ってというのは非常に大事で、あのぜひ頑張っていたきたいと思っている立場ですが、あのリスクマネージャという資格自体は、阪大の講習を修了者で終わりという考え方もできるんじゃないか?で新しく作るって言った場合に、阪大の修士課程のようなことは学会でおそらく担保できない。
 - JRMNが独自のあの組織としてその知識を利用して、あのどんどん自分たちのやりたい分野の勉強会などを開催し、場合によって学会と一緒にやっていく。

- ・リスク学に関する、様々な社会的な要請に応じた講習会をどんどんやっていくっていうことは、昔も私があ活動してた時期にはやっておりましたし、ある程講習料もとってやったんじゃないかったかな。
- ・JRMN が活動している。これを学会と連携してサポートしていく、あるいは学会としてあの広範な市民向けの講座をあのどんどん開催していくっていうのは、まあお金の面もありますけれども、やっていくっていうのは大いに奨励されていいんじゃないか？
- ・認定資格認定となると、そのレベルをどの辺に設定するかで、それを評価する側の誰がどういうふう、どういう基準で評価するか、その辺はいい加減だったらいけないと思う。その辺のことを考えると、基本はそのリスクマネジメントに関心を持って、関わっていきこうという、そういう人材、あるいはその裾野を広げる、裾野が広がった段階で、改めて正式にその資格として、あのリスクマネジャをあの養成するというのを考えてもいい。
- ・阪大で学んだリスクマネジャですね。これがどうなるかっていうのは、致し方ない部分もあるんでもう流れる流れに任せるしかない。
- ・リスクの話ってどんどんアップデートしていかないといけない部分があるんで、リスクマネジャの方にはやっぱりアップデートしてほしいんであの受けてほしいと思うので、市民向けのあのええリスク学の講座をやるっていうのはすごくいいことだし、必要なことなんでリスク学会として、むしろあの使命なんで。まあ、それは一石二鳥でできるかなと思う。
- ・新しくリスクマネジャを養成してなってもらっていうのに関しては、やれたらいいとは思いますが、それはもう長年議論してきて、ちょっと難しいなということ、だいぶ明らかなんで、そこはいったんこう諦めてというか、保留にして。
- ・リスクマネジャの継続というのは少し難しいのかなというのがやっぱり半数ぐらい占めていた。CPD 教育要するに継続教育と、それから一般市民向けの教育を行うということは、あの共通認識は得られた。

② 日本リスク学会、大阪大学、日本リスクマネジャネットワーク共催公開セミナー

場所 大阪大学中之島センター セミナー室 6E+F 無料

日時 2024年07月27日 午後(13:00~17:00) 準備 13時~ 開場 13時半

講演内容 リスク学とは 京都大学 米田 60分 14時~

AI とリスク 大阪大学 岸本 60分 15時10分~

自由討議 北海道大学 竹田 40分 16時20分~17時

3.7 サイエンスフェア in 兵庫

サイエンスフェアは1月末の日曜日に開催されるため、準備から実施まで、JRMNの事業念をまたぐことになるが、総会までに結果がとりまとまることから、2025.1.26 実施のサイエンスフェアについてその準備と結果について報告する。

1) 目的・経緯

スーパーサイエンス指定校の発表の場としての「サイエンスフェア in 兵庫」があり、2016年からJRMNはポスター発表とリスクのワークショップを行っている。今回はポスター発表と配布資料としてブックレット、ポスターのA4縮版、リスク管理の実践として(表面:新技術におけるリスク管理、裏面:南海トラフ地震臨時情報とリスク管理)およびアンケート調査の説明書(回答はグーグルフォームを利用)を用意した。

【サイエンスフェア in 兵庫の案内書の抜粋】

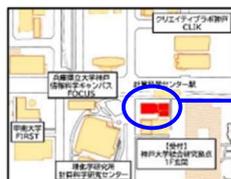
4b. 高校生および大学・企業・研究機関等によるポスター発表案内

- 高校生の発表は発表番号で「奇数班」「偶数班」に分け、以下の時間帯で発表を行います。2F ホール・ホワイエ
発表は聴衆に応じて各校発表10分、質疑応答5分を目安に行ってください。

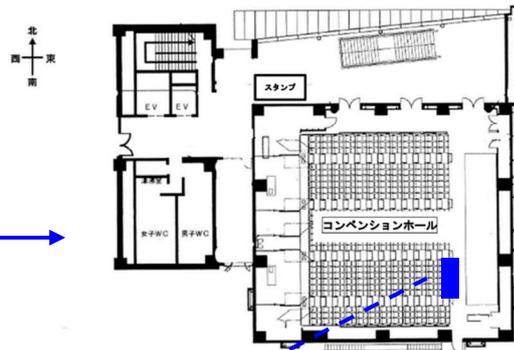
奇数班	【午前】10:30~11:30	【午後】12:50~13:50
偶数班	【午前】11:40~12:40	【午後】14:00~15:00

- 大学・企業・研究機関等による発表は随時行います(休憩等で離席する場合があります)。

神戸大学統合研究拠点会場



2F



JRMN 出展位置(座席は取り払われている)
他に約40のポスター展示、発表があった

【大学・企業・研究機関等による発表】

随時発表(休憩等で離席する場合)

発表番号	学校名	題名
30	グローバルサイエンスキャンパス ROOT プログラム	“越える”力を育む国際的科学技術人材育成プログラム
31	グローバルサイエンスキャンパス ROOT プログラム	ダイラタント流体における分散質の粒度分布及び形状がレオロジー特性に与える影響
32	グローバルサイエンスキャンパス ROOT プログラム	外来植物から取り出した界面活性成分を用いた殺虫剤の作成
33	公益社団法人 日本生体医工学会	いのちや健康を支える「生体医工学」のご紹介
34	一般財団法人 高度情報科学技術研究機構 神戸センター	高校生向けイベント「はじめてのプログラミング」の紹介
35	一般社団法人 日本リスクマネージャネットワーク(JRMN)	科学技術とリスク管理
36	国立研究開発法人情報通信研究機構	未来につながる情報通信基盤技術 ~ 国立研究開発法人情報通信研究機構 未来 ICT 研究所の紹介 ~
37	兵庫県立人と自然の博物館	人と自然の博物館(ひとはく)の活動紹介
38	シスメックス株式会社	手術支援ロボットへの取り組みと健康モニタリング装置の紹介
39	神戸薬科大学 薬学部 衛生化学研究室	様々な刺激に対する応答を司る「細胞の振る舞い」

2) 活動内容

サイエンスフェア公開セミナーを実施するにあたっての、活動内容のうち主なものを次表に示す。

表 3-2 サイエンスフェアin兵庫に関する活動内容

年月日	活動内容	方法	備考
2024.11.9	サイエンスフェア in 兵庫事務局より開催案内のメールあり	メール	
2024.11.26	西村理事が参加申し込み	メール	
2024.12.3	事務局より JRMN の申込を受理したとのメールあり	メール	
2024.12.20	関係者3名での今年度の出展の方針や役割分担を協議	ズーム	別紙打合せ記録
12.20~1.25	配布資料、ポップ、アンケート(-googleフォーム)作成		各自
2025.1.11	理事会のあとに準備する資料や、当日の集合場所等を確認	枚方事務所	
2025.1.20	事務局より案内書の最終版の送付あり	メール	
2025.1.25	関係者2名で最終確認	ズーム	
2025.1.26	(開催当日)		3名参加
2025.1.27	活動報告書作成		別紙
2025.2.15	アンケート調査の取りまとめ公表	JRMN の HP	

打合せ記録（2024年度サイエンスフェア）2025.12.20

会議名	サイエンスフェア		
日時	2024/12/20(金)17:00~18:00(結果)	場所・開催方法	ZOOM
参加予定者	久保田、西村、刑部		
参加者	久保田、西村、刑部		
予定作成者	刑部	結果記入者	刑部
目的	サイエンスフェアについてなど		
資料			
	予定	結果	
1. 本日の内容、進め方について	検討項目 目標時間		
2. サイエンスフェア目的の確認	2016年からJRMNはポスター発表とリスクのワークショップを行っている。 学生と教員に、リスクマネジメントの必要性を理解していただく		
3. サイエンスフェアの今年度の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターは昨年度に作成したものを使う ・昨年同様ブックレットとポスターのA4縮版を配布する ・以前実施したことがあるリスクに関する意識調査(アンケート調査)のように若者の意識調査としてグーグルフォームを作って行う(QRコード)。テーマはAIやSNSなど、高校生の興味が高いものとする。結果を集計しHPで公開するなど社会にも発信していく。 ・リスク分析の簡単なワークショップ用も実施する。 ・リスク管理に関する紹介用の配布資料を作成し配布する。 		
4. サイエンスフェアの今年度の時間・スケジュール準備するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・10時30分から15時まで。10時頃に集合すればよい ・準備するものは、配布資料(50分程度)とワークショップ用の模造紙、マジック、付箋などがある。 ・アンケートについては説明用の資料を作成する ・机は2台依頼している 		
5. サイエンスフェアの費用など、今後の予定	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷費用として、インク代として5000円程度を見込む ・参加者の交通費として2000円/人を見込む ・以上は1月の理事会で承認してもらう ・アンケート用の質問項目は今年に作成し共有する。(担当は西村理事と刑部理事) 		

(メモ)

- アンケート調査(グーグルフォームの利用)の内容
 - ・ハザードとリスクの違いしっているか
 - ・身近なリスクとして何があるか
 - ・AIを使ってるか
 - ・AIのリスクとして何があるか
 - ・どう対処しているか
 - ・SNSで書かれている内容はどこまで真実だと思うか
 - ・アプリとして以下のものにあるリスクとその対象は
マッチングアプリ
投資関係アプリ
バイトアプリ(闇バイトに引っかけないようにしているか)
- ワークショップの方法など
 - ・あなたにとってリスクとして何があるか
 - ・そのリスクはリスクマップのどこにあてはまるか
 - ・リスクマップの表を書いた模造紙に貼ってもらう
 - ・以上をとおしてリスクについて見える化し考えを深めてもらう

3) 当日配布資料



一般社団法人 日本リスクマネージャネットワーク

Japan Risk Managers' Network



環境リスクマネジメントで持続可能な社会の実現に貢献

【設立経緯】

「一般社団法人日本リスクマネージャネットワーク」は、大阪大学大学院の運営する「環境リスク管理のための人材養成」プログラム（2006年～2012年）で学んだ社会人有志がその知識を有効に生かそうと結成したものです。プログラム修了者は日本リスク研究学会（現リスク学会）から「リスクマネージャ」資格の認定を受け、学会に登録されています。

【目的】

本会はリスクマネージャが社会の要請に応じてリスク事象に取り組み、リスクマネジメントの普及・支援と調査研究を行うことにより、社会の安全・安心の向上に資することを目的として設立されました。

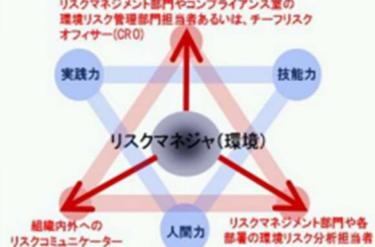
【活動内容の一例】

- エコ検定対策講座企画運営
- リスク研究学会での発表
- 「環境基礎論」ブックレット発刊
- ＜市民向けセミナー＞
- 小島直也氏（大阪大学）
「自動車排ガス対策にみるリスクトレードオフ：大気汚染VS地球温暖化」
- 竹田宣人氏（横浜国立大学）
「リスク学辞典からみた社会と経済：リスク学辞典がどう変わったか」
- 岸本亮生氏（大阪大学）
「リスクに対する主観的判断と客観的評価バイアス、ナッジ、費用便益分析」
- 竹本菊郎氏（元住友電工、工学博士）
「日本における環境問題に対する取り組み方とは？ 放射能汚染の現状と今後のあり方」 など多数
- ＜会員交流会＞
阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター（HAT神戸）など

【知の市場】

「知の市場」は、「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社学連携」を旗印として実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して、人々が自己研鑽と自己実現のために自立的に行き交い自律的に集う場とする。（「知の市場」ホームページより抜粋）

- 知の市場関連講座の開催（2010年～）
「環境基礎論（持続可能な社会と環境）」 「防疫薬総合講座」



リスクマネジメント部門やコンプライアンス室の環境リスク管理部門担当者あるいは、チーフリスクオフィサー（CRO）

実践力 技能力

リスクマネージャ（環境）

組織内外へのリスクコミュニケーター 人間力 リスクマネジメント部門や各部署の環境リスク分析担当者





数千名の講師と万人の受講者が互いに自己研鑽

互学互教
プロの現場の知恵を 広く社会に活かす

現場基点
多様な経験との多岐な能力で教養を高める

社学連携

知恵のフリーマーケット



持続可能な社会と環境







【リスクマネジメントが必要な理由】

1. “リスク”の語源と定義

誰もが、普通の会話で使う“リスク”という言葉、そもそも“リスク”の認識は古く、その語源は、伊弉語の「risicare（リジカシ）：勇気を持って試してみる」で、17世紀に船舶での交易が芽生えた時期に、荒波や岩礁などの危険を切り抜け、富を得ることに由来するという説があります。



レヴァント「ガリヤ湖の嵐」

今では、“リスク”は、一般的には「危険」とか「損害の恐れ」、つまり「好ましくない結果になる。又は、影響を受ける可能性」という意味で使用されていますが、長い歴史の中で、さまざまな分野の概念が入り、捉え方も多様化し、言葉の定義も変遷しています。

2. リスク(Risk)とハザード(Hazard)

リスクをもたらす源(危険源)のことをハザードといいます。
※つまり、ハザードを認識しなければ、リスクを認知できません。

<ハザードとリスクの違いの例>

トラは固有の危険性をもっているためハザードにあたりますが、左の図はトラのそばに人がいないので、トラに襲われる危険性はありません。この状態は、トラによって負傷の生じるおそれ(リスク)がない状態です。反対に右の図はトラの近くに人がいるので、リスクが高まっている状態となります。

危険性・有害性(ハザード)

人がいないため災害が起こらない

リスク

人がいるので災害が起こる可能性がある

【例】危険性の特定：トラ（ハザード）がいて、うかつに接近して襲われ怪我をする。

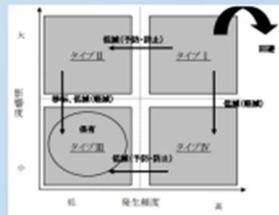
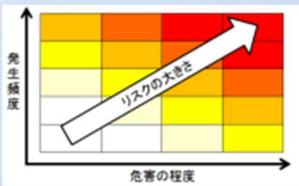
平成24年度中小零細規模事業場集団リスクアセスメント研修事業 リスクアセスメント事例
厚生労働省

3. リスクの大きさ

リスクの大きさは、以下のように表せます。

$$\text{リスク} = \text{影響の大きさ(重大性)} \times \text{発生の可能性(発生頻度・確率)}$$

4. リスクのマップ・対策



高発生頻度	タイプII リスク度③ ◆◆◆	タイプI リスク度④ ◆◆◆◆
低発生頻度	タイプIII リスク度① ◆	タイプIV リスク度② ◆◆
	少	多

少 ——— 発生頻度 ——— 多

- リスク度①：発生頻度少 損害規模小
- リスク度②：発生頻度多 損害規模小
- リスク度③：発生頻度少 損害規模大
- リスク度④：発生頻度多 損害規模大

先進企業から学ぶ事業リスクマネジメント 実践テキスト 平成17年3月経済産業省

5. 科学技術とリスクマネジメント

科学技術の進歩に伴い、人々の健康や環境にどのような影響を与えるかわからない場合があります。リスクマネジメントとは、新たなリスクを予測し、最小限に抑えるための取り組みであり、リスクの特定、リスクの評価、リスク対策の選択などのプロセスが含まれます。

研究活動の国際化やオープン化に伴う新たなリスクに対しては、研究の健全性・公正性(研究インテグリティ)の自立的な確保が必要です。

6. 科学技術のリスクコミュニケーション

リスクコミュニケーションには、リスクに関する情報を収集し、分析することが含まれます。新たなリスクが生じることを予測し、そのリスクを最小限に抑えるための取り組みの一環として、重要な役割を担っています。

リスクに関する情報を、科学者や政府、企業などの専門家から市民に向けて、わかりやすく伝えることを目的としています。



「科学技術社会の危機管理について」—新たな危機に備えるための考え方と方策—瀬台尚裕之

7. 伝わらないコミュニケーション

専門家である科学者は、分からないことは「分からない」と率直に伝える努力が必要です。

<専門家であるということの条件>

- ①自分の専門を正確に分かりやすく、専門外の人に説明できる
- ②自分の専門が社会的にどのような意味があるのかということを語る
- ③そして自分の専門にはどのような限界、制約があるかを語る。

<科学技術を社会に実装>

科学技術を社会に実装するとき、どうしたらいいのでしょうか。難しい問題だと思いますが、仮にリスク論で語るとしたら

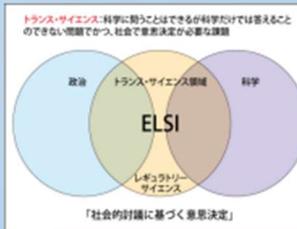
- ・リスクはゼロではない
- ・つまり失敗する確率はゼロではない
- ・納得のできる失敗とは何だろうか考える

<欧米での後悔の最小化 (Least Regret Policy)>

やるべきことをすべて尽くして、これだけやって失敗したのなら仕方ないだろうと思えば、失敗は許容できます。

それが尽くされず、知らないうちにリスクを負われ、被害をこうむれば怒るのは当然です。

こうすれば100%安心ということがない以上、ベストエフォート型で、議論を尽くしていくことも必要となります。



「トランス・サイエンス」は、1970年代にアメリカの核物理学者、アルヴィン・ワインバーグが作った用語です。

トランス・サイエンスの課題は、遺伝子組み換え、原子力発電、ナノテクノロジー、ICTなど、今後ますます社会に深く浸透していく。この課題解決に有用な概念として「ELSI (ethical, legal and social implications)」がある。「倫理的・法的・社会的な課題」と訳される。ゲノム編集をはじめ科学技術によって「できること」が爆発的に拡大している反面「やって良いこと」「やらなければならないこと」そして「やってはならないこと」の検討がなおざりにされている。科学技術が社会で活用するための必要不可欠な概念です。

(出典：『トランス・サイエンスの時代』)

リスクコミュニケーションは科学者と市民の「対話」 大阪大学名誉教授 小林傳司

リスクについての意識調査 (2025.1 実施)

スマホ、AI、アプリについてのリスクを考えよう！

目的

- ・世の中にはいろいろなリスクがあり、社会での対応や個人への呼びかけでリスクを低減しています
- ・みなさんも意識せずともリスクに対して何らかの対応を行っています
- ・このアンケートは個々人が改めてリスクを認識しリスクについて考えるためのアンケートです
- ・意識的にリスクを認識することがリスク対応への第1歩となります。
- ・回答することでセルフチェックできます。

対象者

・スマホを使っているすべての人

方法

- ・右の QR コードを読みとり、グーグルフォームで作成したアンケートに回答するだけです。(アンケートは1月31日まで)



項目

- I 基礎編
 - ・リスクとハザードの違い
 - ・「安心とは許容できないリスクがないこと」他
- II スマホやネットの情報リスク
 - ・ニュースの真偽(フェイクニュース)
 - ・アプリのリスク他
- III スマホやネットのリスク評価
 - ・人間関係悪化のリスクの発生頻度・影響度
 - ・情報流出リスクの発生頻度・影響度他
 - ・詐欺メールによる経済損失リスクの発生頻度・影響度他

結果

- ・リスクについての意識調査の結果を右の QR コードから入手できます。
- ・公開予定は2月 15 日



新しい技術の導入におけるリスク管理

新しい技術の導入時のリスク

- ・技術提供者の不確実性への懸念
- ・利用者の技術への不安
- ・社会の懐疑的な見方

リスク管理により予想外を最小に

- ①多面的にあらかじめ様々なリスクを抽出
- ②リスクの影響度・発生可能性を分析・評価
- ③状況に応じた対応策によるリスク対策

(例) 顔認証入場システムの導入におけるリスク管理

出典：2024年6月21日第37回日本リスク学会春季シンポジウム「リスクアセスメント事例」
<https://www.sra-japan.jp/cms/wp-content/uploads/2024/06/Tanaka-r.pdf>



(背景)
 建物や部屋へ入るためのIC・磁気カードの紛失など
 手書きの鍵貸出帳の準備や記入などの煩雑さ

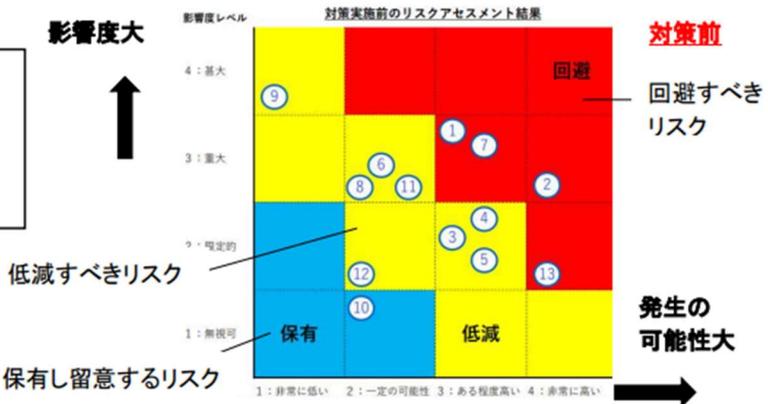
(新技術)

- ・利用者は顔認証カメラに顔を向けることでドアを解錠
- ・利用者は専用ウェブサイトで顔写真の登録が必要

①多面的にあらかじめ様々なリスクを抽出

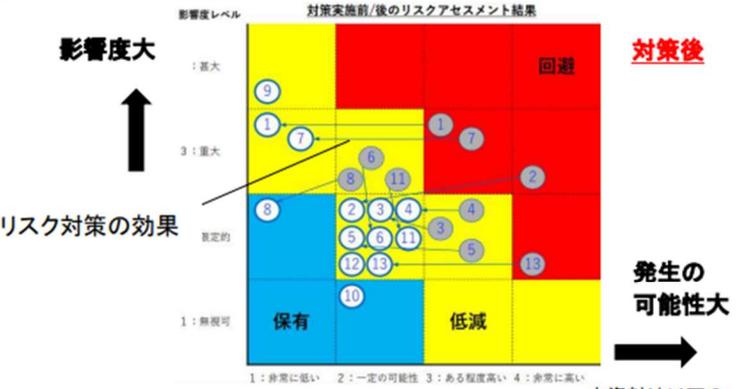
- 1 データの過剰収集・保存のリスク
- 2 利用者とのコミュニケーション不足
- 3 内容面のコミュニケーション不足
- 4 事件や事故時の情報利用に関する不安
- 5 顔情報の変更のしにくさ
- 6 アカウンタビリティの課題
- 7 誤認証による不利益
- 8 使いたくない人の不利益
- 9 なりすましての登録
- 10 変顔で遊ぶなどの迷惑行為
- 11 運用後の実態把握の仕組みの欠如
- 12 顔認証時の第三者の写り込み
- 13 有効でない同意(周りからの同調圧力)のリスク

②リスクの影響度・発生可能性を分析・評価



③状況に応じた対応策によるリスク対策

- リスク①の対策 ログ保存期間を最小限に
- リスク②の対策 学内説明会の実施、問合せ窓口設置
- リスク⑦の対策 現地掲示文に連絡先記載、現行カードの利用も可
- リスク⑬の対策 学内説明会の実施、人事評価との切離し



リスク管理により実現できたこと

- ・新技術提供者の自身獲得
- ・不確実性の最小化
- ・利用者の不安の払拭
- ・第三者への説明ツール



南海トラフ地震臨時情報とリスク管理

地震が発生するリスクは日本に住んでいる限りある。
 (南海トラフ地震の発生確率は30年以内に80%、いづどこではわからないリスク)
過去の地震の記録から地震に備えることが必要
 地震を賢くおそれることが必要

↓ 南海トラフ地震臨時情報の正しい知識

地震の予知はできない(東日本大震災(2011)は予知できなかった)
 予知はできなくとも発生確率が高まっている情報を提供
 南海トラフの想定震源域内で **M7、M8 クラスの地震発生後 7 日間における、
 2度目の地震発生に対する備えについての情報発信** (一部割れ概念図)

- 一部割れ(M7): **巨大地震注意**
 →確率が数倍高くなる。日頃の備えを再確認
- 半割れ(M8): **巨大地震警戒**
 →確率が数百倍高くなる。津波浸水想定区域
 から事前避難(想定区域はあらかじめ設定)

※1度目の地震へは日頃の対策しかない



南海トラフ地震臨時情報 → **苦肉の策**

南海トラフ地震臨時情報における対策

- ・都道府県・市町村・指定公共機関:「南海トラフ地震防災対策推進計画」策定
- ・津波浸水想定区域内の指定事業所:「南海トラフ地震防災対策計画」策定
 →定住者や常時労働者への対策が中心
- 2024. 8 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)発出時の課題として、経済活動や観光についての対応が十分でない場合があった。

南海トラフ地震臨時情報について考えよう

日頃の対策が重要(ハード面:ソフト面)

- 個人・家族 家の耐震化、備蓄:地震発生後の連絡方法、集合場所
- 地域・団体 ブロック塀など危険物の改善、備蓄:要支援者への対応
- 行政・社会 社会インフラの耐震化、備蓄:救助活動、避難所運営

あなた自身や家族について今一度考えてみよう

① 地震に対する日頃の対策・発生時の対策
 (日頃) _____
 (発生時) _____

② 巨大地震注意(M7 発生時)に対する日頃の対策・発出時の対策
 (日頃) _____
 (発出時) _____

③ 巨大地震警戒(M8 発生時)に対する日頃の対策・発出時の対策
 (日頃) _____
 (発出時) _____

臨時情報に対するリスク管理を新しい発想へつなげよう

年に1度7日間の避難生活(または疑似避難生活)を実践する
 → _____ がわかるのでは

地震発生後への貢献として資格や技能を身につける
 →防災士資格・上級救命講習・ _____

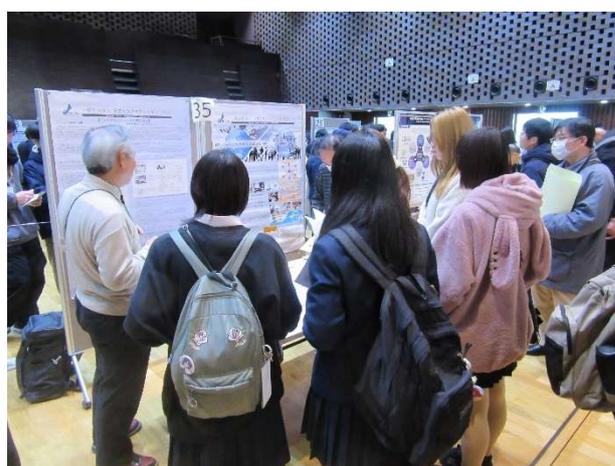
本資料は右記のQRコードで入手可



4) 活動成果・振り返り・今後の課題等
活動記録等を次表に示す。

サイエンスフェア in 兵庫 活動記録

件名	サイエンスフェア in 兵庫への参加記録
目的	リスクマネジメントの必要性、JRMN の活動を紹介することで、リスク管理の考えを学生や教員に普及させる。
日時	2025 年 1 月 26 日 (日) 10 時～ 15 時
場所 (開催方法)	神戸大学統合研究拠点 (ポータルライナー「計算科学センター」 駅下車スグ) 神戸市中央区港島南町 7 丁目 1 番 48
参加者	久保田、西村、刑部
項目	ポスター発表で、リスクマネジメントの必要性、JRMN の活動を紹介 リスク管理の実践に関する資料を配布 リスクについての意識調査の実施 (Googleフォームで回答してもらう)
結果	予定通り 10 時から 15 時まで普及活動を実施できた 話をきいてもらった人が約 <u>65</u> 名 ポスターへの A4 縮版配布枚数が約 <u>40</u> 枚 (準備は 50 枚) 「環境基礎論」の冊子の配布数が <u>50</u> 冊 リスク管理の実践に関する資料の配布数は約 <u>50</u> 枚 (準備は 50 枚) リスクに関する意識調査の説明書配布枚数は約 <u>50</u> 枚 (途中でなくなる)
感想等	<ul style="list-style-type: none"> ・熱心に聞いてくれる人がばかりだった ・リスク管理の方法 (影響度と発生頻度での評価) についてはじめて聞くという人ばかりで、役立つ方法であると認識してもらえた。(知らない人のほうが圧倒的に多い) ・配布資料を用意しておいたのがよかった ・リスクに関する意識調査の説明資料が途中でなくなりもう少し多く持っていけばよかった ・ハザードの説明などリスクに関する基本的なことを記述した配布物を次回は用意したほうがよいと思った。
予定等	リスクに関する意識調査の結果のとりまとめ
備考	理事会決定のとおり交通費を含む手当として 1 人 3000 円支給する





5) 来訪者の感想

企業向けにも「Thanks!!カード」があり、来てくれた高校生が以下のような感想を書いたカードを受け取りました。

Thanks!!カード

No	記入者	内容
1	高校生	アンケートから学べるのはとても良いと思いました。
2	高校生	スマートフォンを使っていると、ウィルス・ハッキング・情報漏洩が怖いと思っていたのでためになりました。
3	高校生	直近の南海トラフ臨時地震情報の話が面白かった。
4	高校生	リスクとハザードの違いがとても分かりやすかった。
5	高校生	日常的につかう「リスク」ということばが私の中でかなり曖昧だったことがわかりました。言葉は時代とともに変化していくと思うのでそこを知れて面白かったです。
6	高校生	ポスターの内容を話すのではなく、本当に伝えたい内容を抜粋して5分という短い時間で発表しているのがさすがだなと思いました。私たちの発表にも応用したいと思います。
7	高校生	あたりまえの話を自分は何も考えずにいたので、あらためて気づかせられたことがいろいろありました。自分でもいろいろ考えたいと思います。
8	高校生	ポスターの説明が、私たちの身近なものに関連づけて教えて頂いてとても分かりやすかった。
9	高校生	リスクマネジメントは私の将来にもとても役立つことなので、お話を聞いて、とても有意義な時間でした。リスクマップはいつかどこかで必ず役立つと思うので、しっかり覚えておこうと思います。
10	高校生	リスクマネジメントについてあまり知らなかったので知ることができてよかったです。
11	高校生	起こりうるリスクを自分たちに当てはめて聞いていて実感しやすかった。
12	高校生	リスクとは何か改めて考えました。

5) アンケートについて

リスクについて知ってもらい、スマホやネットのリスクを考えてもらうためのアンケートをグーグルフォームで作成し、その説明書を50枚配布した。

グーグルフォーム <https://forms.gle/5Ky4WWQRNcqC6P5E7>

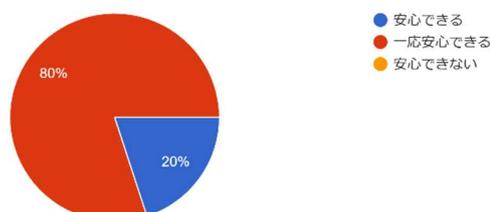
回答があったのは5名で、アンケート項目を少なくし、その場で答えてもらえるような説明の仕方が必要であった。ただし、5名でも傾向はあったのでその概要を以下にまとめた

I. 基礎編

1) 「安心とリスクについて」

リスク学では「安心とは許容できないリスクがないこと」と言われています

「許容できるリスク」の範囲ならあなたは安心できますか？

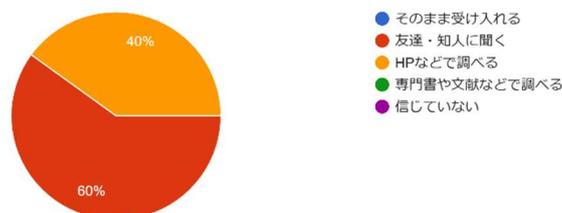


→許容できるリスクに個人差があると考えられるが、許容できる範囲なら安心できる。

II. スマホやネットの情報リスクについて

1) 「ニュースの真偽（フェイクニュース）について」

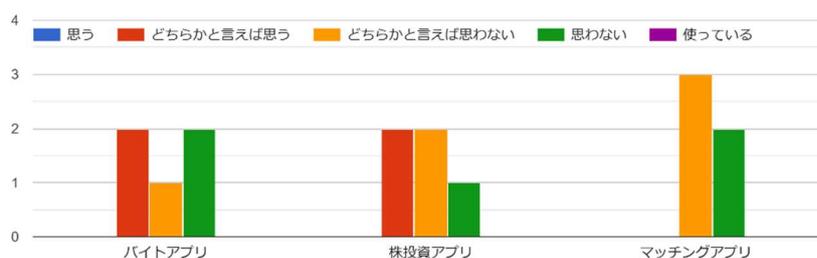
<どのように真偽を見極めますか>



→フェイクニュースかもしれないとの判断が必要だが、そのまま受け入れる人はいない。

2) 「アプリ利用におけるリスクについて」

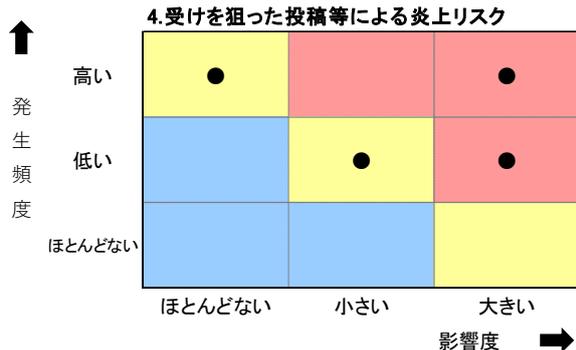
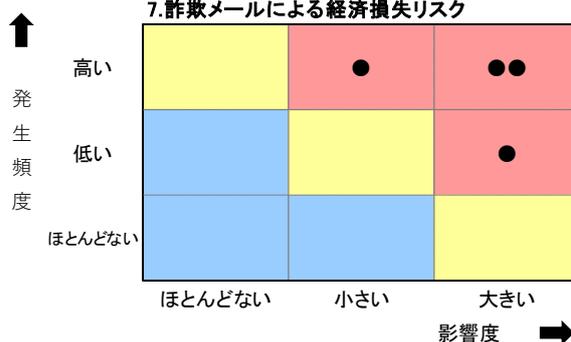
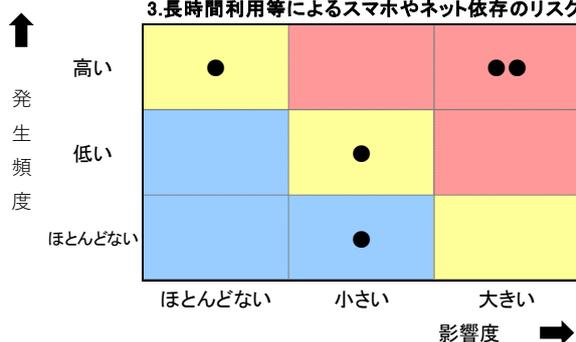
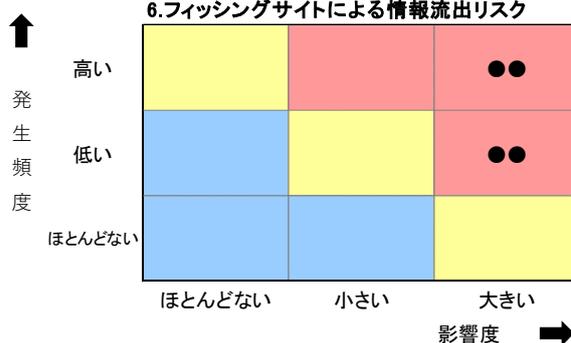
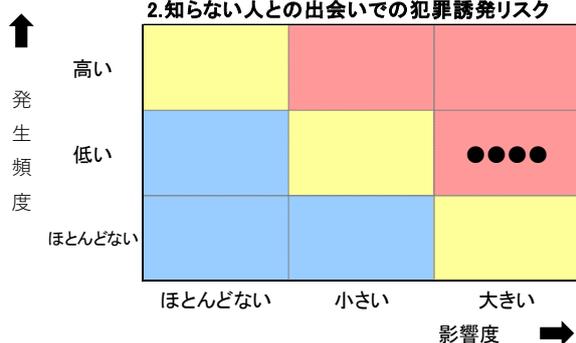
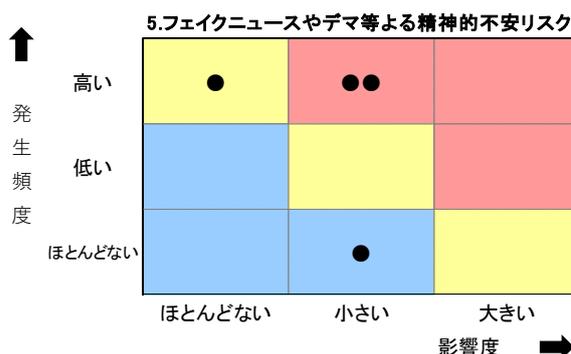
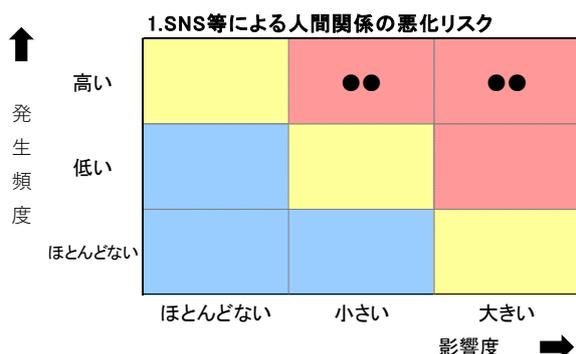
<以下の3種類のアプリについてリスクがあることを踏まえて、使ってみたいと思うか
選択肢から回答してください>



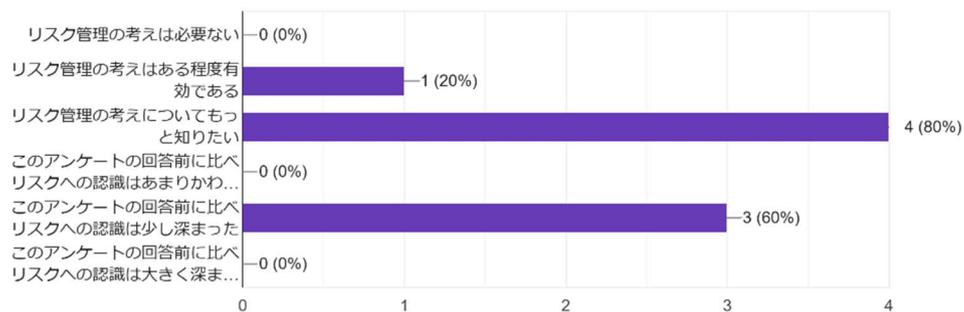
→アプリの種類にもよるが、使ってみたいと思う割合は低い

Ⅲ.スマホ(情報)のリスク意識調査です。

私にとってどうかの視点でお答えください。



→リスクマップで「回避」に入る割合が多いが、まずリスクが大きいことを認識してもらえた
(最後に) アンケートを回答した後の感想をお聞かせください。複数回答できます。



●状況に応じ取組む事業

3.8 講師派遣

近年講師派遣の依頼がなかったため、年度当初の事業計画書に記載はなかったが、今年度は以下の2件について、会員が講師として活躍し、本会の社会貢献の一面となった。

- 1) 防疫薬総合管理セミナー「リスクと便益について学ぶ」(古澤啓一 令和6年12月9日)
- 2) 防疫薬総合管理セミナー「医薬品による汚環境染を考える」(東泰好 令和6年12月23日)

2) 防疫薬総合管理セミナー「リスクと便益について学ぶ」(古澤啓一 令和6年12月9日)

講演前に記入	講演名	知の市場 第14回防疫薬総合管理セミナー リスクマネジメントの基礎
	講演目的	企業が持続可能な発展を進めるうえで極めて重要であり、大手企業にとっては法的に実施が要請されている「リスクマネジメント」の基礎について解説する。
	主催者	日本リスクマネジメントネットワーク/関西大学化学生命工学部/日本家庭用殺虫剤工業会
	講師名	古澤啓一
	日時	令和6年12月09日(曜日 水月) 時間 17:30 ~ 19:30
	開催場所	関西大学
	開催方法	オンライン(Zoom)+対面(関西大学)
	参加者数	予定 対面 若干名、オンライン 約30名
	講師目標	14回の連続セミナーの中でも、統一テーマの防疫薬とは直接的には関係性の薄いテーマを取り上げたので、判りやすい内容にして、一般の人が少しでもリスクに興味を持っていただくことを目標にした。
	講演内容	・リスクの基礎 ・リスクマネジメントの基礎
	資料	「リスクとリスクマネジメントの基礎」講義資料(PPT様式)
	振り返り	---
その他		
講演後に記入	実施結果 (予定通りか)	講演時間:120分 参加者数:リアル約1人 Zoom約30人 講演内容:予定通り
	講師目標 達成度合	多少は、従来より、改善できたかと思う。
	よかった点	過去に準備した資料を基に、更に、一般の人に判り易く、興味を持ってもらうための改善工夫した過程で、自分自身が多くの再認識をすることが出来た。
	反省点	「防疫薬総合管理セミナー」にて、化学物質に関するリスク評価の基礎を追加したが、専門の方にとっては物足りない中途半端なものとなってしまった。
	改善点	今回中途半端になった化学物質に関するリスク評価の基礎の説明は、具体例を示すなどして、実践の仕方がイメージできるものに改善の余地あり。
	参加者の感想など	----
	今後の展開など	-----
その他		

3) 防疫薬総合管理セミナー「医薬品による環境汚染」(東泰好 令和6年12月23日)

講師レポート (東泰好 令和6年12月23日)

講演前に記入	講演名	医薬品による環境汚染を考える
	講演目的	知の市場「防疫薬総合管理」へのJRMNからの貢献
	主催者	JRMN・関西大学
	講師名	東泰好
	日時	令和6年12月23日(月) 時間 17:30 ~ 19:20
	開催場所	
	開催方法	オンライン
	参加者数	予定 23名
	講師目標	講座参加者に医薬品の環境影響について理解してもらう。
	講演内容	『害虫防除薬』と同様に私たちの暮らしに不可欠な『医薬品』が使用後に環境に及ぼす影響について解説する。また、この問題に対する社会の対応、国際的な動向などを紹介しながらリスク管理のあり方を考える。
	資料	知の市場HPに掲載し参加者に配布
その他	(講師依頼の経緯) 例年通り (講師選定) JRMNから2講座を担当するに当たり内部で検討 (謝礼)なし	
講演後に記入	実施結果 (予定通りか)	講演時間 90分+質疑応答 20分 参加者数: 15名 講演内容: 予定通り オンラインオペレーション: 問題なく良好であった
	講師目標達成度合	講義後の課題レポート(まだ15人中8人の提出だが)の回答内容から、十分に目標を達成できたと考えている。
	よかった点	質疑応答での受講者からの質問が、講義内容をよく理解してくれたことを反映するような内容であり、嬉しかった。
	反省点	
	改善点	
	参加者の感想など	講義評価(まだ15人中8人の評価)で「非常に満足」が63%、「満足」が38%と高評価で、レポートでも、今まで知らずにいた課題に対して興味を持ってもらったことがうかがえ、良好であったと理解している。
	今後の展開など	日本における本課題への取り組みが海外と比較して大きく遅れていることから、国内での認識を高めるような取り組みを行い、講義にも含めていきたい。
	その他	

3.9 講演会開催（JRMN独自セミナー）

1) 予定

タイムリーなテーマでセミナーを開催することは、社会におけるリスクマネジメントの普及、会員のリスクマネージャとしての自己研鑽、JRMNの社会的存在意義の向上に資する。

今年度は、他の精力的に取り組む事業などの状況に応じて企画・実施する。

2) 結果

今年度は、日本リスク学会との共催の「リスクマネージャ公開セミナー」を計画では4回実施の予定（結果は3回実施）であり、このセミナーを充実させるため今年度、JRMN独自セミナーは実施しなかった。

3.10 他団体との連携（事業計画書になかった項目）

1) 目的・経緯

昨年度、NPO法人：大阪環境カウンセラー協会（OECA）主催の『幌延 深地層研究所見学、地層処分勉強会（1泊2日）ツアー』にJRMNから5名の理事が参加し、大阪環境カウンセラー協会と連携できるきっかけとなった。

昨年度の交流を通し、お互いの団体が協力することでいろいろなメリットがあることがわかったことから、今年度は以下のような連携活動を実施した。

- ① 大阪環境ネットへの会員登録（費用は無料）
- ② 環境教育インストラクター応募資格取得セミナー（7月6日～7日）5名参加
- ③ 次項の見学会、勉強会への参加
- ④ 「エコ緑日」（11月9日鶴見緑地で開催）で大阪環境ネットのメンバーとしてワークショップ「葉っぱと遊ぼう CO2を目で見る実験」を実施。参加者16組。

上記のうち、③次項で詳しく記述することから、①、②、④についてその概要を以下に示す。

2) 大阪環境ネットへの会員登録

(1) 会員登録の経緯

「なにわエコ会議」に参加しているエコパートナーである「大阪環境ネット」（任意団体）は、今年度から活動形態をみなおし、会員団体を増すこととし、古澤理事を通して大阪環境カウンセラー協会（大阪環境ネットは協会の理事）からJRMNに会員登録の打診があった。

「大阪環境ネット」では情報の交換が中心となること（当会のセミナーの参加募集の案内先とできる）、会費は不要であることなどから、理事各自の意見をきき、4月の臨時理事会で会員登録することを承認し、会員登録した。

なお、「大阪環境ネット」についてHPを抜粋して次に添付した。

大阪環境ネットについて

大阪には多くの環境関連活動団体が活動しています。
しかし、各環境団体は独自に活動しながらも財務問題、人材不足、情報不足、団体運営、行政との連携など様々な悩みを抱えています。
このような現状問題を基に「大阪環境ネット」を作り、環境関連活動団体がより活発に、円滑に活動できるように応援体制を強化していく予定です。
年2回の最新環境知識研修会、年1回の活動発表会、最新情報の伝達などの運営支援などなど。

大阪環境ネット規約

■目的

「大阪環境ネット」は、環境団体・企業および個人を対象にして、環境関連法・環境概況・環境技術などをすみやかに広めることのできるシステムを構築し、会員相互の交流を図りながら環境活動を一層円滑かつ効果あるものにするための支援を積極的に行うことを目的とする。

■会の名称

名称は「大阪環境ネット」とし、略称はOEN(Osaka Environment Network)。

■役員と事務局

代表1名、副代表1名、幹事若干名、監事1名、事務局1名。

■会員

会員は環境関連の活動を実施している団体・企業および個人。

■会員の資格

特に無し。

■事業年度

毎年4月1日から翌年3月31日までを事業年度とする(会計年度)。

(2) 会員登録のメリット

後述の4) エコ緑日は、大阪環境ネットに参加実績があることから、今回 JRMN は大阪環境ネットの会員として参加することができた。

3) 環境教育インストラクター応募資格取得セミナー (7月6日～7日) 5名参加

(1) セミナーの目的、参加の経緯「古澤理事からのメールの抜粋」

大阪環境カウンセラー協会 (OECA) の水藻副理事長より、標記のセミナー案内のチラシ (添付します) を頂き、JRMN の皆さんに参加願いたいとのことをご紹介します。

本チラシは、環境教育インストラクターとなって、一緒に OECA が行う環境教育に参加しましょうという一般向けの案内の体裁となっておりますが、「対象」欄に、「大阪環境ネット会員」が明記されていることに注目下さいとのこと。

今年度より、「大阪環境ネット会員」に入会しました JRMN は、これから OECA が企画される環境教育や各種活動の情報提供 (お誘い) を受けますが、OECA が行う環境教育とは果たしてどの

ようなものか実態を知ってもらうのに本セミナーが役立つと考え、今回、水藻様から JRMN が格別のお誘いを受けているものです。(スケジュール表の講義内容には、いくつかの外部講師の講義や演習がとり入れられています。)

環境教育インストラクター 応募資格取得セミナー

受講者
募集

2024年
7月6日(土)・7日(日)
10:00-17:00 10:00-17:00

「環境教育インストラクターとは」

環境問題を広範囲かつ多角的に思考しながら学習指導を行なうことができる指導者の認定を目的として、書類審査(指導計画書、論文、行動経歴書)による認定を行います。認定申請には、特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会(ECU)主催の本セミナー「環境インストラクター応募資格取得セミナー」受講終了が必要です。その後、書類審査を受けられて認定された方は「環境教育インストラクター認定書」の交付を受け ECU に登録されます。(審査料別途必要)

※参照 <http://www.minnanoecu.com>

インストラクタースケジュール

7月6日(土) (1日目)		7月7日(日) (2日目)	
時間	講義内容	時間	講義内容
9:30~	— 受付 —	9:30~	— 受付 —
10:00~10:30	あいさつと制度の説明	10:00~11:30	講話: 知って欲しい地層処分 NUMO 富森卓氏 WS: 電気の旅路を知ろう! (OECA)
10:30~11:00	環境行政と環境教育(近畿地方環境事務所)	11:30~12:30	— 昼食 —
11:00~11:30	WS: ランプシェードづくり(OECA)	12:30~14:00	環境教育の安全と実践 授業案立案
11:30~12:30	— 昼食 —	14:00~14:05	休憩
12:30~13:20	講話: 気候変動/2度までピンポン(OECA 上口浩幸)	14:05~16:00	グループ討議
13:20~13:30	休憩	16:00~16:30	グループごとの発表
13:30~15:30	講話: もったいないやん、食品ロス(大阪府 流通対策課) WS: カードゲーム2種(なんでやろう食品ロス 食べ残し NOゲーム)	16:30~17:00	環境教育インストラクター登録について 受講賞授与 修了式
15:40~17:00	講話: ごみ問題(株式会社エンタープライズ山栗 榊卓也氏) WS: 玉ねぎ染めのエコバックづくり(OECA)		

(2) セミナーへの参加実績、セミナー後のアンケート結果 (OECA 実施)

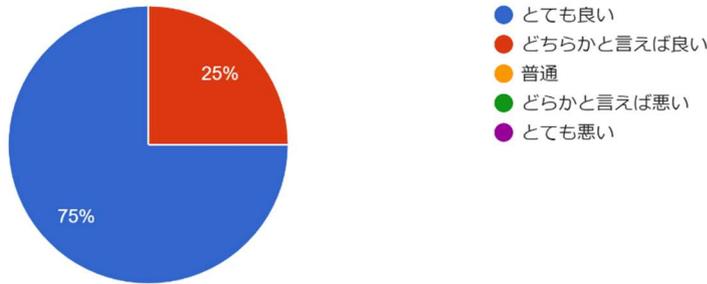
2日の全日程に、JRMN から5名参加した。参加経緯にあるように、OECAの活動内容(ワークショップの実施など)を理解するとともに、環境に関する知見を得ることができた。

環境教育インストラクター応募資格取得セミナーアンケートの結果

実施日時：2024.7.6・7 10:00～17:00 実施場所：ヒューライツ大阪

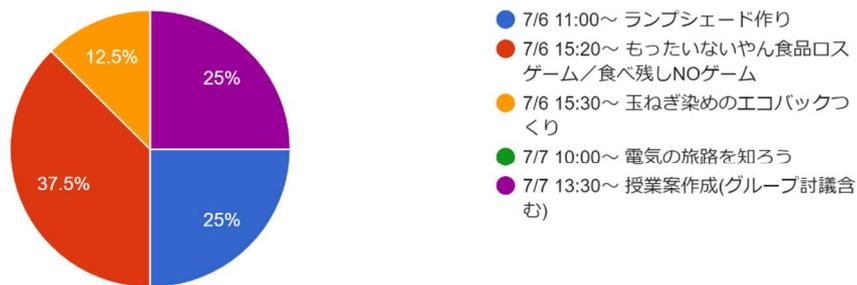
参加者：40歳以下2名（男女各1名） 大阪環境ネット会員（40歳以上5名）

今回の環境教育インストラクター応募資格取得セミナーは、総合的にどのくらい満足していますか。
8件の回答



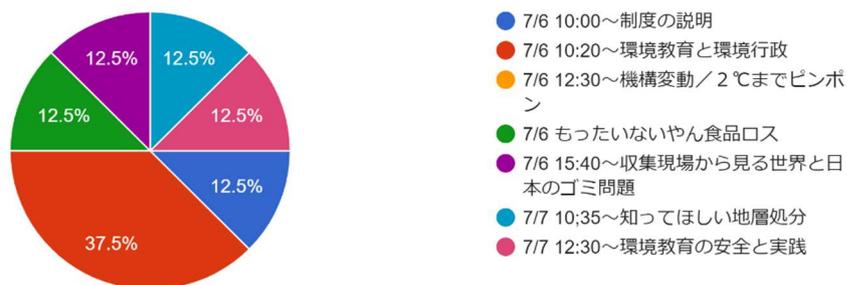
今回の環境教育インストラクター応募資格取得セミナー、興味があったワークショップは何でしたか？
8件の回答

4
(
合
リ



は、
ンセ
プ

今回の環境教育インストラクター応募資格取得セミナー中で、一番、興味があった講座は何でしたか？
8件の回答



大阪環境カウンセラー協会では、障がい者施設出前...施しています)スタッフとして参加できますか？
8件の回答



3)「エコ緑日」(11月9日鶴見緑地で開催)で「葉っぱと遊ぼう CO2を目で見る実験」を実施

(1)イベント参加の経緯「古澤理事からのメールの抜粋」

毎年、OECA 他が参加されている「大阪市 エコ緑日」が、今年も開催に向けて募集が始まったとのことで、OECA 水藻様より、今回申込みには、以前の幌延見学会時に、JRMN 遠藤さんから伺っていた「植物を用いた CO2 測定実験」のワークショップを取り入れたく、ご協力願いたいとの申し入れがありました。

→遠藤理事より参加希望があり、JRMNの有志を募り参加することとなった。

(2)イベントの概要

大阪市環境局が主催し、運営は特定非営利活動法人イー・ビーイングが実施する環境啓発のイベントであり、出展ブース数：56ブース(マルシェ、ホール内含む)、ステージ出演者数：10者、来場者約10,000人の大規模なイベントである。

なお、出展者・出演者マニュアルに記載されている開催趣旨は次のとおりである。

開催趣旨／テーマ

ECO
緑日

市民がECOと縁を結ぶ一日、それがECO緑日

今年のテーマは、「遊んで、笑って、体験して、「いのち」はぐくむ一日」

ECO緑日は、SDGsをテーマとしたイベントに、多くの人が集い、楽しむ場です。

来場者と出展者がこの場で出会い、人と自然、生活と環境の関わりなどについての気づきや、学びの機会となります。

この気づきが、地球をはぐくみ、全ての「いのち」をはぐくむ行動につながることを期待します。今年も、環境活動団体などのブース出展、キッチンカーなどのマルシェブース、ステージプログラムなどの構成により、出展団体、出演団体と協力し市民のみなさまと「ECO」をつなぐ一日とします。

ECO緑日を、遊んで、笑って、体験して「いのち」はぐくむ一日にさせていただくことを目標に、開催します。

<出展内容例>

省エネ・省CO₂/ECO技術/国産木材利用/ごみ減量・3R/食品ロス/プラスチックごみ削減/
生物多様性/フェアトレード/地産地消/オーガニック/都市環境保全 など

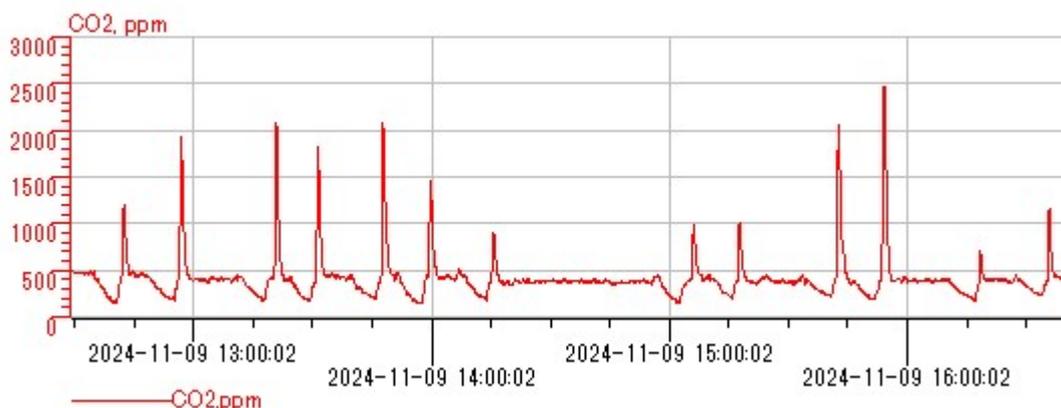
ECO 緑日・葉っぱで遊ぼう 2024.11.9 ♻️

快晴の土曜日・鶴見緑地公園の環境値 CO2 は 420ppm

SDGs をテーマとし、楽しく遊ぼうという ECO 緑日の趣旨にピッタリの「CO2 はかり隊」が出展しました。大阪環境ネットと JR MN の 7 人の隊員が協力して、「葉っぱと遊ぼう」、「CO2 を見よう」と声をかけて、年少さん（3 歳）から老夫婦（推定 70 歳越え）の 16 組 39 人の参加者が遊びました。最初は何をやるのかいぶかしげな様子でしたが、実験が進むにつれてだんだん真剣に取り組む姿に変わりました。隣のブースでは大阪環境カウンセラー協会が「電気の旅路を知ろう」と手回し発電機とペントナイトの実験を展示しました。二つ合わせて SDGs がよく理解できます。



さて次のグラフは一日分の CO2 の変化を示します。420ppm～450ppm から初めて、6 分後に 150～250ppm まで下がり、その後、人の呼気が環境値 420ppm から 800ppm～2500ppm まで上がった様子がピークでわかります。



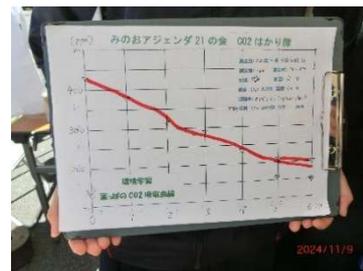
写真について：記録のための写真撮影は全員許可いただきました。

実験の手順は以下の通り。1組当たり15分ほど必要です。

- ① 絵本{葉っぱのフレデイ}を翻案した紙芝居です。葉っぱの一生は短いですが、春に生まれ、夏には人や動物のために日陰をつくり、光合成し、そして冬に枯れて散った後は土に溶け込んで木を育てる力になります。フレデイは友人のダニエルから「いのち」を学び、悔いのない一生を終えたことを知り、散っていきます。今上天皇も幼いころに母の美智子皇后に読んでもらったそうです。
- ② 試験木はオリズラン、キン芽ツゲ玉、セダムゴールデンカーペット(万年草)の三本を順次使用しました。いずれもきっちり仕事(光合成)をしました。試験木にCO₂測定器を載せ、45%の透明のビニール袋で覆い、しっかり紐で縛ります。
- ③ 太陽光を浴びて、葉っぱは光合成をします。毎分ごとにCO₂の値を読み取り、ホワイトボードに記入。太陽の明るさ(照度)や温度、湿度なども計器で読み取り記入します。5~6分の測定後、ビニール袋を開放し、その後呼気も測定します。
- ④ ホワイトボードの数字をグラフに移し、「葉っぱのCO₂吸収曲線」を完成し、写真を撮って、グラフと復習用メモを渡します。オリズランの幼鉢も希望者に配布しました。

実験に参加して頂いた方は次の16組で保育所から、高齢者まで多彩な参加があった。

- 第1組 はかり隊員(水藻さん)の予行演習です。
- 第2組 H中の三人組(先生も一緒)環境学習の一環でこのイベントに。
- 第3組、第4組 成人カップル二組
- 第5組 R保育所 年中組親子
- 第6組 M小3生 ばあばと一緒に
- 第7組 S小3生 熱心すぎる母さんと一緒に
- 第8組 成人さん二人組
- 第10組 K小2生の姉と弟と家族
- 第11組 A保育所 年長さんと年少さん
- 第12組 M小1年生 読取僕、母記入
- 第13組 環境専攻大学生二人組 グラフもさすがにきれいです
- 第14組 成人女性
- 第15組 香川県のM小5年生と弟と父と
- 第16組 T中学1年生 ばあばが熱心でした



3.11 理事勉強会・見学会（事業計画書になかった項目）

1) 目的・概要

NPO 法人大阪環境カウンセラー協会（OECA）が応募し採択された『2024年度地層処分事業の理解に向けた選択型学習支援事業』では、六ヶ所村の高レベル放射性廃棄物処理に関する施設についての事前学習会、現地見学会が実施され、これに OECA からの要請により、JRMN 理事が参加した。

●日時、参加者数

- ・ 1 回目の 8 月 4 日～5 日は理事 4 名が参加、
- ・ 2 回目の 10 月 31 日～11 月 1 日は理事 3 名が参加。

●内容

- ・ 「高レベル放射性廃棄物処理の状況」についての事前学習
青森県八戸駅前ユートリー八戸 5 階会議室
- ・ 六ヶ所村の原燃の PR センターでの学習及び原燃敷地内の低レベル放射性廃棄物埋設センター及び高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターの見学

2) 8 月 4 日～5 日参加報告（古澤理事作成報告書より）

●事前学習

8 月 4 日に青森県八戸駅前のユートリー八戸にて、NUMO（原子力発電環境整備機構）広報部 専門部長 富森卓氏より、「高レベル放射性廃棄物処理の状況」についての説明を受けた。

日時) 2024 年 8 月 4 日(日)午後 3 時 30 分～5 時

場所) 青森県八戸駅前ユートリー八戸 5 階会議室

参加者) 橋本 温子、亀井 亮太、水藻 望、山口 玉緒、山口 裕紀、
久保田 俊美、刑部 忠彦、西村 庄司、古澤 啓一

※職位/敬称略

配付資料) ”高レベル放射線廃棄物の地層処分について”ppt 資料(42 頁)

講演内容)

1) NUMO の紹介

NUMO は、原子力発電環境整備機構の略称であり、2000 年に設立された経済産業大臣による認可法人で、電気事業者による拠出金(税金ではない事を強調された)により活動している。

2) 放射性廃棄物の種類と処分方法

放射性廃棄物には、原子力発電所から直接排出される“低レベル放射性廃棄物”と、原子力発電所から排出された使用済み燃料を再処理施設等で処理を行った“高レベル放射性廃棄物”がある。

NUMO が扱うのは、後者の“高レベル放射性廃棄物”のみで、これらは、地下 300m よりも深い地

層での地層処分を行う。

3)原子力発電量の推移

1965年に開始した原子力発電による電力量は、1998年辺りまで、堅調に増加してゆき、日本の全発電量の3割を占めるに至った。その後は、やや低下に転じ、2011年の福島第一原発事故後、全ての原子力発電所は停止。老朽化していた火力発電施設を復活させて、電力不足を補ってきた。

4)高レベル放射性廃棄物(ガラス固化体)

日本の場合、原子力発電所から出た“使用済燃料”(4mほどの長さ)は、リサイクル(再処理)を行い、ウランとプルトニウムを抽出し、残った約5%の廃液はガラスと融かし合わせて固化する。

出来上がったガラス固化体(約1.3mの長さ)は、放射線量が約1500Sv/h(数十秒で死亡に至る程度の危険性)で、表面温度は200℃以上の高温

5)ガラス固化体は原子爆弾と異なりウラン等がほとんど含まれていないので、爆発することはない。

6)高レベル放射性廃棄物の発生量

すでにフランス、英国に委託して再処理を行った分が2505本と、現状すでにある放射性廃棄物をガラス固化体に換算したものが27000本、さらに今後も増えてくることを想定した本数をみこして、総数40000本のガラス固化体を処分できる施設を計画中。

7)高レベル放射性廃棄物の一時貯蔵

製造直後のガラス固化体は、放射能レベルが高く、表面温度も高いので(爆発の危険はないが)、一時的な(30~50年程度)貯蔵が必要→六ヶ所村に高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター

8)高レベル放射性廃棄物の放射能

時間とともに急激に減衰、30~50年で10分の一に、更に1000年で99%以上下がるとのこと。表面温度は、30~50年で100℃くらいに半減。(放射能は半減してゆすが、0になることはない。)

9)日本では、原子力発電所の操業前から処分の検討は行っていた。国際的にも、検討は続けられてきた結果、地層処分が最も安全な処分方法と結論付けされ、各国は自国内で地層処分するものと決まった。1999年「日本において地層処分は技術的に実現可能」であることが確認されている。

×宇宙処分 ×海洋投棄 ×氷床処分 ×地上での長期管理

10)地層処分とは

地下深く(300m以深)の安定した岩盤に閉じ込め、人間の生活環境や地上の自然保護から隔離して処分する方法

11)ガラス固化体からの放射性物質を抑える方法

「人工バリア」と「天然バリア」で長期に渡り閉じ込める。

・「人工バリア」

ガラス固化体→放射性物質をガラス「天然バリア」構造に取り込む(水に溶けにくい)
→溶け出すことがない。(計算では、7 万年以上)

オーバーパック(金属容器)→地下水とガラス固化体の接触を防止

緩衝材(粘土:ベントナイト)→水を容易に通さない、放射性物質を吸収し移動を遅らせる

・「天然バリア」

岩盤→放射性物質を吸収し、移動を遅らせる

12)日本に地層処分が可能な地域がある ことの解説

・火山について→過去、数百万年レンジで、火山の位置はほぼ変わらず

・プレートの動き→その方向、速さは、数百万年前からほぼ変化なし

・活断層→断層活動は、特定の地域にかたより、数十万年に渡り同じ場所で繰り返し起きている。

13)地層処分場のイメージと費用

・ガラス固化体を 4 万年以上埋設できる施設を全国で1か所作る計画

→処分費用 約 4 兆円(1 家庭あたり、毎月 20 円程度を電気料金に上乗せして徴収)

14)最終処分に関する取り組みのこれまでの経緯

2000 年 「特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律」制定

2007 年 高知県東洋町が応募→取り下げ

2015 年 「特定放射性廃棄物の最終処分に関する基本方針」閣議決定

→現世代の責任(可逆性と回収可能性を担保)

2020年10月9日、北海道の2自治体で文献調査受け入れを判断

・北海道 寿都町(すつつちょう)

・北海道 神恵内村(かもえないむうら)

これから20年程度をかけて調査を行い、最終処分可能かどうかを判断。

このどちらかで決まれば良いが、ともに不適であれば、六ヶ所村での貯蔵期限が切れてしまい、高レベル放射性廃棄物の行き先が無くなってしまう。(複数の手が上がることが望まれる。)

15)地層処分に関する「科学的特性マップ」の公表

2017年7月28日、経産省 HP で公表している。

好ましい範囲の要件、基準(海岸からの陸上輸送が容易な場所;海岸から 20Km 以内が目安)

【質疑応答】

Q:法的な根拠(裏付け)は、何を見ればよいのか？

A:2000 年の 「特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律」制定、及び2回の基本方針を見られると良い。(公開されている。)

Q:国際的な場で検討され、決定されたやり方に対し、日本は事情が違うからといって別のやり方を考えるということは可能なのか？

A:世界各国が検討した結果、地層処分が最も安全な処分方法であるとされている。

Q:原子力行政は変化している状況にもかかわらず、ガラス固化体を40000本と予測した根拠は？

A:推測した中で40000本が、見極めの良い境目であり、40000本から少々増えても、さほど費用は変わらないことを勘案した。もちろん、今後の原発の稼働基数や稼働期間は、誰にも分らないので、直近の政府の考えを基に予測している。予測よりも、大幅に稼働が増えれば、同等の施設を、もうひとつ追加になるかもしないが、相当あとになってわかること。

Q:管理期限を 200 年程度とされているのは？

A:施設の耐用年数が、それぐらいで限界となる。

Q:低レベル放射性廃棄物の処分場の管理は？

A:排出水の汚染状況の監視測定を行う。

Q: 処分場の跡地利用とは？

A: 何にでも利用いただけるが、通常は、公園などにすることが多い。

●【六ヶ所村見学時の質疑応答】

Q:建物から出ている煙突は？

A:換気用、および焼却場の排気用であり、排気の際にはフィルター等により汚染物質を除去し、排ガス測定を行っている。

Q:同じく、排出される廃水は？

A:蒸化させて、減量化し、排水処理を行った上で、放流する。

Q:貯蔵管理センターでガラス固化体を冷却した水は？

A:約 25℃上昇して放流される。ガラス固化体とは、直接接触しないので、汚染されることはない。

Q:この地域全体の汚染監視/観測は、どこが行っているのか？市？、県？、国？

A:青森県が行っている。



3) 10月31日～11月1日参加報告(遠藤理事作成報告書より)

<講演会>

10月31日に青森県八戸駅前のユートリー八戸にて、NUMO(原子力発電環境整備機構)広報部 専門部長 富森卓氏より、「高レベル放射性廃棄物処理の状況」についての説明を受けた。

日時) 2024年10月31日(日)午後3時20分～5時

場所) 青森県八戸駅前ユートリー八戸 5階会議室

参加者) 水藻英子、岡山佐千子、飯田隆介、岡本莉子、
大園博、池田博幸、宮崎隆介、遠藤憲雄

※職位/敬称略

配付資料) ”高レベル放射線廃棄物の地層処分について” ppt 資料(44頁)

講演内容)

1) NUMO の紹介

NUMO は、原子力発電環境整備機構の略称であり、経済産業大臣の認可を受けて2000年に設立された法人で、電気事業者社とほかの拠出金により活動している。

2) 原子力発電量の推移

1965年に開始した原子力発電による電力量は、1998年辺りまで、堅調に増加してゆき、日本の全発電量の1/3を占めた。その後は、やや低下に転じ、2011年の福島第一原発事故後、全ての原子力発電所は停止。国はこれまで以上に厳しい規制基準に合格した発電所のみ再稼働を認めることとなった。老朽化していた火力発電施設を復活させて、電力不足を補ってきた。今後の原子力発電の比率は20～21%の目安となっている。

3) 放射性廃棄物の種類と処分方法

放射性廃棄物には、原子力発電所から直接排出される“低レベル放射性廃棄物”と、原子力発電所から排出された使用済み燃料を再処理施設等で処理を行った“高レベル放射性廃棄物”がある。

NUMOが扱うのは、後者の“高レベル放射性廃棄物”と再処理工程で発生する“TRU 廃棄物”で、これらは、地下300mよりも深い地層での地層処分を行う。

4) 高レベル放射性廃棄物(ガラス固化体)と発生量

日本の場合、原子力発電所から出た“使用済み燃料”(長さ4mほど)は、リサイクル(再処理)を行い、ウランとプルトニウムを抽出し、残った約4%の廃液はガラスと融かし合わせて固化する。

出来上がったガラス固化体(約1.3mの長さ)は、放射線量が約1500Sv/h(数十秒で死亡に至る程度の危険性)で、表面温度は200℃以上の高温

NUMOでは4万本以上のガラス固化体を処分できる施設を計画中

5) 高レベル放射性廃棄物の一時貯蔵

製造直後のガラス固化体は、放射能レベルが高く、表面温度も高いので(爆発の危険はないが)、

一時的な(30~50年程度)貯蔵が必要→六ヶ所村に高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター
ガラス固化体は、安定した物質なので、それ自体に爆発性はなく、臨界になることもない。

6)高レベル放射性廃棄物の放射能

ガラス固化体の放射能レベルは時間と共に減少し、製造後1000年で99.9%以上下がる。表面温度は、30~50年で放射線量は1/10、温度は100度くらいまで減少。(放射能は半減してゆくが、0になることはない。)

7)処分方法に関する検討

日本では、原子力発電所の操業(1966年)の前1962年から処分の検討は行っていた。国際的にも、検討は続けられてきた結果、地層処分が最も安全な処分方法と結論付けられ、各国は自国内で地層処分するものと決まった。1999年「日本において地層処分は技術的に実現可能」であることが確認されている。

×宇宙処分 ×海洋投棄 ×氷床処分 ×地上での長期管理

8)地層処分とは

長時間の地上保管は自然災害などのリスクが増大するため、地下深く(300m以深)の安定した岩盤に閉じ込め、人間が管理することなく、廃棄物によるリスクを十分に小さく維持し続けることができる。深地層隔離は隔離機能だけでなく、酸素の少ない、防錆効果のある閉じ込め機能もある。

地下深部は自身の影響も受けにくい。

9)多重バリアシステム

「人工バリア」と「天然バリア」で長期に渡り閉じ込める。多重バリアシステムで放射性物質の動きを抑え閉じ込める

・「人工バリア」

ガラス固化体→放射性物質をガラス「天然バリア」構造に取り込む(水に溶けにくい)

→溶け出すことがない。(計算では、7万年以上)

オーバーパック(金属容器)→地下水とガラス固化体の接触を防止

緩衝材(粘土:ベントナイト)→水を容易に通さない、放射性物質を吸収し移動を遅らせる

・「天然バリア」 岩盤→放射性物質を吸収し、移動を遅らせる

10)日本に地層処分が可能な地域がある ことの解説

・火山について→過去、数百万年レンジで、火山の位置はほぼ変わらず

・プレート動き→その方向、速さは、数百万年前からほとんど変化なし

・活断層→断層活動は、特定の地域にかたより、数十万年に渡り同じ場所で繰り返している。

11)地層処分場のイメージと費用

・ガラス固化体を4万本以上埋設できる施設を全国で1か所作る計画

→処分費用 約4兆円(1家庭あたり、毎月20円程度を電気料金に上乗せして徴収)

2022年度末で積立額は1.2兆円

12)最終処分に関する取り組みのこれまでの経緯

2000年「特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律」制定

2007年 高知県東洋町が応募→取り下げ

2015年「特定放射性廃棄物の最終処分に関する基本方針」閣議決定

→現世代の責任(可逆性と回収可能性を担保)

2020年11月、北海道の2自治体で文献調査を開始

・北海道 寿都町(すつつちょう) 町から応募

・北海道 神恵内村(かもえないむうら) 国からの申し入れを受諾

いずれも交流センターを設置して、職員が数名常駐し対話活動を開始している。

2021年4月からは中立的立場のファシリテーターが進行し、住民との話し合いを開始

2024年6月 佐賀県玄海町で文献調査開始 国からの申し入れを受諾

これから20年程度をかけて調査を行い、最終処分可能かどうかを判断。

このどこかで決まれば良いが、不適であれば、六ヶ所村での貯蔵期限が切れてしまい、

高レベル放射性廃棄物の行き先が無くなってしまう。(複数の手が上がることが望まれる。)

13)地層処分に関する取り組み

現世代の責任として地層処分に向けた取り組みを推進するため、国が前面に立って取り組みを見せるため、2017年7月「科学的特性マップ」を経産省HPで公表し、適正の高い地域を提示している。国、NUMO、電力の合同チームが全国行脚している。

14)諸外国の地層処分の状況

最終処分地が決定した国 フィンランド(オルキルオト)、スウェーデン(フォルスマルク)、仏

その他 英国(4か所で概要調査)、ドイツ(サイト区域マップを公表)、米国(選定プロセス見直し)

【質疑応答】

Q:高レベル放射性廃棄物の再処理をなぜ、仏や英国に委託したのですか？ 委託費用や輸送に費用が掛かったり、危険ですね。

A:当時に再処理施設が日本になかったから

Q:六ヶ所村の再処理施設はテロや戦争にどの程度対応、準備をしていますか？

A:NUMOではなく、国や自治体の対応になると思われ、仮に何かを準備していても、機密事項

<施設見学> 11月1日(金) 9時~11時半

見学先:原子燃料サイクル施設(日本原燃) 従業員 3100人

案内者:江口グループリーダ、三国氏

配布資料:原子燃料サイクル施設リーフレット(31ページ)

訪問先

①低レベル放射性廃棄物埋設センター 3か所

- ②高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター
- ③使用済み燃料受け入れ貯蔵設備
- ④ウラン濃縮工場
- ⑤MOX 燃料工場
- ⑥再処理工場(本社より遠望 2026 年竣工予定)
- ⑦本社、管理センター
- ⑧既設設備(煙突、給水設備等)の竜巻用安全対策工事

【六ヶ所村見学時の質疑応答】

Q:配水タンクがなくなったときの対策は

A:近くの尾駸沼と二俣川から取水します。合計 3 ルート

Q:同じく、排出される廃水は？

A:蒸化させて、減量化し、排水処理を行った上で、放流する。



4. 会の運営

4.1 総会

4.1.1 定時総会

1) 総会の議案等

定款等に則り、以下の内容を諮り、総会で承認が必要な事項はすべて承認された

(1) 決議事項（社員総会承認事項）

第1号議案 2023 事業年事業報告の件

第2号議案 2023 事業年決算報告の件

第3号議案 監査報告の件

(2) 報告事項（理事会承認事項）

2024 事業年 一社) 日本リスクマネジャネットワーク事業計画（案）

2024 事業年 一社) 日本リスクマネジャネットワーク予算計画（案）

2) 総会にあたっての作成資料

(1) 会員への配布資料

- ・ 2024 事業年 JRMN（第16回）定時社員総会のご案内
- ・ 定時社員総会等出欠通知書 兼 議決権行使書
- ・ 議案書
- ・ 2023 年度事業報告書
- ・ 2023 年度決算報告書
- ・ 2023 年度会計監査報告書
- ・ 2024 年度日本リスクマネジャネットワーク事業計画（案）
- ・ 2024 年度日本リスクマネジャネットワーク予算計画（案）

(2) 事務局用資料

- ・ 定時社員総会に関する規定について
- ・ 定時社員総会に関するスケジュール
- ・ 定時社員総会の出欠通知書・議決権行使書の集計結果

3) 総会資料をHPに掲載

総会資料は以下のURLの箇所に掲載した。

[2024 年度\(令和6年度\)定時総会 | JRMN Members Site](#)

掲載資料

(1) 2024 年 2 月 25 日に開催の定時総会の結果

- 2024 事業年 JRMN（第16回）定時社員総会議事録

(2)2024年の事業計画書と予算書

⑧2024JRMN 事業計画書 240209 版

⑨予算書

(3)総会の案内書、2024年度事業報告・決算等の資料

①2023 事業年 JRMN（第 16 回）定時社員総会のご案内

②定時社員総会等出欠通知書

③2024 年度定時社員総会 議事次第

④2024 年度定時社員総会 議案

⑤2023JRMN 事業報告書 240209 版

⑥決算書

⑦監査報告書

4.1.2 臨時総会

2024 年度に臨時総会は実施しなかった。

4.2 理事会・執行理事会

4.2.1 理事会

定期理事会は原則として2月に1回、第2土曜日の午後に開催した（1月と2月総会に向けて、12月は次年度事業計画の採択のため開催。3～11月は2月に1回）。

また、4月に「大阪環境ネット」への会員登録のための臨時理事会を開催した。

合計9回の理事会を次の日程で開催した。理事会での主な会議内容（議事録）を次ページ以降に示す。

【実績】 理事会は次の9回実施した

①1月20日、②2月10日、③3月16日、④4月6日（臨時）、⑤5月11日、⑥7月13日

⑦9月14日、⑧11月2日、⑨12月14日

2024 年度 1 月定期理事会議事録

会議名		JRMN 定期理事会 (2024 年度 1 月)		
日時		2024/1/20(土) 13:30~15:30 結果	場所・開催方法	枚方事務所+Zoomによるオンライン
参加者 (予定)		東、久保田、石橋、宇野、遠藤、刑部、砂川、西村、古澤、宮崎		
参加者 (結果)		東、久保田、石橋、宇野、刑部、西村、古澤、宮崎、池田監事		
議事次第作成者		刑部	結果記入者	刑部
議事			内容 (予定)	
承認 決議	1	社員総会に出席できない社員の電磁的方法によって議決権を行使することについて (法律上必要)	刑部	定時社員総会等出欠通知書の議決権行使書の記載内容をもとに、「社員総会に出席できない社員の電磁的方法によって議決権を行使すること」の可否について理事会に諮ったところ、全員一致で賛成がえられた。なお、慣例として本件の理事会承認を毎年総会前に行ってきたが、内規として今後理事会で承認する方向性とすることを確認した。
確認 報告	2	総会までのスケジュール	刑部	スケジュール表を用いて、総会までの日程及び作業分担を確認した。なお、会計監査は本理事会の前に実施し、問題なかったとの報告があった。資料については1月31日までに、各担当箇所を完成させ2月3日を目標にメールで理事に内容確認を行ってもらうことを確認した。次回の2月の理事会は第2土曜日の2月10日に開催し、事業報告書等の理事会承認を正式にとる。
	3	2023 年度事業報告素案について	担当理事	事業報告書素案の中の概要表をもとに2023年度の活動実績を確認した。ディスカッショングループの「成果報告」は「中間成果報告」との表現にする。会計は12月理事会での資料をもとに作成しており、その後の経費等があれば必要に応じて修正する。素案について各理事に内容を確認してもらい修正、追記があれば1月中に担当者まで連絡してもらう。
	4	決算と予算の素案について	久保田	決算案の内容について確認した。次回理事会で正式承認する。予算について追加で必要な費用があれば久保田理事まで連絡する。
	5	2024 年度事業計画素案について	東、刑部	理事会の回数は年6~8回程度とし、理事会を予定しない月は、精力的に取組み事業の「環境リスク等勉強会」や「ディスカッショングループ」の活動にあてることについて理事全員の賛成をえた。
	6	サイエンスフェアについて	西村	1/21のポスターが完成しているとの報告があった。当日の集合場所について、西村理事から説明があった。活動結果については、記録としてとりまとめておく。
	7	会員・会費について	刑部	慣例に従い会費未納入でも退会の意思がなければ会員を継続することを確認した。会員のうち連絡先住所が不明な方について、東代表理事から問い合わせもらう。
	8	東工大での講演会について	池田	12/19に池田監事が東工大で講師をした講演会について、内容の概要や参加者数について報告があった。
その他	9	会のあり方 (会の形態) について	東	次回以降の理事会での検討内容とする。

(定款 28 条 理事会の権限)1. この法人の業務執行の決定、2. 理事の職務の執行の監督、3. 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職

承認・決議は理事の過半数が出席し出席者の過半数の賛成が必要な議事。確認・報告は理事の意見を求める議事。

2024 年度 2 月定期理事会議事録

会議名		JRMN 定期理事会 (2024 年度 2 月)		
日時		2024/2/10(土) 13:30~15:30	場所・開催方法	枚方事務所+Zoomによるオンライン
参加者 (予定)		東、久保田、石橋、宇野、遠藤、刑部、砂川、西村、古澤、宮崎		
参加者 (結果)		東、久保田、宇野 (Zoom)、刑部、西村、古澤		
議事次第作成者		刑部	結果記入者	刑部
議事			内容 (予定)	
承認 決議	1	2023 年度事業報告書	東	定款第 35 条に従い 2023 年度事業報告書を理事会に諮り全員一致で承認した。
	2	2023 年度決算報告書	久保田	定款第 35 条に従い 2023 年度決算報告書を理事会に諮り全員一致で承認した。
	3	2024 年度事業計画書	東	定款第 34 条に従い 2024 年度事業計画書を理事会に諮り全員一致で承認した。
	4	2024 年度事業収支予算書	久保田	定款第 34 条に従い 2024 年度収支予算書を理事会に諮り全員一致で承認した。 なお、日本リスク学会への本会としての入会、日本リスク学会の本会への入会依頼等を今後検討する。
確認 報告	5	2024 年度総会	東、刑部	司会は西村理事、議長候補は刑部理事とする。事業報告と事業計画の説明は東代表理事が、決算報告と予算の説明者は久保田代表理事が行う。当日は準備があるため、理事の集合は 13 時とする (総会は 14 時開始)。当日会場でパソコンを借りる必要があるか、西村理事に確認してもらう。
	6	サイエンスフェアについて	西村	1/21 ポスター発表したが 40 名程度の方が関心を示してくれた。活動結果を書類としてまとめておく。
	7	振込用紙の送付について	刑部	3 月理事会のあとに会費納入の依頼書・振込用紙の発送準備を現地出席者で行うことを確認した
	8	連絡がつかない会員について	東	郵送するにあたって郵送先不明で連絡もつかない会員がいたが、メールアドレスが変わっておりこちらからの連絡が行っていないと考えられ、東代表理事に個人的つながりを通して、連絡先等を確認してもらう
	9	その他連絡事項		2/8 に行った日本リスク学会との協議結果については次回の理事会の議題とする。
その他 意見聴取	10	環境リスク等勉強会のテーマについて	刑部	環境リスク等勉強会のテーマについて準備会を開く方針とするが、具体的な内容は次回理事会とする。
	11	ディスカッショングループの活動について	東	今年度の活動、テーマ等については準備会を開く方針とするが、具体的な内容は次回理事会とする。
課題				
今後の予定				

(定款 28 条 理事会の権限) 1. この法人の業務執行の決定、2. 理事の職務の執行の監督、3. 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職

承認・決議は理事の過半数が出席し出席者の過半数の賛成が必要な議事。確認・報告は理事の意見を求める議事。

2024年度3月定期理事会議事録

会議名		JRMN 定期理事会 (2024年度3月)		
日時		2024/3/16(土) 13:30~15:30 予定	場所・開催方法	枚方事務所+Zoomによるオンライン
参加者 (予定)		東、久保田、石橋、宇野、遠藤、刑部、砂川、西村、古澤、宮崎		
参加者 (結果)		東、久保田、石橋、刑部、西村、古澤、宮崎		
議事次第作成者		刑部	結果記入者	刑部
議事			内容 (予定)	
承認 決議	1	5月4日の会員交流集会の実施	西村	西村理事より南山城村での実施内容について説明を受け、全員一致であることを承認した。 また会からの費用負担 (イベント保険) についても全員一致で承認した。 5月の連休中の実施であり、西村理事と遠藤理事で詳細を確認し、4月に入ってからすぐに募集をかける。
	2	SNSアカウントについて	東	HPとの連携をはかり、事業 (講演会など) の予定や、勉強会の結果などを社会へ発信していくため、YouTubeとフェイスブックで会のアカウントをとることについて全員一致で承認した。
	3	年間予定について	刑部	理事会の開催月、4月以降は理事会または勉強会は第2土曜日とすることを全員一致で承認した。 本日出席していない理事に連絡を連絡・確認する。
確認 報告	4	会費の振替口座への振込依頼文	刑部	振込の会員への依頼文について報告する (執行理事会で確認済み)。 なお、本日会費の未納入者15名へ振込用紙とともに郵送した。住所不明者についても調べ後日発送する。
	5	情報交換会の予定について	刑部	5月、7月、9月、11月の4回実施する予定であることを報告する 5月の情報提供者は砂川理事として調整中である。
	6	勉強会について	刑部	勉強会の方向性や、実施方法の素案について説明する。4月に準備会を開き詳細を詰めていく予定である。
	7	ディスカッショングループについて	東	今年度の方針、予定について説明する。4月中に参加者を募集し、5名以上の参加で実施する予定である。
	8	その他連絡事項	東	3月11日に日本リスク学会の竹田先生よりメールがあり、「リスクマネージャ継続教育と新規登録者養成について」として連続講座「日本リスク学会が開催する養成講座」の実施についての意見を求められおりその内容を説明した。 実施にあたっての課題や懸案事項として、新規登録者養成にあたっての資格の位置づけ・講座の実施方法・費用・CPDの登録方法などがあげられた。なお連続講座に実施については基本的に賛成である。 東代表理事のほうで、本日だされた課題等をまとめて竹田先生へメールし、竹田先生と執行理事でのズーム会議を実施する方向で調整していく。
課題				
今後の予定		4月の勉強会準備会は担当の刑部理事の都合で第1土曜の4/6に実施する。		

(定款 28 条 理事会の権限)1. この法人の業務執行の決定、2. 理事の職務の執行の監督、3. 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職承認・決議は理事の過半数が出席し出席者の過半数の賛成が必要な議事。確認・報告は理事の意見を求める議事。

2024年度4月 臨時 理事会議事録

会議名		JRMN 臨時理事会 (2024年度4月)		
日時		2024/4/6(土) 13:30~14:10 予定	場所・開催方法	Zoomによるオンライン
参加者 (予定)		東、久保田、石橋、宇野、遠藤、刑部、砂川、西村、古澤、宮崎		
参加者 (結果)		東、久保田、石橋、宇野、遠藤、刑部、西村、古澤、宮崎		
議事次第作成者		刑部	結果記入者	刑部
議事			内容 (予定)	
承認 決議	1	「大阪環境ネット」への会員登録について	古澤	「なにわエコ会議」に参加しているエコパートナーである「大阪環境ネット」(任意団体)は、今年度から活動形態をみなおし、会員団体を増すこととし、古澤理事を通してJRMNに会員登録の打診があった。「大阪環境ネット」では情報の交換が中心となること(当会のセミナーの参加募集の案内先とできる)、会費は不要であることなどから、理事各自の意見をきき、全員が賛成であることから会員登録を承認した。
確認 報告	2	リスクマネージャ継続教育と新規登録者養成を目的とした日本リスク学会主催の講座について	東	3/23(土)15:30から日本リスク学会竹田先生と、JRMN代表理事・業務執行理事によるズーム打合せを行った結果を報告した。当該講座は、継続教育と新規のリスクマネージャの養成講座を兼ねており大学の講義レベルの内容をめざしている。2年間8回の受講でリスクマネージャ資格をとれること、JRMNは各講義の運営(会場予約、参加者募集、ズーム配信など)を分担すること、7月から実施予定であることが決まっており、7月の開講に向けて今後とも調整していく。
	3	HPの更新について	刑部	HPの公開ページについては以下の内容を更新済である。①事務所移転による住所変更、②日本リスク研究会から日本リスク学会への名称変更の反映、③講師派遣、セミナーの近年2ヵ年の実績追加。
	4	SNS(ユーチューブとフェイスブック)の運営方針	刑部	5月理事会での確認項目とする
	5	ディスカッショングループについて	東	メンバーの募集中である。期限は4月末までであり、5人以上集まった場合に活動は開始する。勉強会は環境リスク等に関する近年の知見を幅広く勉強し、横方向に知見を広げる誰でも参加できる場であるのに対して、ディスカッショングループは、特定にテーマについて固定されたメンバーで深くつめていく、縦方向に知見を深める場であることも確認した
その他 意見聴取	6	今後の予定について	刑部	5月4日の会員交流会の案内を西村理事から発信してもらう。 次回定時理事会は5月11日(土)であり、理事会のあとに砂川理事から話題提供してもらう情報交換会を実施するよていである。

(定款 28 条 理事会の権限)1. この法人の業務執行の決定、2. 理事の職務の執行の監督、3. 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職

承認・決議は理事の過半数が出席し出席者の過半数の賛成が必要な議事。確認・報告は理事の意見を求める議事。

2024年度5月定期理事会議事録

会議名		JRMN 定期理事会 (2024年度5月)		
日時		2024/5/11(土) 13:30~14:35	場所・開催方法	Zoomによるオンライン
参加者(予定)		東、久保田、石橋、宇野、遠藤、刑部、砂川、西村、古澤、宮崎		
参加者(結果)		東、久保田、刑部、西村、古澤		
議事次第作成者		刑部	結果記入者	刑部
議事			内容(結果)	
承認決議	1	会員資格に関する内規について	刑部	会員資格に関する内規(別紙①)は、これまでの慣例を文書化し、連絡がつかない人を会員名簿から削除(退会扱い)することを追加した内容であることを説明し、参加者全員の賛成を得られた。なお、JRMN 法務担当の砂川理事に意見を伺うようにする。
確認報告	2	5月4日の会員交流集会の結果報告	西村	参加者はJRMN7名、西村理事の知人3名であった。会費から経費を差し引いた残り196円は雑費としてJRMNの会計に繰り入れる。今回は9月上旬に稲刈りを兼ねた交流会を実施予定。(別紙②)
	3	2024年度JRMNの事業活動の全体概要図 JRMNのHPに追加するページについて	刑部	執行理事会で確認済みの内容であり、古澤理事と協力し増本さんへホームページの追加内容を連絡する。
	4	SNS(ユーチューブとフェイスブック)の運営方針	刑部	本理事会で十分な確認が行えなかったため次回理事会で再確認する。
	5	情報交換会の7月以降の予定	刑部	7月古澤さん、9月池田さん、11月久保田さんに情報提供をして頂くことを確認した。
	6	環境リスク等勉強会(6月)について	刑部	地球温暖化(気候変動)の最新知見について、教材は国立環境研究所ユーチューブの2つの動画とし、動画のあとに意見交換することで理解を深める方針で実施する。2週間前には会員へ連絡する。
	7	ディスカッショングループについて	東	4月末で参加者の募集は終了し、参加者が6名であったことから、予定通り実施する。5月中に第1回の会を実施する予定。
	8	日本リスク学会との連携	東	リスクマネージャ養成講座について、東代表理事から、日本リスク学会の竹田先生に連絡をとってもらい、Zoom打合せをすることとなった。候補の日のうち5/21(火)での実施で竹田先生と調整する。
	9	さくらインターネットについて	東	JRMNのホームページのセキュリティーについて、さくらインターネットの有料サービスを利用していたが、無料サービスでもSSL照明書の取得が可能であり、こちらに変更することでよい。
	10	グーグルマップのJRMNの表示について	東	JRMNの位置が旧久保田事務所となっており、「廃業」との記載があることから、刑部理事がグーグルに修正提案(「他の場所に移動済みである」に変更。ただし新しい住所は指定せず)をしてグーグルからの承認もメール受信している。ただし、すぐには反映されないため時間がたってからの確認が必要。
課題				
今後の予定		14:30~15:30に情報交換会を実施(情報提供者は砂川理事)		

(定款28条 理事会の権限)1.この法人の業務執行の決定、2.理事の職務の執行の監督、3.代表理事及び業務執行理事の選定及び解職

承認・決議は理事の過半数が出席し出席者の過半数の賛成が必要な議事。確認・報告は理事の意見を求める議事。

2024年度7月定期理事会議事録

会議名		JRMN 定期理事会 (2024年度7月)			
日時		2024/7/13(土) 13:30~14:30 予定	結果 13:30~14:40	場所・開催方法	Zoomによるオンライン
参加者 (通知)		東、久保田、石橋、宇野、遠藤、刑部、砂川、西村、古澤、宮崎、(JRMN 理事以外の会員はオブザーバーとして)			
参加者 (出席)		東、久保田、石橋、遠藤、刑部、西村、古澤			
議事次第作成者		刑部	結果記入者	刑部	
議事			内容 (予定)		
承認決議	1	7/27 セミナーの JRMN スタッフの交通費	刑部	セミナー当日の JRMN 現地スタッフは、久しぶりの集合セミナーであるため、執行理事の5名とする。リスク学会から2名分の交通費がでる。そのため残り3名の交通費実費については JRMN から支給することを諮ったところ、全員の承認が得られた。	
確認報告	2	環境リスク等勉強会(6月)の結果 環境リスク等勉強会(8月)の予定	刑部	6月の勉強会は地球温暖化の最新知見というテーマで国立環境研究所のユーチューブ動画を教材として実施し各自の気づきや、太陽光発電など取組んでいる内容、今後の取組意向などを出し合ったことを報告。 8月勉強会は7/27のセミナーを教材にそれに関する事項の深堀をする予定であることを報告。	
	3	HPの公開ページに追加するページについて	刑部	活動予定、成果のページを年度別に作成する予定であることを報告。 HPの変更箇所について担当者でとりまとめ、古澤理事より増本さんへ変更を依頼できるようにする。	
	4	情報交換会 (9月)	刑部	池田監事が担当していただくことで承諾は得ている。池田理事は現地参加となるため、現地+リモートで9月の理事会、情報交換会を実施する予定であることを報告。	
	5	知の市場について	西村	今月中にシステムに登録する作業を完了する予定	
	6	ディスカッショングループについて	東	「核のごみ」についてはプレ会議を実施し、各自が討議に用いる本は購入済みであることを確認。7/25に第1回の会議を実施し、今年度のディスカッションのテーマ3件を決定する予定。 「ライフステージにおけるリスク」については次の段階について宇野リーダーが検討中	
	7	日本リスク学会との連携	東	5/21の竹田先生との打合せ、5/31の学会リスクマネージャ委員会での討議の結果、7/27のセミナーは新規リスクマネージャ養成講座とはせずリスクマネージャの継続教育+市民向けの公開セミナーとすることを報告。 7/27のセミナーでのJRMNの役割分担や今後の作業内容については7/11に執行理事と竹田先生でズームミーティングをし、最終確認したことを報告	
	8	大阪カウンセラー協会からのイベント参加依頼	古澤	大阪環境ネットから遠藤理事が地元で実施している二酸化炭素と光合成に関するワークショップを、11/9の「エコ緑日」イベントで実施してほしいとの依頼があり、JRMNとして支援していくことを確認。	
その他意見聴取	9	新規リスクマネージャについて		日本リスク学会より新規リスクマネージャについてのJRMNとしての意見のとりまとめの依頼があり、7/27のセミナーが終わって以降、議論していくことを確認。JRMNとしての意見をまとめる必要あり。	
今後の予定		14:30~15:30に情報交換会を実施(情報提供者は古澤理事)			
次回理事会ほか		8月10日(土)13:30~環境リスク等勉強会、9月14日(土)13:30~9月理事会と情報交換会(3回目)			

(定款28条 理事会の権限)1. この法人の業務執行の決定、2. 理事の職務の執行の監督、3. 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職承認・決議は理事の過半数が出席し出席者の過半数の賛成が必要な議事。確認・報告は理事の意見を求める議事。

2024年度9月定期理事会議事録

会議名		JRMN 定期理事会 (2024年度9月)		
日時		2024/9/14(土) 13:30~14:10 予定	結果 13:30~14:30	場所・開催方法 枚方事務所+Zoomによるオンライン
参加者 (通知)		東、久保田、石橋、宇野、遠藤、刑部、砂川、西村、古澤、宮崎、池田 (JRMN 理事・監事以外の会員はオブザーバーとして)		
参加者 (出席)		久保田、石橋、刑部、西村、古澤、池田		
議事次第作成者		刑部	結果記入者	刑部
議事			内容	
承認 決議	1	—	—	—
確認 報告	2	7/27 セミナーの結果報告 11/16(土)の第2回公開セミナーについて	刑部	・当日の進行結果、参加者数を報告 ・11/16(土)15:10~16:40に静岡県立大学で第2回公開セミナーが実施されることを報告。
	3	環境リスク等勉強会(8月)の結果 環境リスク等勉強会(10月)の予定	刑部	・8月勉強会は7/27のセミナーを教材にそれに関する事項を深掘したことを報告。 ・10月勉強会は、災害に関するテーマで「南海トラフ地震臨時情報とリスク管理について」の予定。
	4	HPの公開ページに追加するページ等について	刑部	・トップページを一部変更したことを報告 (HP画面) ・ホームページに表示される広告を取りやめることについて確認した。
	5	情報交換会 (11月)	刑部	・情報の提供者は東理事に依頼する。
	6	知の市場について	西村	・7/18から参加者を募集し22名が受講。9月2日第1回、9月9日第2回実施したことを報告。 ・次回の9/30は西村理事のサポートとして刑部理事が協力する。
	7	ディスカッショングループについて	東 (代刑部)	・第1回7/25、第2回8/27、第3回9/12に実施。 ・第3回は6名の参加者があり各自活発な発言があった。次回は9/30の週で調整中。
	8	大阪カウンセラー協会との連携	古澤	・第2回六ヶ所村理事勉強会は10/31~11/1で実施。 ・11/9の「エコ縁日」二酸化炭素と光合成に関するワークショップに、遠藤・石橋・西村・古澤・刑部が参加予定
その他 意見聴取	9	サイエンスフェア in 兵庫について 次回理事会 11/9 はエコ縁日→11/2or23 南山城村稲刈り 新規リスクマネージャについて		・昨年実務を担当した西村理事から、事務局へ今年の状況を確認してもらう。 ・次回理事会は11月2日(土)とする。 ・9/15実施予定だが、会員交流会としての参加者はなく今回は会員交流会とはしない。 ・日本リスク学会との意見交換を今後図っていく。
情報交換会	14:30~16:00に情報交換会を実施(情報提供者は池田監事)			
次回理事会ほか	10月12日(土)13:30~ 環境リスク等勉強会、11月2日(土)13:30~ 11月理事会と情報交換会(4回目) 11月9日(土)の「エコ縁日」イベント:二酸化炭素と光合成に関するワークショップ、11月16日 第2回リスクマネージャ公開セミナー			

(定款 28 条 理事会の権限)1. この法人の業務執行の決定、2. 理事の職務の執行の監督、3. 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職承認・決議は理事の過半数が出席し出席者の過半数の賛成が必要な議事。確認・報告は理事の意見を求める議事。

2024年度11月定期理事会議事録

会議名		JRMN 定期理事会 (2024年度11月)		
日時		2024/11/2(土) 13:30~14:30 予定	結果 13:30~15:00	場所・開催方法 Zoomによるオンライン
参加者 (通知)		東、久保田、石橋、宇野、遠藤、刑部、砂川、西村、古澤、宮崎、池田 (JRMN 理事・監事以外の会員はオブザーバーとして)		
参加者 (出席)		東、石橋、宇野、刑部、西村		
議事次第作成者		刑部	結果記入者	刑部
議事			内容 (予定)	
承認決議	1	—	—	—
確認報告	2	11/16(土)の第2回公開セミナーについて	刑部	<ul style="list-style-type: none"> ・日本リスク学会との役割分担状況について、第1回セミナーの経験から順調に進んでいることを説明。 ・参加者申込状況は10/31日22時で138名参加登録あり。理事で申込を忘れていた方に登録を依頼。 ・交通費、大阪環境カウンセラー協会関連事項については12月の理事会で必要に応じて決議する。
	3	知の市場について	西村 刑部	<ul style="list-style-type: none"> ・14回のうち6回まで講義を実施。受講生は22名で、毎回ほぼ全員が参加し、充実している。今年度は、刑部理事が受講生として参加しつつ、毎回の開催案内などのサポートを行っていることを報告。
	4	大阪カウンセラー協会との連携	(古澤 遠藤)	<ul style="list-style-type: none"> ・11/9の「エコ縁日」二酸化炭素と光合成に関するワークショップについて、応援で参加する人は当日9時にブース設定の場所に集合することを確認。
	5	ディスカッショングループについて	東	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのディスカッションの結果多くのメンバーに共通する意見のまとめまで進んでいることを報告。 ・2025年1月または2月の理事会開催日に合わせ JRMN 会員に、活動結果を発表する方向で取組む。
	6	HPの運用状況	刑部	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度変更した箇所として、公開ページに活動実績一覧を追加し、活動結果もリンクしていることを説明。会員専用ページのカテゴリーは、今年度の活動内容に合わせて修正し随時更新している。
	7	2024年度の会計収支見直しについて	(久保田) 刑部	<ul style="list-style-type: none"> ・久保田理事は都合により欠席したことから、今年度からはじめた年会費の郵便振り込みの実績について、刑部理事より5名の実績があり入金額は5000円×5名-手数料862円=24138円であったと報告。
	7	新規リスクマネージャと会員の拡大についての検討方針・検討方法について	刑部	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経緯や、現時点での課題等について説明。 ・すぐには結論がでない課題であり、来年度の活動の一つとして取組むなど次回理事会で方針を協議。
	8	次年度事業計画について	刑部	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度事業を原則継続していく方向性を確認。 ・定款上は12月の理事会で決議する必要がある(微修正は残る可能性あり)、準備を進めていく。
その他意見聴取	9	サイエンスフェア in 兵庫	西村 刑部	<ul style="list-style-type: none"> ・9/25にjrmn.office2023のメールアドレスに神戸高校の担当者から、「サイエンスフェア in 兵庫の要項は11月上旬に送付」と連絡があり、今年度も準備を進めていく。
今後の予定		14:30~15:30に情報交換会を実施(情報提供者は刑部理事)		
次回理事会ほか		11月9日(土)の「エコ縁日」イベント:二酸化炭素と光合成に関するワークショップ、11月16日(土)15:10~16:40 第2回リスクマネージャ公開セミナー 12月14日(土)13:30~ 12月理事会 2025年度の事業計画		

(定款28条 理事会の権限)1.この法人の業務執行の決定、2.理事の職務の執行の監督、3.代表理事及び業務執行理事の選定及び解職承認・決議は理事の過半数が出席し出席者の過半数の賛成が必要な議事。確認・報告は理事の意見を求める議事。

2024 年度 12 月定期理事会議事録

会議名		JRMN 定期理事会 (2024 年度 12 月)		
日時		2024/12/14(土) 13:30~15:30 予定	結果 13:30~15:50	場所・開催方法 Zoom によるオンライン
参加者 (通知)		東、久保田、石橋、宇野、遠藤、刑部、砂川、西村、古澤、宮崎、池田 (JRMN 理事・監事以外の会員はオブザーバーとして)		
参加者 (出席)		東、久保田、石橋、遠藤、刑部 (5 名で成立)		
議事次第作成者		刑部	結果記入者	刑部
		議事	内容 (予定)	
承認 決議	1	2025 年度事業計画、収支予算書 (事業報告概要: 資料①-1、事業計画書: 資料①-2、収支予算書: 資料①-3)	執行 理事 全員	<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度振り返りとして事業報告(案) 概要を用い、当初計画していた内容はほぼ実施でき、新たに実施した項目もあり、年間予定・実績表では年間 51 日活動していることを説明した。 ・次年度の事業計画書については今年度事業を原則継続していくが、ディスカッショングループは担当者が未定であるため、1 冊の本の深読み会のような形での実施も考えていく。また、2 年前に会員拡大について検討したが、次年度は現状を踏まえ改めて検討していく。 ・次年度の収支予算書は今年度ベースで作成していることを説明した。 ・以上の次年度の事業計画書・収支予算書について採決した結果、全員の賛成が得られ承認された。
確認 報告	2	11/16(土)の第 2 回公開セミナーと第 3 回 公開セミナーについて (資料②-1、②-2)	刑部	<ul style="list-style-type: none"> ・11/16(土)の第 2 回公開セミナーはズーム参加者 116 名であった。参加者の 70%以上が満足と回答があった。ただし、音声の聞き取りにくさや、画面の見にくいなどの課題があった。 ・次回 2/8 は阪大中之島センターで行う予定であり、今回はセミナー室は 1 室でよく予約を進める。
	3	知の市場について (今年度進行状況: 資 料③-1、次年度: 資料③-2)	西村 刑部	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は 14 回のうち 11 回が実施済みである。・次年度について講座の取纏め役が森さんから手嶋さん (日本家庭用殺虫剤工業会 専務理事) へ交代となり、その打合せを 11/25 に行った結果を説明した。
	4	大阪カウンセラー協会との連携 (資料④)	古澤 遠藤	<ul style="list-style-type: none"> ・11/9 のエコ縁日 (鶴見緑地で開催) で大阪環境ネットのメンバーとしてワークショップ「葉っぱと遊ぼう CO2 を目で見る実験」を実施した (JRMN から 5 名参加)。実験への参加者 16 組と盛況であった。
	5	ディスカッショングループについて	東	<ul style="list-style-type: none"> ・11/28 に第 6 回のミーティングを開催し本年度の活動は終わった。東代表理事のほうで、ディスカッションの内容を報告書形式でまとめる、2 月の総会で紹介するなど詳細についての報告を行ってもらおう。
	6	サイエンスフェア in 兵庫	西村 刑部	<ul style="list-style-type: none"> ・1/26 にポスター発表をすることで事務局へ申込済みである。12/20 に主要な参加者で打合せを行い詳細について詰めていく予定である。昨年同様ブックレット配布・ポスター A4 版配布を行う。また、ワークショップ (リスク分析の体験) の実施や、リスク分析評価シートの配布などを今回検討する。
	7	2024 年度の会計収支見通しについて (資料①-3 に記載あり)	久保田	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の繰越金と現時点での資金より、本年度の収支は約 5 万 4 千円のマイナス、次年度への繰越は約 57 万円となることを確認した。細かい数字については、今後積み上げていく。
	8	本年度事業報告 (本編) について	刑部	<ul style="list-style-type: none"> ・取りまとめ方針として、昨年度の事業報告書の内容を今年度版に修正することとする。なお、3 か年程度はこの形式で継続することでよいことを確認した。
	9	その他 (資料⑨)	刑部	<ul style="list-style-type: none"> ・2025 年度総会に向けてのスケジュール案を提示し、例年通り 2 月の最終日曜日の 2 月 23 日に総会を開催することを確認した。2 月理事会は 2/1 とし、会計監査の日程は会計担当で今後設定してもらおう。
その他 意見聴取	10	次年度の理事・監事選任について (資料⑩-1、資料⑩-2)	刑部	<ul style="list-style-type: none"> ・前回 (2 年前) の選任方法 (会員への通知文) について資料⑩-1 で説明した。今回はまず選任方法の内規をつくり、それに従い作成する方針でよいことを確認した。内規 (資料⑩-2) は 1 月理事会で決議する。
次回理事会ほか		1 月 11 日 (土) 1 月理事会		

4.2.2 執行理事会

理事会では、成案についての決議をはかり、理事会での確認・報告事項についてもその整理が必要なため、必要に応じて理事会の前に執行理事会を開催し、成案の作成、検討事項の要点の整理等を実施した。また、理事会で提起された課題についての対応をはかるためにも、理事会を受けて執行理事会を開催した。

【執行理事会の構成】：代表理事・副代表理事・業務執行理事(3名)の計5名

執行理事会は次の6回実施した

① 1月4日、②3月9日、③4月27日、④6月14日、⑤8月21日、⑥11月21日

本年度開催した7回の執行理事会の概要と資料などを下表に示した。

表 4-1 執行理事会の開催概要

年月日	会議内容
2024.1.4	1. 1月理事会の議事次第、2. 令和6年度総会の開催について 3. 令和5年度事業報告書、4. 令和6年度事業計画書 5. 会員・会費について、6. 会の形態について
2024.3.9	1. 3月理事会の内容について、2. 総会の振り返り 3. 連絡がとれない会員について、4. 会費の振込口座への振込依頼等 5. SNSアカウントについて、6. 5月4日の会員交流集会について 7. 情報交換会について、8. 環境リスク勉強会について 9. ディスカッショングループについて、10. 年間予定について 11. HP・メーリングリストについて
2024.4.27	1. 5月理事会の内容について、2. 知の市場について 3. 7月から始まる養成講座について、4. HPの公開ページに追加するページについて 5. JRMNの重要物について、6. 5月4日の会員交流集会について 7. 情報交換会(7月)、8. 環境リスク等勉強会(6月)について 9. ディスカッショングループについて、10. 増本さんとのズーム打合せ 11. 会員について
2024.6.14	1. 7月理事会の内容について、2. 5月31日本リスク学会リスクマネージャ委員会の結果 3. 新規のリスクマネージャ養成講座について、4. 7月27日のセミナーの内容の確認等 5. 7月27日のセミナーのJRMNの分担内容の確認、6. セミナーの費用 7. 広報の方法、工夫、8. セミナーの今後の予定 9. JRMNのホームページについて
2024.8.21	1. 9月理事会の内容について、2. 7月27日のセミナーの振り返り 3. セミナーの費用、4. 11/16セミナーへの対応について 5. JRMN ホームページについて、6. 2024年前半のまとめについて 7. 新規のリスクマネージャ養成講座について
2024.11.21	1. 12月理事会議案、2. サイエンスフェアへの参加 3. 知の市場、4. その他

4.3 HP活用等

1) HPのトップページの修正・追加を実施した

①ご案内 (1箇所)

日本リスク研究学会認定 (誤) → 日本リスク学会認定 (正)

②設立趣意書 (2か所) 平成20年作成の文章であり「研究」は残しておき()書きで現名称を追加 日本リスク研究学会 (誤) → 日本リスク研究学会 (現日本リスク学会) (正)

③倫理憲章 (1か所) 平成20年作成の文章であり「研究」は残しておき()書きで現名称を追加 日本リスク研究学会 (誤) → 日本リスク研究学会 (現日本リスク学会) (正)

④定款 (1か所) 住所変更

大阪市・・・・(誤) → 枚方市 (町名番地は省略) (正)

⑤リスクマネージャとは (3か所)

日本リスク研究学会 (誤) → 日本リスク学会 (正)

資格取得者数は最新の値にする 「2022年4月現在、31名」

⑥JRMNへの入会 (3か所)

日本リスク研究学会 (誤) → 日本リスク学会 (正)

⑦アクセス

地図からあとをすべて削除 (個人の自宅を事務所としているため)

⑧講師派遣

最新の4件を追加

⑨普及研究活動

最新の4件を追加

⑩個人情報の取扱いに関する公表事項について (1か所) HPの一番下の行の「個人情報の取扱いに関する公表事項について」のリンク先住所を削除

2) 活動予定・結果のページを新たに作成し、個々の活動予定・実績がわかるようにした。

① トップページに追加



② 活動予定・成果のページへ



③ 次ページに 2024 年度の活動の一覧表を示す。

2024年度 活動予定・成果

2024/7/26

1. リスク管理に関する公開セミナー（日本リスク学会と共催）

①第1回リスクマネージャ公開セミナー	2024.7.27	一般向け
②第2回リスクマネージャ公開セミナー	2024.11.16	一般向け
③第3回リスクマネージャ公開セミナー	2025.2.8予定	一般向け

2. 環境リスク等勉強会

①第1回地球温暖化の最新知見	2024.6.8	結果は一般公表予定
②第2回リスク学の基礎と応用	2024.8.10	結果は一般公表予定
③第3回南海トラフ地震臨時情報とリスク管理	中止(資料は紹介予定)	

3. 知の市場（講演会）9月2日～1月6日 週1回開催 以下はJRMNが担当する講演

12/9リスクマネジメントの基礎	古澤理事	受講者向け
12/23医薬品と環境	東理事	受講者向け

4. ディスカッションワークグループ（「核のゴミをどうするか」今田高俊他著を教材として）

プレ会議 ワークの進め方について	2024.5.30	会員限定
第1回 全体を読んでの意見だし	2024.7.25	会員限定
第2回 序章、1章について	2024.8.27	会員限定
第3回 2章、3章、4章について	2024.9.12	会員限定
第4回 5章、6章、7章について	2024.10.4	会員限定
第5回 終章及び全体の感想について	2024.10.25	会員限定
第6回 活動のまとめと今後について	2024.11.28	会員限定

5. 情報交換会

第1回 マンションにおけるリスク管理	2024.5.11	砂川理事担当	会員限定
第2回 リスクとリスクマネジメントの基礎	2024.7.13	古澤理事担当	会員限定
第3回 2024年版環境白書等	2024.9.14	池田監事担当	会員限定
第4回 南海トラフ地震臨時情報とリスク管理	2024.11.2	刑部理事担当	結果は一般公表予定

6. 会員交流集会

①南山城村田植え体験 (まとめのビデオ)	2024.5.4	会員限定

7. その他

①エコ縁日でのワークショップ	2024.11.9	遠藤理事	一般向け (当日の記録)
②サイエンスフェアin兵庫	2025.1.26		当日資料公開
③サイエンスフェアin兵庫アンケート結果	2025.2.15公開予定		アンケート結果

3) 会員専用ページでは、データのカテゴリーを、活動計画の項目とリンクするよう組みなおし、随時活動結果をアップした。

【会員専用ページ】

—— 精力的に取り組む事業の成果 ——

2024.9.14第3回情報交換会（2024版環境白書等）
2024.7.13第2回情報交換会（リスクマネジメントの基礎）
2024.6.8第1回環境リスク等勉強会

[もっと見る](#)

—— 継続的に取り組む事業の成果 ——

2024年第1回リスクマネージャ公開セミナー（学会との共催）
2024.7.11日本リスク学会との打合せ（共催セミナーその3）
2024.5.31日本リスク学会リスクマネージャ委員会（新規養成セミナー）

[もっと見る](#)

—— 必要に応じて取り組む事業の成果 ——

2024.11.9 ECO緑日・葉っぱで遊ぼう
2024.10.31～11.1大阪環境ネット（六ヶ所村見学会）その2
2024.8.4～5大阪環境ネット（六ヶ所村見学会）

[もっと見る](#)

—— 総会資料・内規等・様式等 ——

2024年度（令和6年度）定時総会
2024年度定款・内規など
2024年度様式・書式など

[もっと見る](#)

—— 理事会・執行理事会の結果 ——

2025年1月度理事会（1/11）
2024年12月度理事会（12/14）
2024年11月21日執行理事会

[もっと見る](#)

—— 広報・会員交流集会 ——

会員交流集会 2024.5.4 南山城村田植え体験

[もっと見る](#)

—— アーカイブ（動画記録） ——

2023春オンライン公開セミナー（光廣先生）食料安全保障
日本リスクマネージャネットワーク公開オンラインセミナー（2022年12月）食糧生産（畜産）に由来する環境リスク問題とその解決策
JRMN市民リスク学セミナー（2021.12.12）講演1『おくすりと環境』（講師 東泰好）

[もっと見る](#)

—— 未分類 ——

JRMNメールマガジン（通算78号）
JRMNメールマガジン（通算77号）
JRMNメールマガジン（通算76号）

[もっと見る](#)

4.4 広報

1) HPの利用

上記のHPの活用に示すように、トップページからは一般向けに、会員専用ページでは会員向けに積極的の広報を行った。

2) 会員へのメールでの広報

会員へのメールを広報積極的に行った。

広報の内容は「総会関係」・「理事会の開催案内（会員も参加可能）」・「ディスカッショングループ関係」、「講演会（外部団体講演会含む）」、「勉強会・意見交換会などへの参加」などであった。

3) 冊子「環境基礎論」等の活用

当会作成の冊子「環境基礎論」を配布することなどにより、環境への認識を広げることで社会貢献につながる。サイエンスフェア in 兵庫で約 50 冊配布した。

4) SNS の活用

facebook を開設し、日本リスク学会との共催セミナーの参加者募集に利用した。また、ユーチューブを開設し、日本リスク学会との共催セミナーの参加者募集や会員向けには会員交流会の様子の紹介に利用した。

Facebook、ユーチューブとも JRMN の HP のトップページにリンクがあり、容易に閲覧できる。

4.5 会計

1) 収支管理

会計については収支決算報告に示す。

2) 郵便局の振替口座の作成

年会費の振込用に、郵便局の振替口座を作成した。

【口座記号番号】 00960-8-326820

【口座名称】 一般社団法人 日本リスクマネージャネットワ (20文字制限のため)

作成郵便局 (口座からの引出し郵便局) → 大阪西本町郵便局

作成にあたっては以下の資料が必要であった。

No	書類	備考
1	振替口座加入申込書	
2	振替口座用印鑑票	
3	講座開設にあたっての口座主体確認シート	
4	取引目的等の確認のお願い	
5	印鑑証明書	
6	履歴次項全部証明書	
7	財務状況確認処理	
8	役員名簿	
9	委任状	
10	ご来店者の公的な本人確認書類	

4.6 会員交流集会

西村理事が活動している南山城村で、田植え体験等をとおして交流会を実施した。

参加者は9人で、貴重な体験ができ、会員の交流もはかられた。

活動報告書（5月4日：田植え体験を通じた交流会）

1	タイトル（テーマ）	JRMN 交流会（南山城村 田植え体験）
2	予定通り開催できたか	日時：令和6年5月4日～5日 場所：京都府相楽郡南山城村田山地区 プログラム：
3	参加者（募集）	予定：20名 結果：9名
4	参加者（主催側）	予定：2名 結果：2名 参加者名：久保田、遠藤、刑部、奥村、古澤、池田、西村 知人（現地スタッフ）：下浦、森田、大宅
5	費用（事業実施）	収入：24,500- 支出：24,304-（昼食、飲料、施設利用料） 収支結果と対応：196円は雑収入
6	JRMN負担金	科目：保険代 レクリエーション保険 金額：1,664円
7	開催趣旨・目的は達成できたか	会員間の親睦を図る交流会は、南山城村での田植え体験他を行います。 理事の方々でしたが、無理なく楽しんでいただきました。 ・宿泊組の方は、温泉と早朝の茶畑にて新茶摘みとワラビ採りをしてお持ち帰りいただいた。
8	良かった点	・遠藤理事が「CO2はかり隊の実験」二酸化炭素測定器での葉っぱの光合成実験をしていただき、31℃で光合成をしない種類の葉っぱがあったことがわかった。 ・午前中で作業が終わった。
9	反省点	・風邪で休まれことでお子さんが不参加になった。 ・集合写真を撮らなかった。
10	参加者の感想	・自然豊かな場所で田植え体験ができてよかった。 ・遠藤理事の光合成実験はよく考えられた面白い実験で短い時間にもかかわらずよく理解できた。
11	今後の展開	田植えをしたので、9月上旬に稲刈りの企画をしてはどうでしょうか。（予約で1人4000円/10kg送料込みで買える特典付き）



4.7 その他

1) 会員情報の更新

HPで会員各自が自身で会員情報の更新ができるようになっているが、登録・更新が十分ではなく、会員情報を最新にすることに取組む必要があるが、今年度は重点的に取り組む事業に時間が必要となり、実施には至らなかった。

2) 法務

昨年同様、定款に現状にそぐわなくなった箇所があり、その改正等に取り組むことをめざしたが、今年度は重点的に取り組む事業に時間が必要となり、実施には至らなかった。

3) メールマガジン

広報手法としてメールマガジンは有効であるが、今年度はHPの活用に重点を置いたため、メールマガジンについての検討は実施しなかった。

4) 内規・様式の作成

「会員に関する内規」「活動記録（一般様式）」等を作成した。